



Clavinova

取扱説明書

CLP-470
CLP-440
CLP-430
CLP-S408
CLP-S406

組み立て説明については巻末をご参照ください。

安全上のご注意

ご使用の前に、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みください。

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、お客様やほかの方々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。必ずお守りください。

お子様がご使用になる場合は、保護者の方が以下の内容をお子様にご徹底くださいますようお願いいたします。
お読みになったあとは、使用される方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

■ 記号表示について

この製品や取扱説明書に表示されている記号には、次のような意味があります。

	「ご注意ください」という注意喚起を示します。
	～しないでくださいという「禁止」を示します。
	「必ず実行」してくださいという強制を示します。

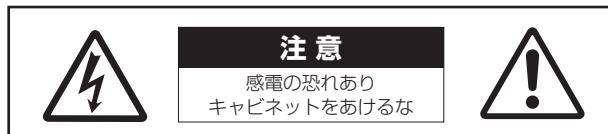
■ 「警告」と「注意」について

以下、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、「警告」と「注意」に区分して掲載しています。

 警告	この表示の欄は、「死亡する可能性または重傷を負う可能性が想定される」内容です。
 注意	この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。

■ 本体に表示されている注意マークについて

本体には、次の注意マークが付いています。



これは、以下の内容の注意を喚起するものです。

「感電防止のため、パネルやキャビネットを外さないでください。内部には、お客様が修理/交換できる部品はありません。点検や修理は、必ずお買い上げの販売店または巻末のヤマハ修理ご相談センターにご依頼ください。」

警告

電源 / 電源コード



禁止

電源コードをストーブなどの熱器具に近づけたり、無理に曲げたり、傷つけたりしない。また、電源コードに重いものをのせない。

電源コードが破損し、感電や火災の原因になります。



必ず実行

電源は必ず交流 100V を使用する。

エアコンの電源など交流 200V のものがあります。誤って接続すると、感電や火災のおそれがあります。



必ず実行

電源コード / プラグは、必ず付属のものを使用する。

ほかの電源コード/プラグを使用すると、発熱や感電の原因になります。



必ず実行

電源プラグにほこりが付着している場合は、ほこりをきれいに拭き取る。

感電やショートのおそれがあります。

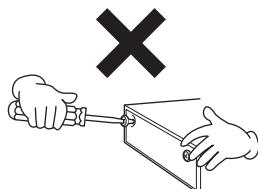
分解禁止



禁止

この製品の内部を開けたり、内部の部品を分解したり改造したりしない。

感電や火災、けが、または故障の原因になります。



水に注意



禁止

本体の上に花瓶や薬品など液体の入ったものを置かない。また、浴室や雨天時の屋外など湿気の多いところで使用しない。

内部に水などの液体が入ると、感電や火災、または故障の原因になります。入った場合は、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いた上で、お買い上げの販売店または巻末のヤマハ修理ご相談センターに点検をご依頼ください。



禁止

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。
感電のおそれがあります。

火に注意



禁止

本体の上にろうそくなど火気のあるものを置かない。

ろうそくなどが倒れたりして、火災の原因になります。

異常に気づいたら



必ず実行

下記のような異常が発生した場合、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜く。

- ・電源コード/プラグがいたんだ場合
- ・製品から異常なにおいや煙が出た場合
- ・製品の内部に異物が入った場合
- ・使用中に音が出なくなった場合

そのまま使用を続けると、感電や火災、または故障のおそれがあります。至急、お買い上げの販売店または巻末のヤマハ修理ご相談センターに点検をご依頼ください。

⚠ 注意

電源 / 電源コード



たこ足配線をしない。

音質が劣化したり、コンセント部が異常発熱して火災の原因になることがあります。

禁止



電源プラグを抜くときは、電源コードを持たずに、必ず電源プラグを持って引き抜く。
電源コードが破損して、感電や火災の原因になることがあります。



長期間使用しないときや落雷のおそれがあるときは、必ずコンセントから電源プラグを抜く。

必ず実行

感電や火災、故障の原因になることがあります。

組み立て



本書の組み立て方の説明をよく読み、手順どおりに組み立てる。

必ず実行

手順どおりに正しく組み立てないと、楽器が破損したりお客様がけがをしたりする原因になります。

設置



不安定な場所に置かない。

本体が転倒して故障したり、お客様やほかの方々がけがをしたりする原因になります。

禁止



この製品を持ち運びする場合は、必ず2人以上で行なう。

必ず実行

この製品を1人で無理に持ち上げると、腰を痛めたり、この製品が落下して破損したり、お客様やほかの方々がけがをしたりする原因になります。



必ず実行

本体を移動するときは、必ず電源コードなどの接続ケーブルをすべて外した上で行なう。

コードをいためたり、お客様やほかの方々が転倒したりするおそれがあります。



必ず実行

この製品を電源コンセントの近くに設置する。

電源プラグに容易に手の届く位置に設置し、異常を感じた場合にはすぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。また、電源スイッチを切った状態でも微電流が流れています。この製品を長時間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

接続



必ず実行

すべての機器の電源を切った上で、ほかの機器と接続する。また、電源を入れたり切ったりする前に、機器のボリュームを最小にする。

感電、聴力障害または機器の損傷の原因になります。



必ず実行

演奏を始める前に機器のボリュームを最小にし、演奏しながら徐々にボリュームを上げて、適切な音量にする。

聴力障害または機器の損傷の原因になります。

取り扱い



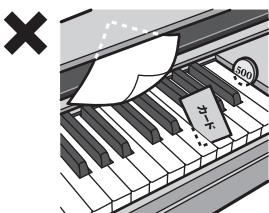
キーパーカー や本体のすき間に手や指を入れない。また、キーパーカーで指などをはさまないように注意する。

禁止 お客様がけがをするおそれがあります。



キーパーカー やパネル、鍵盤のすき間から金属や紙片などの異物を入れない。

感電、ショート、火災や故障や動作不良の原因になることがあります。



本体の上にのったり重いものをのせたりしない。また、ボタンやスイッチ、入出力端子などに無理な力を加えない。

禁止 本体が破損したり、お客様やほかの方々がけがをしたりする原因になります。



大きな音量で長時間ヘッドフォンを使用しない。

聴覚障害の原因になります。

禁止



イス



不安定な場所に置かない。

イスが転倒して、お客様やほかの方々がけがをする原因になります。

禁止



イスで遊んだり、イスを踏み台にしたりしない。

イスが転倒したりこわれたりして、お客様がけがをする原因になります。

禁止



イスには二人以上ですわらない。

イスが転倒したりこわれたりして、お客様がけがをする原因になります。

禁止



イスにすわったままでイスの高さを調節しない。

高低調節機構に無理な力が加わり、高低調節機構がこわれたりお客様がけがをしたりする原因になります。

禁止



イスのネジを定期的に締め直す。

イスを長期間使用すると、イスのネジがゆるむことがあります。ネジがゆるんだ場合は、付属のスパナで締め直してください。



イスの脚で床やたたみを傷つけないよう注意する。

イスの下にマットを敷くなどして、床やたたみを保護されることをおすすめします。

必ず実行

●データが破損したり失われたりした場合の補償はいたしかねますので、ご了承ください。

●不適切な使用や改造により故障した場合の保証はいたしかねます。

使用後は、必ず電源スイッチを切りましょう。

注記(ご使用上の注意)

製品の故障、損傷や誤動作、データの損失を防ぐため、以下の内容をお守りください。

■ 製品の取り扱いに関する注意

- ・ テレビやラジオ、ステレオ、携帯電話など他の電気製品の近くで使用しないでください。楽器本体またはテレビやラジオなどに雑音が生じる原因になります。
- ・ 直射日光のあたる場所(日中の車内など)やストーブの近くなど極端に温度が高くなるところ、逆に温度が極端に低いところ、また、ほこりや振動の多いところで使用しないでください。本体のパネルが変形したり、内部の部品が故障したり、動作が不安定になったりする原因になります(5°C~40°Cの範囲で動作することを確認しています)。
- ・ 本体上にビニール製品やプラスチック製品、ゴム製品などを置かないでください。本体のパネルや鍵盤が変色/変質する原因になります。
- ・ つや出し仕上げのモデルの場合、本体の表面に金属、陶器、その他硬い物を当てないでください。表面にひびが入ったり、はがれたりする原因になります。
- ・ 極端に温湿度が変化すると、本体表面に水滴がつく(結露する)ことがあります。水滴をそのまま放置すると、木部が水分を吸収して変形する原因になります。水滴がついた場合は、柔らかい布ですぐに拭きとってください。

■ データの保存に関する注意

- ・ 保存したデータは故障や誤操作などのために失われることがあります。大切なデータは、USB記憶装置/コンピューターなどの外部機器に保存してください。
- ・ 保存したUSB記憶装置の万一の事故に備えて、大切なデータは予備のUSB記憶装置にバックアップとして保存されることをおすすめします。

お知らせ

■ データの著作権に関するお願い

- ・ ヤマハ(株)および第三者から販売もしくは提供されている音楽/サウンドデータは、私的使用のための複製など著作権法上問題にならない場合を除いて、権利者に無断で複製または転用することを禁じられています。ご使用時には、著作権の専門家にご相談されるなどご配慮をお願いします。
- ・ この製品は、ヤマハ(株)が著作権を有する著作物やヤマハ(株)が第三者から使用許諾を受けている著作物を内蔵または同梱しています。その著作物とは、すべてのコンピュータープログラムや、伴奏スタイルデータ、MIDIデータ、WAVEデータ、音声記録データ、楽譜や楽譜データなどのコンテンツを含みます。ヤマハ(株)の許諾を受けることなく、個人的な使用の範囲を超えて上記プログラムやコンテンツを使用することについては、著作権法等に基づき、許されていません。

■ 製品に搭載されている機能/データに関するお知らせ

- ・ 内蔵曲は、曲の長さやイメージが原曲と異なる場合があります。

■ 取扱説明書の記載内容に関するお知らせ

- ・ この取扱説明書に掲載されているイラストや画面は、すべて操作説明のためのものです。したがって、実際の仕様と異なる場合があります。
- ・ Windowsは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
- ・ MacまたはMacintoshは、米国および他の国々で登録されたApple Inc.の商標です。
- ・ MIDIは社団法人音楽電子事業協会(AMEI)の登録商標です。
- ・ その他、本書に記載されている会社名および商品名等は、各社の登録商標または商標です。

このたびは、ヤマハクラビノーバをお買い求めいただきまして、誠にありがとうございました。

この楽器の優れた機能を十分に生かして演奏をお楽しみいただくなため、本書をお読みください。

また、お読みになったあとも、いつでもご覧になれるところに大切に保管してください。

付属品(お確かめください)

- 取扱説明書(本書)
- ピアノで弾く名曲50選(楽譜集)
- 保証書
- ユーザー登録のご案内
 - * ユーザー登録の際に必要となるプロダクトIDが記載されています。
- 電源コード
- ヘッドフォン
- 高低自在イス

取扱説明書について

この楽器には、以下の説明書が用意されています。

■ 冊子マニュアル



取扱説明書(本書)

クラビノーバの機能や使いかたを説明しています。

・基本編

ご使用前の準備について説明しています。簡単な準備だけでピアノ演奏を楽しめます。さっそく音を出してみましょう。

・応用編

内蔵曲を再生したり、演奏を録音するなど、練習に役立つ機能について説明しています。

・詳細設定編

クラビノーバをさらに便利に使いこなすための細かい設定について説明しています。

・付録

メッセージ一覧や音色一覧などの資料を掲載しています。

本書の見かた

例

470 | 440 | 430 | S408 | S406

特定のモデルにだけ搭載された機能であることを示します。
ここで説明している機能はCLP-470、440、430にはあります
が、CLP-S408、S406にはありません。

■ PDFマニュアル



MIDIデータフォーマット

MIDIデータフォーマットやMIDIインプリメンテーションチャートが掲載されています。



MIDI入門

MIDIについての詳細や使いかたを説明しています。

ヤマハマニュアルライブラリーのウェブサイトからご覧いただけます。インターネットに接続して以下のウェブサイトを開き、「モデル名から検索」テキストボックスにモデル名(「CLP-470」など)を入力して「検索」をクリックします。

ヤマハマニュアルライブラリー
<http://www.yamaha.co.jp/manual/>

特長

グランドピアノに迫る表現力「リアルグランドエクスプレッション(RGE)音源」

コンサートグランドピアノを演奏するような弾きごたえと表現力が楽しめる音源です。タッチの強弱にあわせて音色が変化するだけでなく、スタッカートで弾いたときには歯切れよく、ゆっくりと指を離したときには長く余韻を残すという音切れの違いまで再現できる「スムースリリース」を新搭載。ピアノ演奏の本質を徹底的に追求し、グランドピアノらしい豊かな表現力を生んでいます。

進化したタッチと表現力「グレードハンマー3(GH3)鍵盤」(CLP-430)、「グレードハンマー3(GH3)鍵盤象牙調仕上げ」(CLP-440/S406)

鍵盤の重さ(低音部は重く、高音部は軽く)などをグランドピアノに近づけたことにより、従来の電子ピアノを超える弾き心地が楽しめます。また、グランドピアノと同様にペダルを踏まずに音をつなげる奏法や高速の同音連打も可能です。さらにCLP-440/S406では象牙調仕上げを採用し、象牙に近い適度な吸湿性があるので、指がすべりにくく、しなやかなタッチ感が得られます。また、温かい色合いも魅力です。

自然な弾き心地を実現した「ナチュラルウッド(NW)鍵盤象牙調仕上げ」+「リニアグレードハンマー」(CLP-470/S408)

GH3鍵盤象牙調仕上げの特長に加え、アコースティックピアノの鍵盤と同様に、白鍵の内側には木材を使用し、またすべての鍵盤のハンマーの重さが違うリニアグレードハンマーを採用しています。より自然でグランドピアノのような重量感のある弾き心地が楽しめます。

USBフラッシュメモリーからオーディオファイルを再生/録音

USBフラッシュメモリーなどのUSB記憶装置に入っているオーディオファイル(.wav)を楽器で再生できます。また、ご自分の演奏をオーディオファイル(.wav)としてUSBフラッシュメモリーに録音することもできるので、コンピューターを使って携帯音楽プレーヤーなどに転送し、演奏を聞くことができます。

目次

安全上のご注意	2
注記(ご使用上の注意)	6
付属品(お確かめください)	7
取扱説明書について	7
特長	8

基本編

各部の名前と機能	10
ピアノとして演奏する	12
キーパーについて	12
譜面立てを使う	13
譜面止めを使う	14
電源を入れる	14
音量を調節する[MASTER VOLUME] (マスター・ボリューム)	15
ヘッドフォンを使う	15
スピーカーのオン/オフを切り替える	15
ペダルを使う	16
タッチ感度を変える[TOUCH](タッチ)	17
メトロノームを使う[METRONOME] (メトロノーム)	18
クラビノーバのお手入れ	19

応用編

いろいろな楽器音(音色)で演奏する	20
音色を選ぶ	20
音色デモ曲を聞く	20
音に変化を付ける[BRIILLIANCE](ブリリアンス)/ [REVERB](リバーブ)/[EFFECT](エフェクト)	21
キー(調)を変える[TRANSPOSE] (トランスポーズ)	22
2つの音色を重ねる(デュアル)	23
鍵域を左右に分けて別々の2つの音色で弾く[SPLIT] (スプリット)	24
曲(ソング)を再生する	26
この楽器で再生できるソング	26
ソングを再生する	27
再生に関する便利な機能	28
右手または左手パートだけを再生する (MIDIソング)	29
繰り返し再生する(MIDIソング)	30
演奏を録音する	31
パートを指定せずに録音する (MIDI/オーディオ録音)	31
パートを指定して録音する(MIDI録音)	33

録音した演奏を削除する(MIDI録音)	34
録音後に音色やテンポなどを変更する (MIDI録音)	34
ソングファイルを操作する	36
MIDIソングを再生しながらオーディオソングに変換 する	37
楽器に録音したユーザーソングをUSB記憶装置に コピーする	38
USB記憶装置内のソングを削除する	38
USB記憶装置をフォーマット(初期化)する	39
他の機器と接続する	40
端子について	40
USB記憶装置を接続する	42
コンピューターと接続する	43
外部MIDI機器と接続する	44

詳細設定編

各種の便利な設定をする[FUNCTION]	
(ファンクション)	45
ファンクションでの基本操作	46
各ファンクション項目の説明	47
初期設定(工場出荷時の状態)に戻す	54

付録

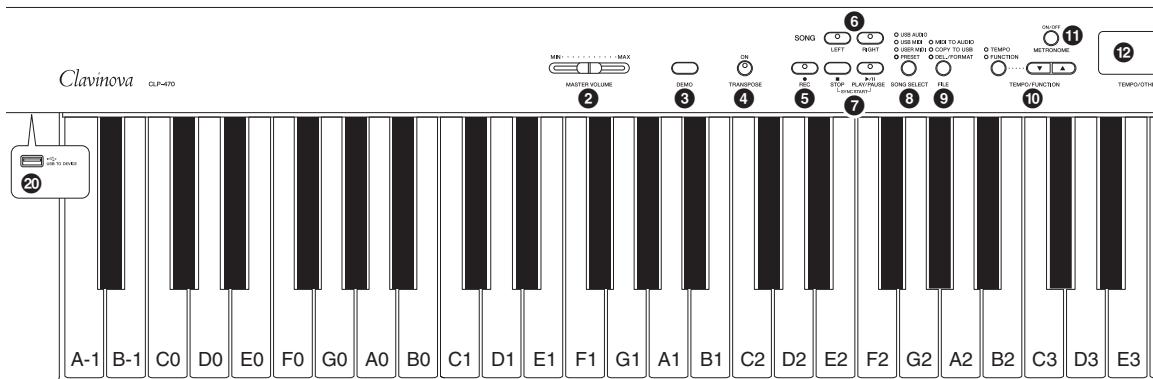
メッセージ一覧	55
困ったときは	56
音色一覧	57
初期設定一覧	60
ファンクション	60
クラビノーバを組み立てる	62
組み立て時の注意	62
CLP-470の組み立てかた	63
CLP-440/430の組み立てかた	66
CLP-S408の組み立てかた	69
CLP-S406の組み立てかた	72
仕様	76
索引	78
保証とアフターサービス	83

基本編

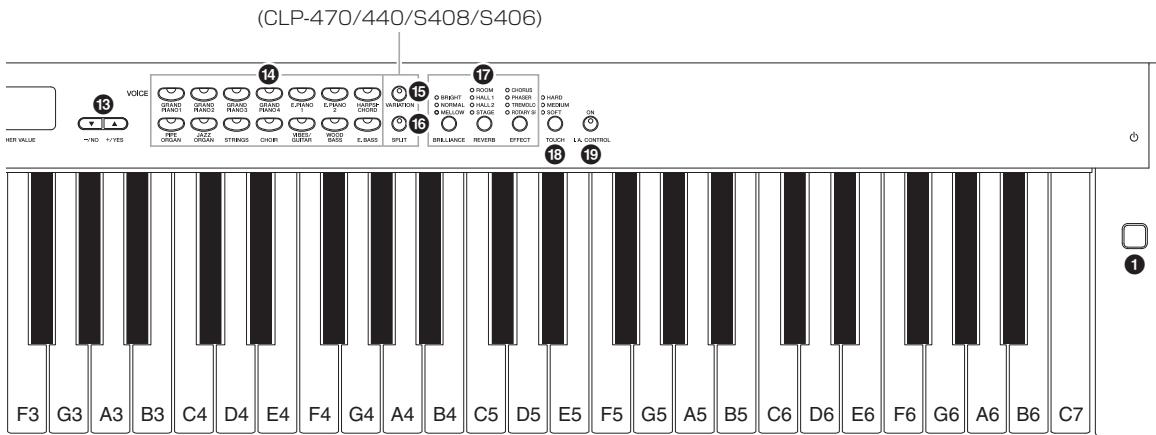
各部の名前と機能

操作パネル

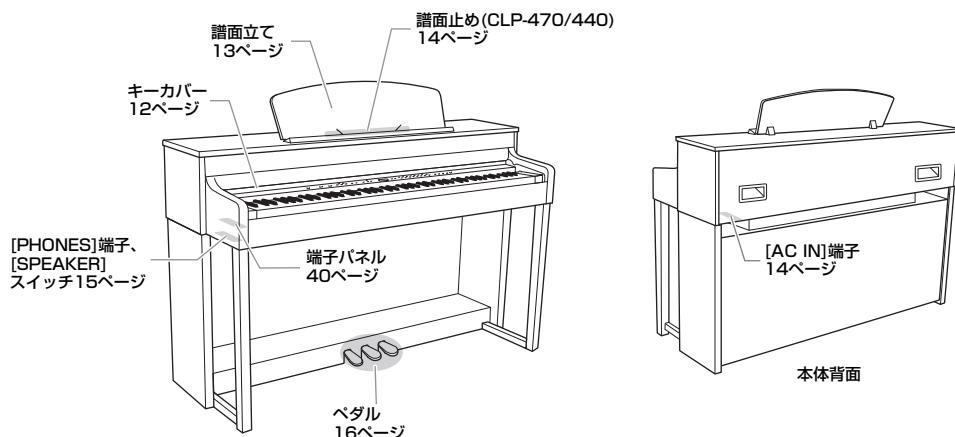
これはCLP-470のイラストです。



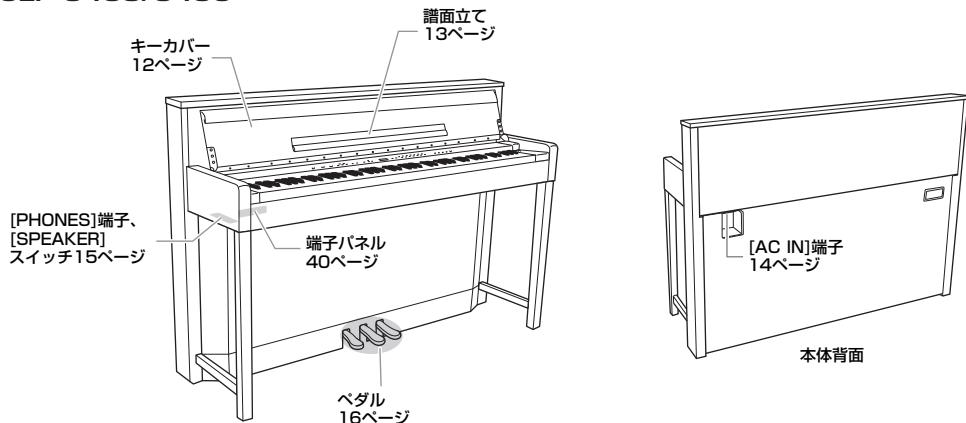
- ① [電源スイッチ] 14ページ
マスター ボリューム
- ② [MASTER VOLUME]スライダー 15ページ
楽器全体の音量を調節します。
- ③ [DEMO]ボタン 20ページ
音色ごとのデモ曲を再生します。
- ④ [TRANSPOSE]ボタン 22ページ
トランスポーズ
弾く鍵盤を変えずに、他の楽器や歌う人の声の高さに合わせて、キー(調)を簡単に変えられます。
- ⑤ [REC]ボタン 31ページ
レコード
ご自身の演奏を録音します。
- ⑥ [RIGHT], [LEFT]ボタン 29ページ
ライト レフト
曲の特定のパートを再生オフにし、再生オフにしたパートをご自身で練習できます。
- ⑦ [PLAY/PAUSE], [STOP]ボタン 27ページ
プレイ ポーズ ストップ
楽器本体に入っているピアノソング50曲や、録音した演奏を、再生したり停止したりします。
- ⑧ [SONG SELECT]ボタン 27ページ
ソング セレクト
再生や録音する曲を選びます。
- ⑨ [FILE]ボタン 36ページ
ファイル
録音した曲をUSB記憶装置にコピーするなどのファイル操作をします。USB記憶装置のフォーマットもできます。
- ⑩ [TEMPO/FUNCTION],
[TEMPO/FUNCTION ▼ ▲]ボタン 18, 46ページ
テンポを調節したり、各種の便利な機能を利用したりします。
- ⑪ [METRONOME]ボタン 18ページ
メトロノームを鳴らします。
- ⑫ 画面 14ページ
注記
「-」が流れで表示されているとき(データアクセス中)は、電源を切らないでください。データが壊れるおそれがあります。
- ⑬ [-/NO], [+/YES]ボタン 20ページ
数値を設定したり曲や項目を選んだりします。テンポやトランスポーズなどの値を設定しているときにボタンを2つ同時に押すと、元の値(初期設定値)に戻せます。
- ⑭ 音色ボタン 20ページ
バイエーション
音色を選びます。
- ⑮ [VARIATION]ボタン(CLIP-470/440/S408/S406) 20ページ
選ばれている音色の表情を変えられます。
- ⑯ [SPLIT]ボタン(CLIP-470/440/S408/S406) 24ページ
スプリット
鍵盤を左右の領域に分けて、別々の音色で演奏できます。
- ⑰ [BRILLIANCE], [REVERB], [EFFECT]ボタン 21ページ
ブリリアンス リバーブ エフェクト
音の明るさを調節したり(ブリリアンス)、音に残響(リバーブ)や、効果(エフェクト)をかけたりします。
- ⑱ [TOUCH]ボタン 17ページ
タッチ
弾く強さに対する音の強弱の付きかた(タッチ感度)を調節します。
- ⑲ [A. CONTROL]ボタン 15ページ
アイ エー コントロール
音量の大小に合わせて、音質が自動的に補正されます。
- ⑳ [USB TO DEVICE]端子 42ページ
トゥー デバイス
USB記憶装置を接続して、録音した曲を保存したり、記憶装置に入っているデータを楽器本体で再生します。



CLP-470/440/430



CLP-S408/S406



ピアノとして演奏する

この楽器では、ペダルを使ってアコースティックピアノと同様の演奏ができます。また、ピアノ演奏に役立つメトロノーム機能も紹介しています。付属の「ピアノで弾く名曲50選(楽譜集)」もご活用ください。

キーカバーについて

⚠ 注意

- ・キーカバーを開閉するときは、両手でゆっくりと行なってください。また、ご自分や周りの方、特にお子様などが、キーカバーの縁と本体の間に手や指をはさまないようご注意ください。
- ・キーカバーを開けるとき、キーカバーの上に金属や紙片などを置かないでください。本体の内部に落ちて取り出せなくなり、感電、ショート、発火や故障などの原因になります。

注記

- ・[USB TO DEVICE]端子に別売のUSB記憶装置を接続している場合は、キーカバーを閉める前に外してください。USB記憶装置を接続したままキーカバーを閉じると、記憶装置がキーカバーに当たって破損するおそれがあります。
- ・(CLP-S408/S406)傷防止のため、本体移動時は鍵盤保護シート(69、72ページ)で鍵盤全体を覆ってからキーカバーを閉じてください。鍵盤保護シートは、移動の際必要となりますので保管してください。

470 | 440 | 430 | S408 | S406

開けるとき

少し持ち上げて奥へ押し込むと、操作パネルが見え、キーカバーが完全に開いた状態になります。鍵盤演奏だけでなく、操作パネルを使って、音色を選んだり、ソングを再生/録音したりできます。



閉めるとき

手前に引いて、静かに降ろします。

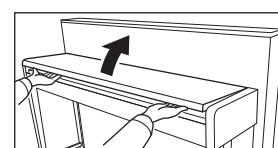
鍵盤だけが見え操作パネルが隠れた状態で、キーカバーを止めることもできます。アコースティックピアノのような感覚でお使いいただけます。



470 | 440 | 430 | S408 | S406

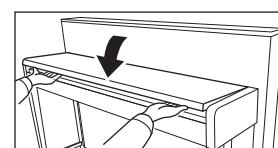
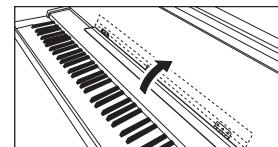
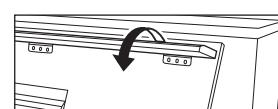
開けるとき

1. 手前のくぼみに手をかけてキーカバーを持ち上げます。
2. キーカバーの上部を折りたたみます。



閉めるとき

1. 譜面立てが開いてるときは譜面立てを閉じます(鍵盤の傷防止)。
2. キーカバーの上部を開き、キーカバーの上部を持って手前にゆっくり倒します。

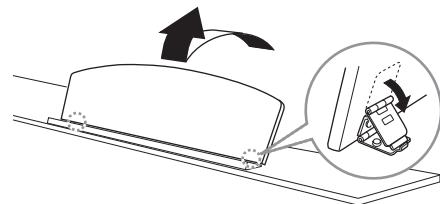


譜面立てを使う

470 | 440 | 430 | S408 | S406

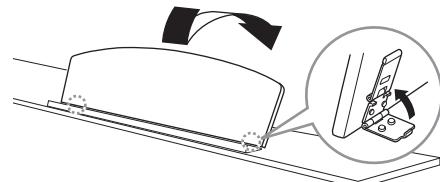
立てるとき

1. 譜面立てを、止まる位置まで手前に起こします。
2. 譜面立て裏にある左右2つの金具を下ろします。
3. 金具が固定される位置まで、譜面立てを戻します。



倒すとき

1. 譜面立てを、止まる位置まで手前に起こします。
2. 譜面立て裏にある左右2つの金具を上げます。
3. 譜面立てに手を添えて、ゆっくり戻します。



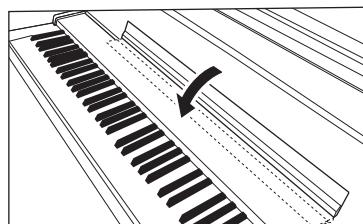
⚠ 注意 金具が固定されていない位置で譜面立てを使用したり、放置したりしないでください。また、譜面立てを立てたり倒したりするときは、途中で手を離さないでください。

470 | 440 | 430 | S408 | S406

キーボードの内側に譜面立てが付いています。

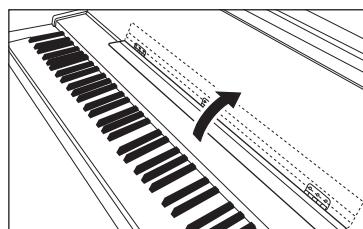
使うとき

キーボードに付いている譜面立てを、手前に倒します。



しまうとき

譜面立てを、キーボード側へ戻します。

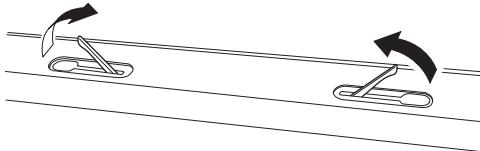


譜面止めを使う

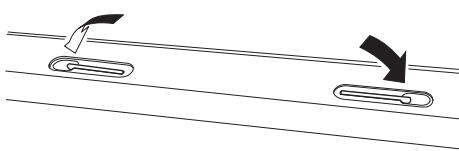
470 | 440 | 430 | S408 | S406

譜面立てに置いた楽譜のページを止めることができます。

使うとき



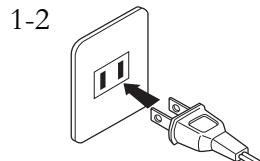
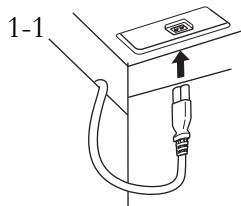
しまうとき



電源を入れる

1. 電源コードを接続する

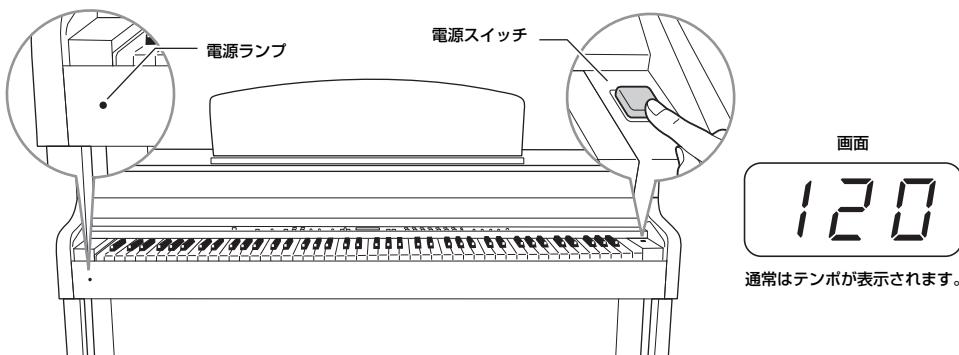
最初に本体側のプラグを[AC IN]端子に差し込み、次にコンセント側(家庭用AC100V)のプラグを差し込みます。[AC IN]端子の位置は「各部の名前と機能」(11ページ)でご確認ください。



2. 電源を入れる

鍵盤右の[電源]スイッチを押すと、電源が入ります。

本体パネル中央の画面に表示が現れ、本体前面左の電源ランプが点灯します。



電源ランプについて

電源を切り忘れてキークリーブーを閉めてしまった場合、電源ランプの点灯により、電源が入ったままであることを知らせてくれます。

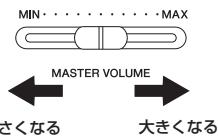
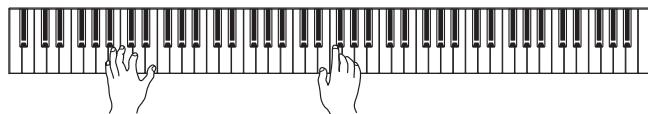
電源を切るときは、もう一度電源スイッチを押します。

画面の表示が消え、本体前面左の電源ランプも消灯します。

⚠ 注意 電源が切れた状態でも微電流が流れています。楽器を長時間使用しないときは、必ずコンセントから電源プラグを抜いてください。

音量を調節する[MASTER VOLUME](マスター・ボリューム)

本体パネル左の[MASTER VOLUME]スライダーで調節します。実際に鍵盤を弾いて音を出しながら、音量を調節してください。



MASTER VOLUME=全体の音量

[MASTER VOLUME]スライダーを動かすと、[PHONES]端子やAUX OUT端子の出力レベルも変更されます。

△ 注意 大きな音量で長時間使用しないでください。聴覚障害の原因になります。

I. A. コントロール(インテリジェント アコースティック コントロール)

インテリジェント アコースティック コントロール

I. A. コントロール (Intelligent Acoustic Control)とは、楽器の全体音量の大小に応じて、自動的に音質を補正する機能です。音量が小さい場合でも、低音や高音がしっかりと聞こえるようになります。



I. A. CONTROL

[I. A. CONTROL]ボタンを押すごとにオン/オフが切り替わります。オンにするとランプが点灯します。

I. A. コントロールは、この楽器のスピーカーからの出力音のみに有効です。

補正のかかり具合を変える

[I. A. CONTROL]ボタンを押している間は画面に補正のかかり具合の値が表示されます。

[I. A. CONTROL]ボタンを押したまま、[-/NO]/[+/YES]ボタンを押すと、値(-3~0~3)が変わります。値が大きいほど、音量が小さいときの低音や高音がよりしっかりと聞こえるように補正されます。

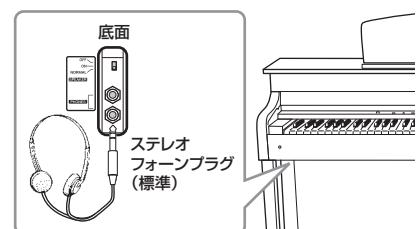
[I. A. CONTROL]ボタンを押したまま、[-/NO]と[+/YES]ボタンを同時に押すと、初期設定(0)に戻ります。

ヘッドフォンを使う

フォーンズ
ヘッドフォンを[PHONES]端子に接続して使います。[PHONES]端子は2つありますので、ヘッドフォンを2本接続して2人で演奏を楽しむこともできます。
1本だけ接続する場合は、どちらの端子をご使用いただいても構いません。

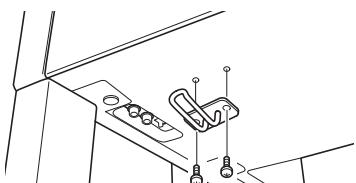
△ 注意 大きな音量で長時間ヘッドフォンを使用しないでください。
聴覚障害の原因になります。

別売ヘッドフォン
ヤマハヘッドフォン HPE-160



ヘッドフォンハンガー

付属のヘッドフォンハンガーを取り付けると、本体にヘッドフォンを掛けられます。付属のネジ(4×10mm) 2本で、図のように取り付けてください。

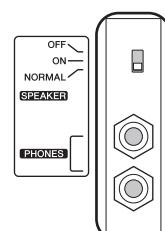


注記
ヘッドフォンハンガーにヘッドフォン以外のものを掛けないでください。
本体またはヘッドフォンハンガーが破損する場合があります。

スピーカーのオン/オフを切り替える

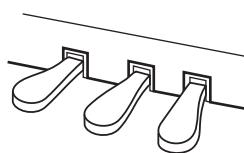
スピーカー
[SPEAKER]スイッチで、本体スピーカーのオン/オフを切り替えます。

ノーマル ヘッドフォンが接続されていないときだけスピーカーが鳴ります。
ON 常にスピーカーが鳴ります。
OFF スピーカーは鳴りません。



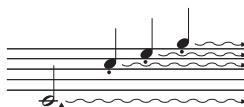
ペダルを使う

ペダルには、右のペダル(ダンパー・ペダル)とまん中のペダル(ソステヌート・ペダル)、左のペダル(ソフト・ペダル)があります。



右のペダル(ダンパー・ペダル)

このペダルを踏むと、鍵盤から指を離しても音が長く響きます。グランドピアノの音色で、ダンパー・ペダルを踏むと、踏んだときの響板や弦の共鳴効果が加わります。共鳴効果のかかり具合については、ファンクション(45ページ)で設定できます。



ここでダンパー・ペダルを踏むと、このとき押さえていた鍵盤とそのあと弾いた音すべてが長く響く

ハーフペダル機能

ダンパー・ペダルを踏んでいない状態と、完全に踏み込んだ状態の中間の状態を「ハーフペダル」といい、グランドピアノのダンパーが弦に触れるか触れないかの微妙な状態を指します。この楽器のダンパー・ペダルはハーフペダルに対応しており、どの程度踏み込んだらハーフペダル効果がかかるか(ハーフペダルポイント)を、ファンクション(45ページ)で設定できます。

GPレスポンスダンパー・ペダル

470 | 440 | 430 | S408 | S406

CLP-470/S408のダンパー・ペダルは、ペダルを踏んだときの感覚をよりグランドピアノに近づけたGPレスポンスダンパー・ペダルです。ハーフペダルのポイントを体感しやすく、ハーフペダル効果をかけやすいのが特長です。楽器の設置場所など状況によって、踏み心地が異なる場合があるので、必要に応じて、ファンクション(45ページ)でハーフペダルポイントを好みの状態に設定してください。

NOTE

ペダルには、工場出荷時にビニール袋をかぶせてあります。GPレスポンスダンパー・ペダル搭載モデルの場合、ペダル効果を最大にするため、ビニール袋を外してください。

まん中のペダル(ソステヌート・ペダル)

このペダルを踏んだときに押さえていた鍵盤の音だけが、鍵盤から指を離しても長く響きます。オルガンやストリングス、クワイアなどの音色では、鍵盤を弾いたままソステヌート・ペダルを踏むと、鍵盤から指を離しても音が減衰せず、踏んでいる間鳴り続けます。ペダルを踏んだあとに弾いた音には効果はかかりません。



ここでソステヌート・ペダルを踏むと、このとき押さえていた鍵盤の音だけが長く響く

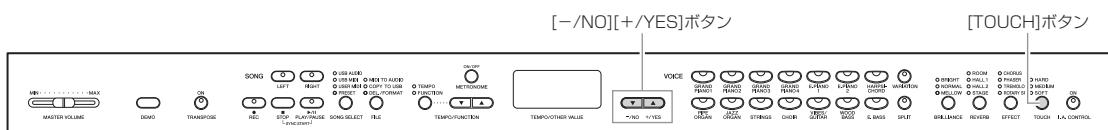
左のペダル(ソフト・ペダル)

このペダルを踏んでいる間、ペダルを踏んだあとに弾いた鍵盤の音量をわずかに下げ、音の響きを柔らかくします。ペダルを踏んだときに押さえていた鍵盤の音には効果はかかりませんので、効果をかけたい場合は、ペダルを踏んでから鍵盤を弾きます。

NOTE

JAZZ ORGAN音色を選ぶと、[EFFECT](22ページ)のROTARY SPが自動的に選ばれ、左ペダルは、ロータリースピーカーの回転の速い/遅いを切り替える機能に変わります。

タッチ感度を変える[TOUCH](タッチ)



[TOUCH]ボタンを押すごとに、弾く強さに対する音の強弱の付きかた(タッチ感度)が切り替わります。使う音色や演奏する曲、好みによって使い分けてください。

ハード 強いタッチで弾かないと大きい音が出にくい設定です。

ミディアム 標準的なタッチです。

ソフト 軽いタッチで大きい音を出すことができます。

フィックス
FIXED タッチによる音の強弱は付かず、一定の音量が出ます。その場合の音量を任意に設定することもできます。FIXEDが選ばれているときは、どのランプも点灯しません。

NOTE
鍵盤の重さ自体は変わりません。

初期設定
MEDIUM

NOTE
タッチ感度の種類は全音色に共通の設定です。ただし、音色によっては、鍵盤を弾く強さ(タッチ)に応じた音の強弱が付かないものがあります。「音色一覧」(57ページ)をご参照ください。

NOTE
FIXEDの場合の音量も全音色に共通の設定です。

設定範囲
1(最小音量)～127(最大音量)

初期設定
64

FIXEDの場合の音量を変える

FIXEDを選んでいるとき(どのランプも点灯していないとき)、[TOUCH]ボタンを押している間は画面に音量を示す値が表示されます。

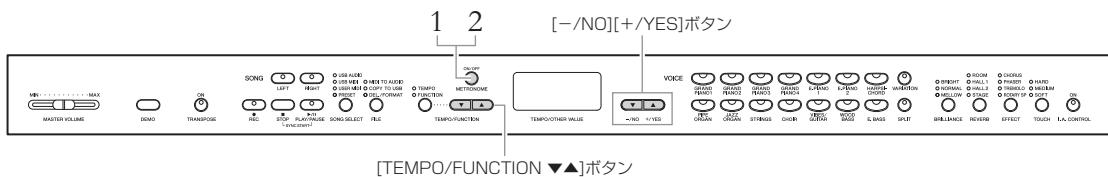
[TOUCH]ボタンを押したまま[−/NO]/[+/YES]ボタンを押すと、音量を示す値(1～127)が変わります。

[TOUCH]ボタンを押したまま、[−/NO]と[+/YES]ボタンを同時に押すと、初期設定(64)に戻ります。



メトロノームを使う[METRONOME](メトロノーム)

この楽器は、メトロノーム(ピアノの練習でよく使われる正確なテンポを刻む道具)を備えています。ご使用ください。



1. メトロノームを鳴らす

[METRONOME]ボタンを押すと、メトロノームが鳴ります。

120

メトロノームが鳴っている間、テンポに合わせて点滅します。

テンポの調節

TEMPOのランプが消灯している場合は、[TEMPO/FUNCTION]ボタンを押して、TEMPOランプを点灯させてください。その状態で、[TEMPO/FUNCTION ▼▲]ボタンを押し、テンポ値(5~500 [1分間の拍数])を変えます。[▼]と[▲]ボタンを同時に押すと初期設定(120)に戻ります。

拍子の設定

[METRONOME]ボタンを押している間は画面に拍子が表示されます。

[METRONOME]ボタンを押したまま、[-/NO]/[+/YES]ボタンを押して拍子(0~15)を設定します。たとえば4拍子の場合には「4」に設定します。

1拍目に「チーン」と鳴りその他の拍では「カチ」と鳴ります。

0に設定したときは「チーン」と鳴らずに、すべての拍で「カチ」と鳴ります。

[METRONOME]ボタンを押したまま、[-/NO]と[+/YES]ボタンを同時に押すと、初期設定(0)に戻ります。

4

拍子

メトロノームの音量はファンクション(45ページ)で設定できます。

MIDIソングを選んだ場合(26ページ)
MIDIソングは、テンポや拍子の初期設定が、ソングごとに異なります。
MIDIソングを選ぶと、ここでの設定はキャンセルされ、選択したソング固有のテンポや拍子に切り替わります。

2. メトロノームを止める

[METRONOME]ボタンを押すと、メトロノームは止まります。

クラビノーバのお手入れ

クラビノーバをいつまでもきれいに保つため、下記のお手入れを定期的に行なうことをおすすめします。

■ 本体やイスのお手入れ

- 乾いたガーゼのような柔らかい布や、水を固く絞った柔らかい布で拭いてください。
鍵盤の頑固な汚れには「エレクトーン・クラビノーバ用鍵盤クリーナー」をお使いください。

注記 ベンジンやシンナー、洗剤、化学ぞうきんなどは使用しないでください。変色/変質の原因になります。

(つや出し仕上げモデルの場合)本体にほこりや手あかが付いた場合は、乾いたガーゼのような柔らかい布で軽くふき取ってください。強く拭くと、ほこりの粒子で本体の表面に傷がつく場合があります。つやを保つためには、ユニコンをピアノクロスに含ませてムラなく拭き、別の布で伸ばすように磨き上げます。ユニコンは楽器店などでお買い求めいただき、使用上の注意をよくご確認のうえご使用ください。

- 本体やイスのネジは、定期的に締め直してください。

■ イスの高さ調節

ハンドルを時計回りに回すと高くなります。(ご購入時には、ハンドルは固めに設定されています。)

■ ペダルのお手入れ

ペダルは一般的なアコースティックピアノ同様、経年変化によって変色することがあります。
その際はピアノ用コンパウンドを楽器店などでお買い求めいただき、使用上の注意をよくご確認のうえご使用ください。

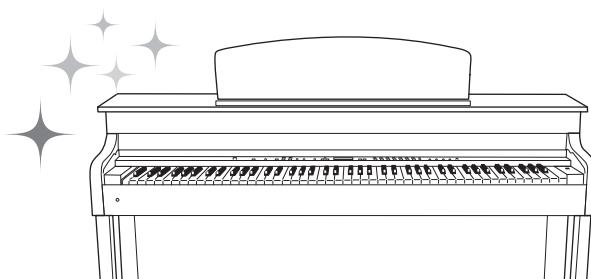
■ 調律

調律の必要はありません。電源を入れるといつでも正しいピッチ(音の高さ)でお使いいただけます。

■ 運搬方法

通常の荷物と一緒に運びいただけます。組み立てた状態でも、組み立て前の部品に分解した状態でも問題ありませんが、本体は立てかけたりせず、必ず水平に置いてお運びください。また、大きな振動、衝撃を与えないでください。組み立てた状態でお運びいただいた場合は、設置の際、各部のネジのゆるみを確認し、ゆるんでいる場合は締め直してください。

注記 (CLP-S408/S406) 傷防止のため、本体移動時は鍵盤保護シート(69、72ページ)で鍵盤全体を覆ってからキーカバーを閉じてください。鍵盤保護シートは、移動の際必要となりますので保管してください。

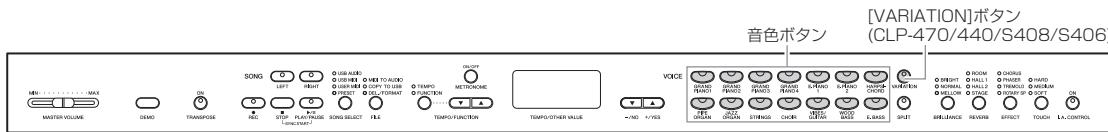


応用編

いろいろな楽器音(音色)で演奏する

ピアノのほかに、オルガンや弦楽器などの楽器音(音色)を選んで弾くことができます。

音色を選ぶ



音色ボタンを押してランプを点灯させます。鍵盤を弾いて音を出してみましょう。

バリエーション [VARIATION]

470 | 440 | 430 | S408 | S406

現在選ばれている音色の表情を変えます。[VARIATION]ボタンまたは選ばれている音色ボタンを押すごとに、オン/オフが切り替わります。オンにするとランプが点灯します。音色ごとのバリエーションの特徴については、「音色一覧」(57ページ)をご参照ください。

強弱の付かない音色

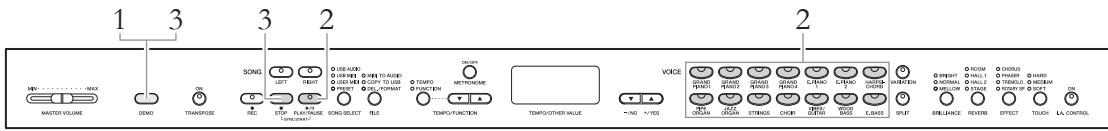
音色によっては、鍵盤を弾く強さ(タッチ)に応じた音の強弱が付かないものがあります。「音色一覧」(57ページ)をご参照ください。

音色デモ曲を聞く

音色の特徴をつかむために、音色ごとのデモ曲を聞いてみましょう。また、「音色一覧」(57ページ)もご参照ください。

音色	曲名	作曲者	CLP-470/440/ S408/S406	CLP-430
GRAND PIANO1	ワルツ 第2番 「華麗なるワルツ」	F. F. ショパン	○	○
GRAND PIANO2	6つの小品 第2番 間奏曲 op.118-2	J. ブラームス	○	○
HARPSICHORD	チェンバロ協奏曲 第7番 BWV.1058	J. S. バッハ	○	○
PIPE ORGAN/ PIPE ORGAN1	オルガン小曲集 「神のひとり子なる主キリスト」 BWV.601		○	○
PIPE ORGAN2	トリオ ソナタ 第6番 BWV.530		—	○

上記デモ曲は、原曲を編集/抜粋したものです。その他のデモ曲は、ヤマハのオリジナルです。(© 2011 Yamaha Corporation)



1. [DEMO]ボタンを押して、デモ曲モードに入る

音色ボタンのランプ群が流れるように点滅します。

2. 選曲する/再生をスタートさせる

聞きたいデモ曲の音色ボタンを押します。デモ曲の再生がスタートし、ストップするまで順番に別の音色のデモ曲が連続して再生されます。音色ボタンを押さずにいると、自動的に GRAND PIANO1の曲の再生がスタートします。

3. 再生をストップしてデモ曲モードを抜ける

[DEMO]ボタンか [STOP]ボタンを押します。

再生途中に曲を一時停止させるとときには、[PLAY/PAUSE]ボタンを押します。

モードとは

ある機能を実行できる状態を意味します。ここでは、デモ曲を再生できる状態のことを「デモ曲モード」と呼んでいます。

NOTE

録音モード(32ページ)やファイル操作モード(37ページ)のときはデモ曲モードに入れません。

NOTE

デモ曲の再生データはMIDI送信されません。また、デモ曲モードではMIDI受信を行いません。

NOTE

デモ曲では、テンポの調節や「パート再生」(29ページ)、「繰り返し再生」(30ページ)はできません。

ピアノデモ(各サンプリング技術)を聞き比べる

470 | 440 | 430 | S408 | S406

ピアノ音色の各サンプリング技術を紹介したピアノデモを再生できます。

[DEMO]ボタンを押したあと、[VARIATION]ボタンを押します。次に、聞きたいピアノデモの割り当てられた音色ボタンを押します。ピアノデモは、下記の音色ボタンに割り当てられています。

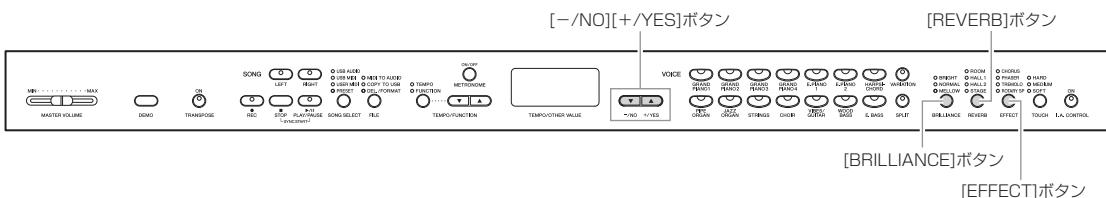
ピアノデモ(サンプリング技術)	音色ボタン
ステレオサンプリング	GRAND PIANO1
モノサンプリング	GRAND PIANO2
サステインサンプリング	GRAND PIANO3
	GRAND PIANO4
キーオフサンプリング	E.PIANO1
	E.PIANO2
ストリングレゾナンス	HARPSICHORD
	PIPE ORGAN

再生をストップするには、[DEMO]ボタンか[STOP]ボタンを押します。

NOTE

各サンプリングの説明や、どの音色にサンプリングがかけられるかは、「音色一覧」(57ページ)を確認してください。また、サンプリングのかかり具合を設定する方法は、50ページをご参照ください。

音に変化を付ける[BRIILLIANCE](ブリリアンス)/[REVERB](リバーブ)/[EFFECT](エフェクト)



ブリリアンス [BRIILLIANCE]

[BRIILLIANCE]ボタンを押すごとに、楽器全体の音質が切り替わります。

ブライ特
BRIGHT 明るく鋭い音

ノーマル
NORMAL 標準的な音

メロー
MELLOW 柔らかくまろやかな音

2つのランプが点灯している場合は、2つの中間の音質になります。たとえば、NORMALとMELLOWのランプが両方点灯していたら、NORMALとMELLOWの中間の音質になります。

リバーブ [REVERB]

[REVERB]ボタンを押すごとに、楽器全体の残響効果の種類が切り替わります。選ばれている効果のランプが点灯し、オフの場合はどのランプも点灯しません。各効果により、その場所で演奏しているような臨場感を味わえます。効果のかかり具合を変えることもできます。

オフ リバーブはかかりません。GRAND PIANO1～GRAND PIANO4の音色ではリバーブがオフの場合でもピアノの響板の響きを残すようになっています。

ルーム
ROOM 部屋の中にいるような響きになります。

ホール
HALL1 小さいコンサートホールにいるような響きになります。

ホール
HALL2 大きいコンサートホールにいるような響きになります。

ステージ
STAGE ステージにいるような響きになります。

初期設定

NORMAL

NOTE

BRIGHTにすると、音量が少し大きくなります。音量(マスター音量)が大きくなっていると音がひずむことがありますので、音量を少し下げてご使用ください。

初期設定

音色ごとにリバーブの種類(オフも含む)やかかり具合が設定されています。

効果のかかり具合を変える

[REVERB]ボタンを押している間は画面にリバーブのかかり具合の値が表示されます。

[REVERB]ボタンを押したまま、[−/NO]/[+/YES]ボタンを押すと、値(0~20)が変わります。

[REVERB]ボタンを押したまま、[−/NO]と[+/YES]ボタンを同時に押すと、初期設定に戻ります。

[EFFECT] [エフェクト]

[EFFECT]ボタンを押すごとに、楽器全体の音にかかる効果の種類が切り替わります。選ばれている種類のランプが点灯し、オフの場合どのランプも点灯しません。効果のかかり具合を変えることもできます。

オフ エフェクトはかかりません。

コーラス
CHORUS 広がり感を付けます。

フェイザー
PHASER うねりを持たせます。

トレモロ
TREMOLO 音量を揺らします。

ロータリースピーカー
ROTARY SP ロータリースピーカー(回転スピーカー)を使っているようなビブラート感が得られる効果です。

効果のかかり具合を変える

[EFFECT]ボタンを押している間は画面にエフェクトのかかり具合の値が表示されます。

[EFFECT]ボタンを押したまま、[−/NO]/[+/YES]ボタンを押すと、値(0~20)が変わります。

[EFFECT]ボタンを押したまま、[−/NO]と[+/YES]ボタンを同時に押すと、初期設定に戻ります。

設定範囲

0(効果なし)~20(効果最大)

初期設定

音色ごとにエフェクトの種類(オフも含む)やかかり具合が設定されています。

NOTE

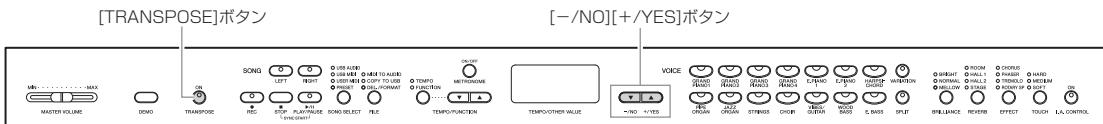
ROTARY SPを選択すると、左ペダルは、ロータリースピーカーの回転の速い/遅いの切り替え機能に変わります。

設定範囲

0(効果なし)~20(効果最大)

キー(調)を変える[TRANSPOSE](トランスポーズ)

弾く鍵盤を変えずに、ほかの楽器や歌う人の声の高さにキー(調)を合わせたり、演奏する曲や再生する曲を移調(=トランスポーズ)できます。トランスポーズは半音単位で設定できます。たとえばトランスポーズ量を「5」に設定すると、「ド」の鍵盤を弾いたときに「ファ」の音が出ることになり、「ハ長調」の弾きかたで「ヘ長調」の演奏になります。



トランスポーズ量を設定する

[TRANSPOSE]ボタンを押したまま、[−/NO]/[+/YES]ボタンを押して、半音単位でトランスポーズ量を設定します。[TRANSPOSE]ボタンを押したまま、[−/NO]と[+/YES]ボタンを同時に押すと、初期設定(0)に戻ります。



トランスポーズ量

TRANSPOSE : 移調する

曲全体の音の高さを上げたり下げたりしてキー(調)を変えること。

トランスポーズ量

−12: −12半音(−1オクターブ)
0: 標準の音の高さ
12: 12半音(+1オクターブ)

NOTE

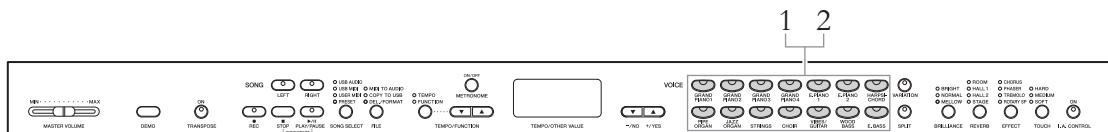
オーディオソング再生音はトランスポーズされません。

トランスポーズをオン/オフする

[TRANSPOSE]ボタンを押すごとに、トランスポーズのオン/オフが切り替わります。ランプが点灯したときがオンです。オフのときやトランスポーズ量が0のときは、ランプは点灯しません。

2つの音色を重ねる(デュアル)

2種類の音色を同時に重ねて鳴らす機能です。2つの異なる系統の音色を重ねたり、同系統の音色を重ねて厚みのある音色を作ります。

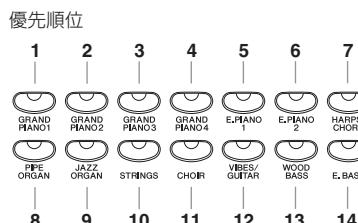


1. デュアルモードに入る

2つの音色ボタンを同時に押して、2つの音色ボタンのランプを点灯させます。
鍵盤を弾いて音を出してみましょう。

第1音角 / 第2音角

右記の優先順位で、番号の小さい方の音色が第1章色、もう一方が第2章色になります。



第1音色/第2音色の音量バランスやオクターブ設定をはじめとした、いろいろな設定がファンクション(45ページ)でできます。

2. デュアルモードを抜ける

新たに1つの音色ボタンを押すとデュアルモードを抜け、元の演奏状態に戻ります。

デュアル=2つ

(CLP-470/440/S408/S406)

デュアルとスプリット

デュアルとスプリット(24ページ)は同時に使えません。

(CLP-470/440/S408/S406)

デュアルのときの[VARIATION]

どちらかの音色のバリエーションがオンでデュアルモードになると、[VARIATION]ランプは点灯します。[VARIATION]ボタンを押すと、両音色ともバリエーションのオン/オフが切り替わります。片方の音色だけオン/オフを切り替えたい場合は、両方のボタンを同時に押して、オン/オフさせたい音色のボタンだけを離し、もう一度押します。

デュアルのときの[BEV/FBB]

デュアルの組み合わせに最適な1つのリバーブの種類が自動的に選ばれます。

デュアルのときの[EFFECT]

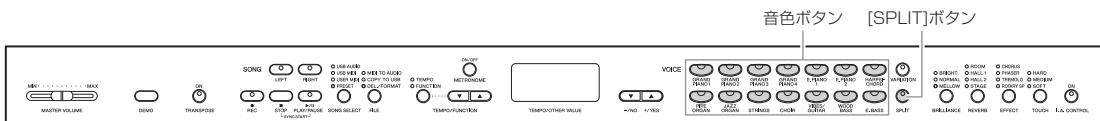
状況に応じて1つのエフェクトの種類が優先されます。

エフェクトのかかり具合を設定するには、[EFFECT]ボタンを押したまま[−/NO]/[+/YES]ボタンを押します。これは第1音色だけに有効です。ファンクション(45ページ)でもエフェクトのかかり具合を設定できます。

鍵域を左右に分けて別々の2つの音色で弾く[SPLIT](スプリット)

470 | 440 | 430 | S408 | S406

鍵盤全体を左右の領域に分け、別々の音色で演奏することができます。左の領域でWOOD BASSやEBASSなどの音色でベースパートを、右の領域でメロディーパートを演奏したりすることができます。



1. スプリットモードに入る

[SPLIT]ボタンを押して、ランプを点灯させます。
この時点では、左側音色に初期設定の音色[WOOD BASS]が選ばれます。

スプリットでの音量バランスやオクターブ設定をはじめとした、いろいろな設定がファンクション(45ページ)でできます。

スプリットとデュアル
スプリットとデュアル(23ページ)は同時に使えません。

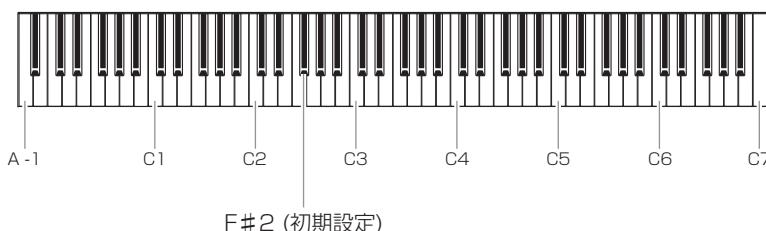
NOTE
スプリットポイント自体の鍵盤は、左側に属します。

NOTE
スプリットポイントはファンクション(45ページ)でも設定できます。

NOTE
[SPLIT]ボタンを押したまま、[-/NO]/[+/YES]ボタンを同時に押すと初期設定のF#2に戻ります。

2. スプリットポイント(2音色の境め)を決める

[SPLIT]ボタンを押したまま、スプリットポイントにしたい鍵盤を押します。または、[SPLIT]ボタンを押したまま、[-/NO]/[+/YES]ボタンを必要な回数、押します。

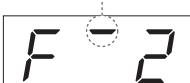


[SPLIT]ボタンを押している間は画面にスプリットポイントの鍵盤名が表示されます。



スプリットポイントはF2です。

#を表します。



スプリットポイントはF#2です。



スプリットポイントはEb2です。

bを表します。

3. 右側の音色を決める

演奏したい音色ボタンを押します。

バリエーション

[VARIATION]ボタンまたは選ばれている音色ボタンを押すと、バリエーションのオン/オフが切り替わります。

4. 左側の音色を決める

スプリット

[SPLIT]ボタンを押したまま、演奏したい音色ボタンを押します。([SPLIT]ボタンを押している間は左側の音色ボタンのランプが点灯します。)

[SPLIT]ボタンを押したまま、[VARIATION]ボタンまたは選ばれている音色ボタンを押すと、バリエーションのオン/オフが切り替わります。

鍵盤を弾いて音を出してみましょう。

5. スプリットモードを抜ける

[SPLIT]ボタンを押して、ランプを消灯させます。

スプリットのときの[VARIATION]
通常、右側の音色ボタンのランプが点灯し、バリエーションがオンなら、[VARIATION]ランプも点灯します。

[SPLIT]ボタンを押している間は、左側の音色ボタンのランプが点灯し、バリエーションがオンなら、[VARIATION]ランプも点灯します。

スプリットのときの[REVERB]

スプリットの組み合わせに最適な1つのリバーブの種類が自動的に選ばれます。

スプリットのときの[EFFECT]

状況に応じて1つのエフェクトの種類が優先されます。

エフェクトのかかり具合を設定するには、[EFFECT]ボタンを押したまま[−/NO]/[+/YES]ボタンを押します。これは右側の音色だけに有効です。ファンクション(45ページ)でもエフェクトのかかり具合を設定できます。

曲(ソング)を再生する

この楽器では、内蔵曲や録音した曲、市販の曲データを総称して「ソング」と呼んでいます。単に再生して楽しむだけでなく、ソングを再生しながら演奏の練習ができます。

MIDIソングとオーディオソング

この楽器で再生/録音できるソングには、MIDIソングとオーディオソングの2種類があります。MIDIソングは、鍵盤を押す/離すといった演奏の動きを記録したデータです。楽譜と同じように、どの鍵盤をどのくらいの強さでどのタイミングで弾いた、といった演奏情報が記録され、音そのものは記録されません。記録された演奏情報にもとづいて、(クラビノーバなどの)音源部が鳴ることではじめて音になります。データ容量が小さく、また、音色の変更などの編集がしやすいのが特長です。オーディオソングは、演奏した音そのものを記録したデータです。カセットテープやボイスレコーダーなどに録音するのと同じくみて記録したもので、携帯音楽プレイヤーなどでも再生できるので、ほかの人に自分の演奏を聞いてもらうことができます。

NOTE

MIDIについては、PDFマニュアル「MIDI入門」で詳しく説明しています。

この楽器で再生できるソング

この楽器では、ソングは種類ごとに4つのドライブ(データ保存領域)に分類されています。[SONG SELECT]ボタンの上部にあります4つのランプ(PRESET/USER MIDI/USB MIDI/USB AUDIO)は、これらのドライブを示しています。

ドライブ	ソング番号	ソングの種類
PRESET	001～050	プリセットソング(MIDI) 楽器に内蔵されているピアノソング50曲です。付属の「ピアノで弾く名曲50選」に楽譜が掲載されていますのでご活用ください。
USER MIDI	U.01～U.10	楽器本体に保存したユーザーソング(MIDI) この楽器で録音し、楽器本体に保存されているMIDIソングです(31ページ)。10曲(U.01～U.10)まで保存できます。
	001～xxx	楽器本体に保存した外部ソング(MIDI) コンピューターからこの楽器に読み込んだMIDIソングです(43ページ)。999曲(001～999)まで保存できます。
USB MIDI	U.00～U.99	USB記憶装置に保存したユーザーソング(MIDI) この楽器で録音し、USB記憶装置に保存したMIDIソングです(31ページ)。100曲(U.00～U.99)まで保存できます。
	001～xxx	USB記憶装置に保存した外部ソング(MIDI) 市販のMIDIソングやコンピューターで編集したMIDIソングなどをUSB記憶装置に保存したものです。999曲(001～999)まで保存できます。
USB AUDIO	A.00～A.99	USB記憶装置に保存したユーザーソング(オーディオ) この楽器で録音(31ページ)、またはMDIから変換(37ページ)してUSB記憶装置に保存したオーディオソングです。100曲(A.00～A.99)まで保存できます。
	001～xxx	USB記憶装置に保存した外部ソング(オーディオ) 市販のオーディオソングなどをUSB記憶装置に保存したものです。999曲(001～999)まで保存できます。

この楽器で再生できるソングのデータ形式

• SMF (Standard MIDI File) フォーマット0と1

MIDIソングの代表的なフォーマットです。一般的なSMFにはフォーマット0とフォーマット1があり、多くのMIDI機器がSMFフォーマット0に対応しています。また、市販のミュージックデータの多くがSMFフォーマット0で作られています。この楽器で録音したMIDIソングはSMFフォーマット0になります。

• ESEQ

ヤマハの多くの機器やミュージックデータで採用されているMIDIソングのフォーマットです。この楽器で再生できるのは、ピアノプレーヤ用のソングのみです。

NOTE

ソング番号の「xxx」は数字を示しています。

NOTE

この楽器で録音したソングを「ユーザーソング」といいます。この楽器以外で作られたソングは「外部ソング」といいます。USB記憶装置では、ユーザーソングは「USER FILES」フォルダー内に保存されます。

NOTE

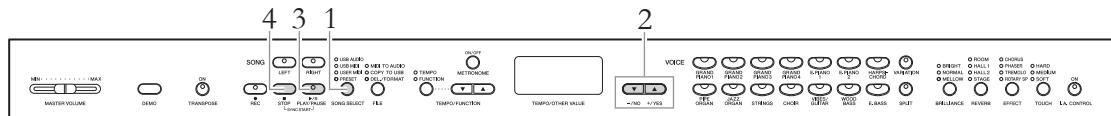
この楽器で再生可能なMIDIデータのサイズは、1曲につき約550KBまでです。

• WAVフォーマット(.wav)

オーディオ(音声)データの記録方式のひとつです。この楽器では、44.1kHz、16bitのステレオWAVファイルが再生できます。この楽器で録音したオーディオソングはこの形式で保存されます。この楽器が対応可能な再生時間は、1曲につき80分までです。

ソングを再生する

本体にあらかじめ内蔵されたソングや、USB記憶装置に保存されたMIDIソング/オーディオソングを再生する方法を説明します。自分の演奏を録音(31ページ)して作ったMIDIソングやオーディオソングも、同様の方法で再生できます。USB記憶装置に入っているソングを再生したい場合は、「USB記憶装置を接続する」(42ページ)を読み、USB記憶装置を[USB TO DEVICE]端子に接続してから下記手順に従ってください。



1. ソングドライブを選ぶ

[SONG SELECT]ボタンを押して、再生したいソングの入ったドライブのランプ(PRESET ブリセット) /USER MIDI/USB MIDI/USB AUDIO)を点灯させます。
USB MIDI、USB AUDIOは、USB記憶装置を接続しているときのみ選べます。

NOTE

以下の状態のときは、[SONG SELECT]ボタンは操作できません。
・デモ曲モード(20ページ)
・録音モード(31ページ)
・ファイル操作モード(36ページ)

2. ソングを選ぶ

[-/NO]/[+/YES]ボタンを押して、ソング番号または「rnd」、「ALL」を選びます。
・ソング番号 聞きたいソングを1曲指定して再生します。ソング番号について
は26ページの表をご覧ください。
・rnd (ランダム) 選んだドライブ内のすべてのソングを順不同に連続再生します。
・ALL(オール) 選んだドライブ内のすべてのソングを順番に連続再生します。

NOTE

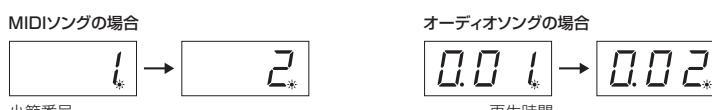
・メトロノームを鳴らしながら再生することもできます。再生をストップすると、メトロノームも同時に止まります。
・オーディオソングの再生音量はファンクション(45ページ)で調節できます。

3. 再生をスタートさせる

[PLAY/PAUSE]ボタンを押すと再生がスタートします。
スタート後、画面に再生中の小節番号(MIDIソングの場合)または再生時間(オーディオソングの場合)が表示されます。

再生できない場合

ソングを選んだときに、[RIGHT][LEFT]ボタンのランプが両方とも消灯している場合は、そのソング番号にはデータがありません。この場合、ソングは再生できません。



再生しながら演奏することもできます。手弾き音の音色も変えられます。

テンポの調節(MIDIソング)

[TEMPO/FUNCTION]ボタンのTEMPOのランプが点灯している状態で、[TEMPO/FUNCTION ▼▲]ボタンを押してテンポを変更します。[▼]と[▲]ボタンを同時に押すと元のテンポに戻ります。

NOTE

別のソングを選びと(または、rndやALLで別のソングがスタートすると)、テンポは自動的にそのソング固有のテンポがセットされます。

一時停止

再生中に[PLAY/PAUSE]ボタンを押すと、その時点での再生位置で一時停止します。

再度[PLAY/PAUSE]ボタンを押すと、その位置から再生を再開します。

巻き戻し/早送り

再生中または一時停止中に、[−/NO]/[+/YES]ボタンを押すと、ボタンを押している間、巻き戻し/早送りします。

4. 再生をストップする

[STOP]ボタンを押すと、再生がストップします。
手順2でソング番号を指定した場合は、1曲の再生が終了と同時にストップします。

ソング再生中のリバーブ/エフェクト
リバーブやエフェクトは、別のソングを選ぶと(または、連続再生で別のソングがスタートすると)、自動的にそのソングに合ったものに変わります。

ソングのMIDI送信について
ソングは、MIDI送信されません。
ただし、ファンクション(45ページ)でソング再生チャンネルを「1&2」に設定すると、3~16チャンネルが外部機器にMIDI送信されます。

この楽器にはない音色を含むMIDIソングを再生する場合

この楽器に入っていない音色を含むMIDIソング(XGやGMソングなど)を再生すると、本来の音色が再現されません。この場合、ファンクション(45ページ)でソング再生チャンネルを「1&2」に設定すると、3~16チャンネルが消音されるため、1~2チャンネルがピアノ音であれば、本来のソングの音を再現できます。

USB記憶装置に保存された外部ソングが読み込めない場合
ファンクション(46ページ)で、文字種を切り替えてみてください。

再生に関する便利な機能

右手または左手パートだけを再生する(MIDIソング)

右手パートだけを再生すれば左手の練習、左手パートだけを再生すれば右手の練習ができます。
手順は29ページをご覧ください。

繰り返し再生する(MIDIソング)

MIDIソングは、1曲内のある範囲を指定して繰り返し再生することができます。難しいフレーズを繰り返し練習するときなどに便利です。上記のパート別再生の機能と同時に使うこともできます。手順は30ページをご覧ください。

弾くと同時に再生をスタートする

鍵盤を弾くと同時に再生をスタート(シンクロスタート)することができます。

[STOP]ボタンを押したまま[PLAY/PAUSE]ボタンを押すとシンクロスタート待機状態になります。[PLAY/PAUSE]ボタンのランプがソングのテンポに合わせて点滅します。
(シンクロスタートを解除するには、[STOP]ボタンを押します。)
このあと鍵盤を弾くと、同時に再生もスタートします。

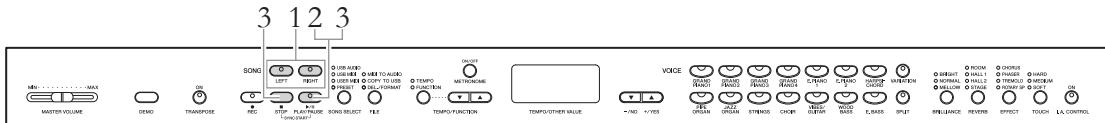
シンクロ=同時の、同時に起こる

ペダルで再生/一時停止する

ファンクション(45ページ)でまん中のペダルか左のペダルの機能を再生/一時停止(パネルの[PLAY/PAUSE]ボタンと同じ機能)に切り替えることができます。
鍵盤を弾きながら、ソングを再生/一時停止したいときに便利です。

右手または左手パートだけを再生する(MIDIソング)

プリセットソングなどのMIDIソングには、データが右手パートと左手パートに分かれているものがあります。このようなソングデータの場合、右手パートだけをオンにして左手の練習を、左手パートだけをオンにして右手の練習ができるので、順序立てて練習を進められます。



1. 一方のパートの再生をオフにする

ソングを選ぶと、[RIGHT](右手)と[LEFT](左手)のランプが両方とも点灯するので、オフにしたい(練習したい)方のパートのボタンを押して、ランプを消灯させます。それぞれのボタンは、押すごとに再生のオン/オフが切り替わります。

2. 再生をスタートさせる

プレイ/ポーズ
[PLAY/PAUSE]ボタンを押すと再生がスタートします。
再生パートはお手本として聞き、再生をオフにしたパートは自分で弾きます。

3. 再生をストップする

ソングの再生が終了すると、自動的にストップし、ソングの先頭に戻ります。

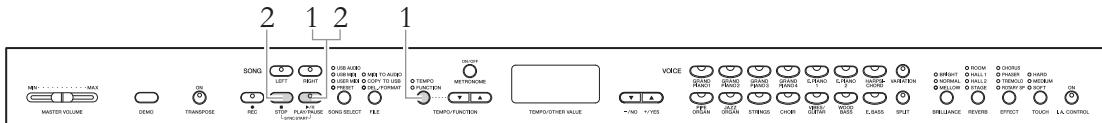
再生途中でストップしたい場合は、[STOP]ボタンまたは [PLAY/PAUSE]ボタンを押します。[STOP]ボタンを押すと再生位置は先頭に戻りますが、[PLAY/PAUSE]ボタンを押すとその時点の再生位置で一時停止します。

NOTE

- 再生中でも、パートごとの再生オン/オフを切り替えられます。
- 別のソングを選ぶと、自動的に両パートとも再生オンにリセットされます。

繰り返し再生する(MIDIソング)

MIDI
MIDIソングは、1曲内のある範囲を指定して繰り返し再生することができます。難しいフレーズを繰り返し練習するときなどに便利です。



1. ソング再生をスタートさせ、繰り返しの始まり(A点)と終わり(B点)を指定する

選曲し、再生をスタートします。聞きながら、始まり(A点)にしたいところで、[TEMPO/FUNCTION]ボタンを押したまま[PLAY/PAUSE]ボタンを押します。

画面に **R -** と表示され、始まり(A点)が設定されます。

続いて、終わり(B点)にしたいところでもう一度[TEMPO/FUNCTION]ボタンを押したまま[PLAY/PAUSE]ボタンを押します。

画面に **R - b** と表示され、終わり(B点)が設定されます。

同時に、A点に戻って繰り返し再生が自動的にスタートします。

曲の先頭から繰り返しを始めたいときは

再生をスタートする前に、[TEMPO/FUNCTION]ボタンを押したまま[PLAY/PAUSE]ボタンを押して始まり(A点)を設定します。

曲の終わりをB点に設定したいときは
A点を設定したあとで曲の終わりまで再生すると、曲の終わりが自動的にB点に設定されます。

B点からA点に戻るとき

繰り返し再生でB点に到達すると、タイミングをとるためにタクト音が鳴ってからA点に戻り、再生を続けます。

2. 再生をストップする

[STOP]ボタンを押すと、A点、B点の設定を保ったまま再生がストップします。[PLAY/PAUSE]ボタンを押すと、再びA点～B点の繰り返し再生がスタートします。

A点、B点の設定を解除するには

もう一度[TEMPO/FUNCTION]ボタンを押したまま[PLAY/PAUSE]ボタンを押すと、A点/B点の設定は解除されます。また、別のソングを選ぶことでも設定は解除できます。

演奏を録音する

自分の演奏を録音してみましょう。この楽器では、下記2通りの方法で録音できます。

・ MIDI録音

録音した演奏をSMF(フォーマット0)のMIDIソングとして、楽器本体またはUSB記憶装置に保存します。2つのパートを別々に録音できるので、右手と左手を個別に録音したり、連弾曲を1パートずつ録音して、1曲を完成できます。また、録音後に、1パートだけ録音し直したり、音色やテンポなどを変えたりできます。

この楽器には、10曲まで(合計約1.5MBまで)録音できます。USB記憶装置には、その容量に応じたデータ量が録音できます。いずれの場合も、1曲あたり約550KBまでです。記録されるデータの種類については34ページをご覧ください。

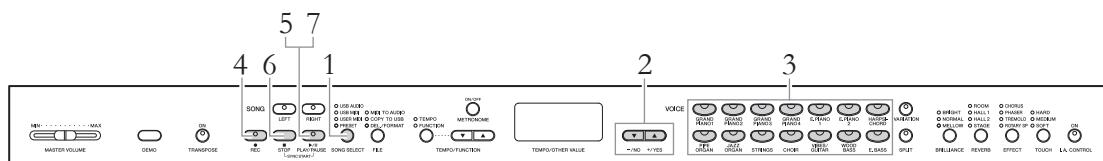
・オーディオ録音

録音した演奏をオーディオソングとしてUSB記憶装置に保存します。録音パートを指定しない録音です。一般的なCD音質(44.1kHz/16bit)のステレオWAV形式で保存されるので、コンピューターを使って携帯音楽プレーヤーなどに転送して再生できます。

録音可能時間はUSB記憶装置の容量によって異なります。この楽器が対応可能な録音時間は、1回の録音につき80分までです。

USB記憶装置に録音したい場合は、「USB記憶装置を接続する」(42ページ)を読み、USB記憶装置を [USB TO DEVICE] 端子に接続してから下記手順に従ってください。

パートを指定せずに録音する(MIDI/オーディオ録音)



1. 録音データの保存先(ドライブ)を選ぶ

[SONG SELECT]ボタンを押して、録音データを保存したいドライブのランプを点灯させます。

- ・ PRESETこのドライブには録音できないので、選択できません。
- ・ USER MIDIこの楽器の内部メモリーにMIDIソングとして保存します。
- ・ USB MIDI接続したUSB記憶装置にMIDIソングとして保存します。
- ・ USB AUDIO接続したUSB記憶装置にオーディオソングとして保存します。

NOTE

以下の状態のときは、録音モードに入れません。

- ・ テモ曲モード(20ページ)
- ・ ソング再生中/一時停止中(27ページ)
- ・ ファイル操作モード(36ページ)

NOTE

ドライブを指定せずに録音モードに入ると、USER MIDI内のデータが入っていない(空の)ソング番号に自動的に保存されます。USER MIDI内に空のソング番号がない場合は、録音前に「U.01」にあったデータが削除され、新しく録音したデータが「U.01」に保存されます。

パートボタンのランプ

消灯: データなし

点灯(緑): データあり

点滅(赤): 録音指定

メトロノームを使う

メトロノームを使いながら録音することもできます。ただし、メトロノームの音は録音されません。

2. 録音データのソング番号を選ぶ

[-/NO]/[+/YES]ボタンを押して、ソング番号 выбираете。

- ・ USER MIDIU.01~U.10
- ・ USB MIDIU.00~U.99
- ・ USB AUDIOA.00~A.99

注記

録音済みのデータがある場合は、[RIGHT]/[LEFT]ボタンの片方または両方のランプが緑に点灯します。録音するとそれまでの録音データは消えますのでご注意ください。

3. 録音に使う音色や、拍子などの設定を選ぶ

音色ボタンを押して録音に使う音色を選びます。必要に応じてそのほかの設定(拍子やエフェクトなど)もここで選んでください。

4. 録音モードに入る

レコード
[REC]ボタンを押します。

MIDI録音の場合は、[REC]と[RIGHT]のランプが、オーディオ録音の場合は、[REC]と[RIGHT][LEFT]のランプが点滅します。また、[PLAY/PAUSE]のランプがテンポに合わせて点滅します。

録音を中止する場合は、[REC]または[STOP]ボタンを押します。

ドライブの空き容量が少ない場合
本体内部メモリーやUSB記憶装置の空き容量が少ない場合は、[REC]ボタンを押したあとに「Enp」と表示されます。この場合、録音はスタートできますが、録音途中で記憶容量がいっぱいになるおそれがあります。あらかじめ不要なファイルを削除(34、38ページ)して、空き容量を確保することをおすすめします。

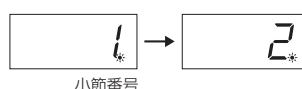
5. 録音をスタートする

MIDI録音の場合

鍵盤を弾くと同時に録音がスタートします。曲の始めに空白部分を録音したいときは、

[PLAY/PAUSE]ボタンを押して録音をスタートさせます。

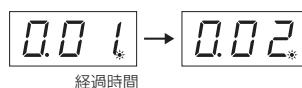
録音中、画面には録音中の小節番号が表示されます。



オーディオ録音の場合

[PLAY/PAUSE]ボタンを押して録音をスタートさせます。

録音中、画面には録音の経過時間が表示されます。



オーディオ録音の経過時間

左端の数字が分を、右側の2つの数字が秒を表わします。10分以上の場合は、分は10の位が省略されます。

NOTE

オーディオ録音の場合、AUX IN端子からの入力音も録音されます。

6. 録音をストップする

ストップ
[STOP]または[REC]ボタンを押します。

録音をストップすると、「-」が流れで表示され保存中であることを示します。保存が終わると、「End」が表示されたあと、ソング番号が表示されます。録音したパートのランプが緑に点灯し、録音モードは自動的に解除されます。

注記

「-」が流れで表示されているときに電源を切ったり、USB記憶装置を抜いたりしないでください。外部ソングを含むすべてのソングデータ(26ページ)が消去されるおそれがあります。

7. 録音した演奏を再生する

[PLAY/PAUSE]ボタンを押すと、今録音した演奏が再生されます。再生をストップするには、[STOP]ボタンを押します。

パートを指定して録音する(MIDI録音)

MIDI録音では、2つのパートを個別に録音できます。

1. 録音の準備をする

「パートを指定せずに録音する」(31ページ)の手順1~3をご参照ください。

録音済みのパートがある場合は、そのパートを再生させながらもう一方のパートを録音できます。録音済みのパートの再生をオフにするには、そのパートのボタンを押して緑色のランプを消灯させておきます。

注記

録音済みのデータがあるパートのランプは緑に点灯します。録音するとそれまでの録音データは消えますのでご注意ください。

パートボタンのランプ
消灯: データなし
点灯(緑): データあり
点滅(赤): 録音指定

2. 録音モードに入る

レコード [REC]ボタンを押します。

3. 録音パートを選ぶ

ライト レフト
[RIGHT](右)または[LEFT](左)ボタンを押して、録音したいパートのランプを点滅させます。

ストップ
録音を中止する場合は、[REC]または[STOP]ボタンを押します。

ドライブの空き容量が少ない場合
本体内部メモリーやUSB記憶装置の空き容量が少ない場合は、「REC」ボタンを押したあとに「Eng」と表示されます。この場合、録音はスタートできますが、録音途中で記憶容量がいっぱいになるとそれがあります。あらかじめ不要なファイルを削除(34、38ページ)して、空き容量を確保することをおすすめします。

4. 録音をスタートする

鍵盤を弾くと同時に録音がスタートします。曲の始めに空白の小節を録音したいときは、
プレイ ポーズ
[PLAY/PAUSE]ボタンを押して録音をスタートさせます。

5. 録音をストップする

[STOP]または[REC]ボタンを押します。

録音をストップすると、「-」が流れで表示され保存中であることを示します。終わると、「End」が表示されたあと、ソング番号が表示されます。録音したパートのランプが緑に点灯し、録音モードは自動的に解除されます。

注記

「-」が流れで表示されているときに電源を切らないでください。電源を切ると、外部ソング(26ページ)を含むすべてのソングデータが消去されるおそれがあります。

6. 録音した演奏を再生する

[PLAY/PAUSE]ボタンを押すと、今録音した演奏が再生されます。再生をストップするには、[STOP]ボタンを押します。

上記の方法で、もう一方のパートも録音し、演奏を完成させましょう。

録音した演奏を削除する(MIDI録音)

録音したユーザーソングをパートごとに削除します。両パートとも削除するには、以下の手順を各パートで行ないます。USB記憶装置に録音したユーザーソングは、38ページの方法で両パートをまとめて削除することもできます。

1. 録音データを削除するユーザーソングを選ぶ

「パートを指定せずに録音する」(31ページ)の手順1~2をご参照ください。

NOTE

USB記憶装置に録音したオーディオソングを削除する方法は、38ページをご参照ください。

2. 録音モードに入る

レコード
[REC]ボタンを押します。

3. 削除するパートを選ぶ

ライト レフト
[RIGHT]または[LEFT]ボタンを押して、削除したいデータの入ったパートのランプを点滅させます。

4. 録音データを削除する

プレイ ポーズ
[PLAY/PAUSE]ボタンを押して、録音をスタートします。その後、何もせずに[STOP]ボタンを押して録音をストップすると、指定したパートの録音データが削除され、ランプが消灯します。

必要に応じて、もう一方のパートも同じ方法で削除します。

NOTE

両方のパートの録音データを削除すると、メトロノームの拍子やテンポが初期設定に戻ります。引き続き同じ拍子/テンポで録音したい場合は、設定し直してください。

録音後に音色やテンポなどを変更する(MIDI録音)

MIDI録音の場合、録音を終えたあとでも、演奏データの設定を変更できます。たとえば、音色を変更して違った雰囲気にしたり、適切なテンポに調節できます。

MIDI録音で記録されるデータの種類

MIDI録音では、下記のようなデータが記録されます。このうち、「*」の印がついているデータは、録音後に変更することができます。

パートごとに録音されるデータ

- ・ノートデータ(弾いた音)
- ・音色*
- ・ペダル操作(ダンパー、ソフト、ソステナート)
- ・[REVERB]のかかり具合*
- ・[EFFECT]のかかり具合*
- ・デュアルの音色*
- ・デュアル音量バランス*
- ・デュアルデチューン*
- ・デュアルオクターブシフト

(CLP-470/440/S408/S406)

- ・[VARIATION]のオン/オフ*
- ・スプリットの音色*
- ・スプリット音量バランス*
- ・スプリットオクターブシフト

2つのパートで共通に録音されるデータ

- ・テンポ*
- ・拍子
- ・[REVERB]の種類(オフも含む)*
- ・[EFFECT]の種類(オフも含む)*
- ・音律*
- ・ダンパーレジナンスのかかり具合*
- ・ソフトペダル効果のかかり具合*

- (CLP-470/440/S408/S406)
- ・ストリングレジナンスのかかり具合*
 - ・サステインサンプリングのかかり具合*
 - ・キーオフ音の音量*

1. 設定を変更するユーザーソングを選ぶ

「パートを指定せずに録音する」(31ページ)の手順1~2をご参照ください。

2. 変更する内容(音色やリバーブなど)を設定する

たとえば、録音したE.PIANO1の音色をE.PIANO2に変更したい場合は、ここで[E.PIANO2]ボタンを押します。

3. 録音モードに入り、設定を変更するパートを選ぶ

エレクトリックピアノ
[REC]ボタンを押したあと、[RIGHT]ボタンまたは[LEFT]ボタンを押します。
(2つのパートで共通に録音されるデータはどちらのパートを選んでも変更されます。)
指定したパートのランプが赤く点滅します。

変更を中止する場合は、[REC]または[STOP]ボタンを押します。

注記

ここで鍵盤や[PLAY/PAUSE]ボタンを押さないようご注意ください。録音がスタートし、録音済みのデータが消えてしまいます。

4. 変更を保存する

ストップ
[REC]ボタンを押したまま[STOP]ボタンを押します。「-」が流れ表示され保存中であることを示します。保存が終わると、「End」が表示されたあと、ソング番号が表示されます。録音モードは自動的に解除されます。

注記

「-」が流れ表示されているときに電源を切らないでください。電源を切ると、外部ソングを含むすべてのソングデータ(26ページ)が消去されるおそれがあります。

ソングファイルを操作する

ファイル操作モードでは、USB記憶装置を接続して、以下のようなソングファイルに関する操作ができます。

USB記憶装置をご使用になる前に「USB記憶装置を接続する」(42ページ)をご覧ください。

機能		ページ
MIDI TO AUDIO	MIDIソングをオーディオソングに変換する 楽器やUSB記憶装置内のMIDIソングをオーディオソングに変換します。 <small>ユーザー ファイルズ</small> オーディオソングは、USB記憶装置内の「USER FILES」フォルダーにWAV形式でユーザーソングとして保存され、自動的に「USERAUDIOxx.WAV」(xxは数字)というファイル名が付けられます。	37
COPY TO USB	楽器に録音したソングをUSB記憶装置にコピーする この楽器に保存されているユーザーソングを1曲ずつUSB記憶装置にコピーします。コピーしたソングは、USB記憶装置内の「USER FILES」フォルダーにSMF形式でユーザーソングとして保存され、自動的に「USERSONGxx.MID」(xxは数字)というファイル名が付けられます。	38
DELETE FORMAT DELE./FORMAT	USB記憶装置内のソングを削除する USB記憶装置内に保存されているソングを1曲ずつ削除します。	38
	USB記憶装置をフォーマット(初期化)する [USB TO DEVICE]端子にUSB記憶装置を接続したとき(またはUSB記憶装置にメディアを挿入したとき)に、フォーマットを促すメッセージ「UnF」が表示されることがあります。その場合は、フォーマットを実行してください。	39

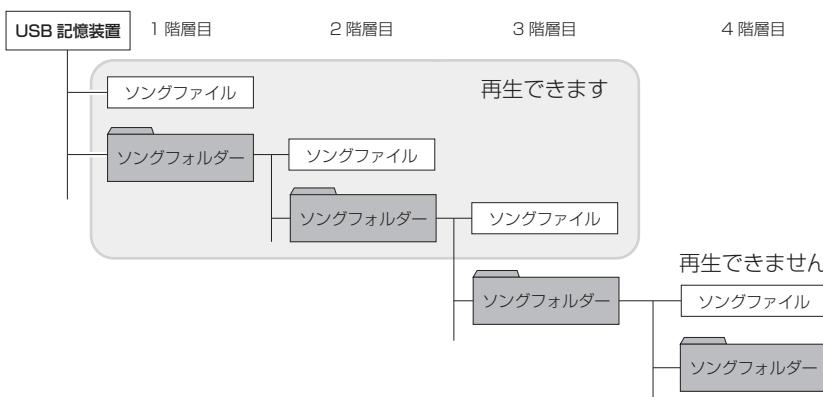
注記

ファイル操作中や「-」が流れて表示されているときは、楽器の電源を切ったり、USB記憶装置を外したりしないでください。USB記憶装置や楽器本体のデータが壊れるおそれがあります。

USB記憶装置内のソングファイル管理

この楽器で録音したソングを「ユーザーソング」といい、この楽器以外で作られたソングは「外部ソング」といいます。USB記憶装置内では、ユーザーソングは「USER FILES」フォルダー内に保存されます。外部ソングは「USER FILES」フォルダー外に保存します。ただし、ユーザーソングは、コンピューターを使用して、フォルダーネ名を変更したり、「USER FILES」フォルダーの外へ移動したりすると、外部ソングとして扱われます。

コンピューターなどでUSB記憶装置内のソングファイルを管理する場合、外部ソングのファイルは3階層までに保存してください。これより下の階層のフォルダーに保存されたソングは、この楽器では選択/再生できません。



USB記憶装置のプロテクト確認

USB記憶装置を使用する前に、記憶装置にプロテクトがかかっていないかどうかお確かめください。プロテクトがかかっていると、記憶装置にアクセスできません。

NOTE

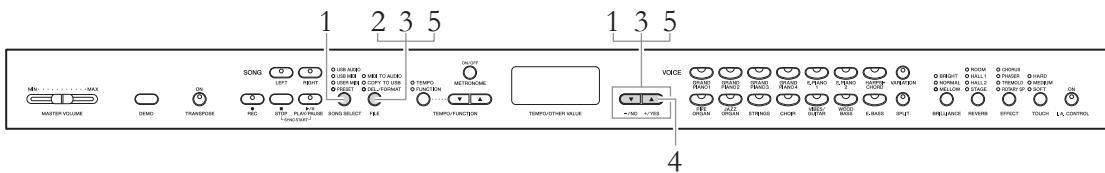
以下の状態のときは、ファイル操作はできません。

- ・デモ曲モード(20ページ)
- ・ソング再生中/一時停止中(27ページ)
- ・録音モード(31ページ)

NOTE

ひとつのフォルダーに保存できるファイル/フォルダーの数は999までです。

MIDIソングを再生しながらオーディオソングに変換する



1. オーディオ変換するMIDIソングを選ぶ

[SONG SELECT]ボタンを押してUSER MIDIまたはUSB MIDIのランプを点灯させてから、[−/NO]/[+/YES]ボタンを押してオーディオ変換するMIDIソングを選びます。

2. ファイル操作モードに入る

[FILE]ボタンを押してMIDI TO AUDIOのランプを点灯させます。

3. 変換後のデータの保存先(ソング番号)を選ぶ

[FILE]ボタンを押したまま、[−/NO]/[+/YES]ボタンを押して保存先となるオーディオソング番号(A.00−A.99)を選びます。すでにデータが録音されているソング番号を選ぶと、「A.x.x」のように、画面に点(.)が3つ表示されます。上書きする場合は、手順4に進みます。上書きしない場合は、ほかのソング番号を選んでから手順4に進みます。

4. MIDIソングを再生しながらオーディオに変換する

[FILE]ボタンを離すと「n y」(no/yes)が表示されるので、[+/YES]ボタンを押します。上書きする場合は、このあとに「n̄y」が表示されるので、もう一度[+/YES]ボタンを押します。

MIDIソングの再生が始まり、同時にオーディオへの変換が始まります。MIDIソングを再生しながら、その音声をオーディオソングとして録音し直すため、ソングの再生が終わるまで待つ必要があります。変換が終わると、「End」が表示されます。変換を中止する場合は、「n y」または「n̄y」が表示されたときに、[−/NO]ボタンを押します。

オーディオ変換中

オーディオ変換中は、画面に経過時間が表示されます。また、オーディオ変換中は、オーディオ録音中と同じ状態のため、鍵盤を弾いたり、AUX IN端子から入力したりしたオーディオ音声も、一緒に録音されます。オーディオ変換を中止するときは、[STOP]または[−/NO]ボタンを押します。この場合、それまでの変換データは保存されません。

注記

オーディオ変換中は、電源を切ったり、USB記憶装置を取り外したりしないでください。

5. ファイル操作モードを抜ける

[−/NO]または[+/YES]ボタンを押したあと、[FILE]ボタンを何回か押してランプを消灯させます。

NOTE

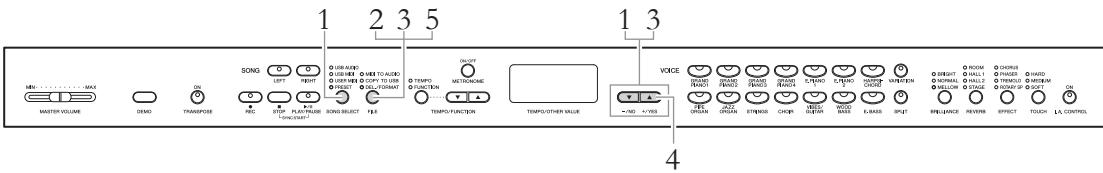
手順1でMIDIソングが選ばれていない場合は「_ _ _」が点滅します。手順1に戻ってMIDIソングを選んでください。

プロテクトがかかるMIDIソング
プロテクトがかかるソングやプリセッタソングは、オーディオ変換できません。変換しようとする「Pro」が表示されます。

USB記憶装置の空き容量が不十分な場合

変換されたオーディオソングを保存できません。不要なファイルを削除(38ページ)するなどして、空き容量を確保してください。

楽器に録音したユーザーソングをUSB記憶装置にコピーする



1. コピーするユーザーソングを選ぶ

[SONG SELECT]ボタンを押してUSER MIDIのランプを点灯させてから、[−/NO]/[+/YES]ボタンを押してコピーするユーザーソングを選びます。

2. ファイル操作モードに入る

[FILE]ボタンを押してCOPY TO USBのランプを点灯させます。

3. コピー後のデータの保存先(ソング番号)を選ぶ

[FILE]ボタンを押したまま、[−/NO]/[+/YES]ボタンを押して保存先となるユーザーソング番号(U.00~U.99)を選びます。すでにデータが録音されているソング番号を選ぶと、「U.x.x」のように、画面に点(.)が3つ表示されます。上書きする場合は、手順4に進みます。上書きしない場合は、ほかのソング番号を選んでから手順4に進みます。

4. ソングをコピーする

[FILE]ボタンを離すと「n y」(no/yes)が表示されるので、[+/YES]ボタンを押します。上書きする場合は、このあとに「n'y」が表示されるので、もう一度[+/YES]ボタンを押します。

コピーが終わると、「End」が表示されたあと、「---」の表示に戻ります。

コピーを中止する場合は、「n y」または「n'y」が表示されたときに、[−/NO]ボタンを押します。

注記

「-」が流れで表示されているときは、電源を切ったり、USB記憶装置を取り外したりしないでください。

5. ファイル操作モードを抜ける

[FILE]ボタンを何回か押して、ランプを消灯させます。

プロジェクトがかったMIDIソング
プロジェクトがかったソングやプリ
セッソングは、USB記憶装置にコ
ピーできません。コピーしようとす
ると「Pro」が表示されます。

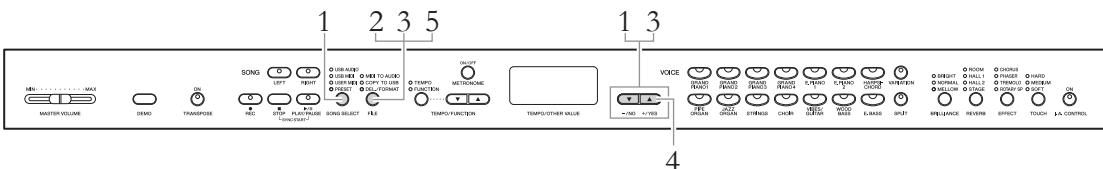
NOTE

手順1でユーザーソングが選ばれて
いない場合は「---」が点滅しま
す。手順1に戻ってユーザーソング
を選んでください。

USB記憶装置の空き容量が不十分な 場合

コピーしたソングを保存できませ
ん。不要なファイルを削除(38ペー
ジ)するなどして、空き容量を確保し
てください。

USB記憶装置内のソングを削除する



1. ソングが入っているドライブを選ぶ

[SONG SELECT]ボタンを押して、削除するソングが入っているドライブ(USB AUDIOまたはUSB MIDI)のランプを点灯させます。

NOTE

ファイル操作モードでは、ソングの
再生ができません。削除したいソン
グの確認再生は、手順2へ進む前に
済ませてください。

2. ファイル操作モードに入る

ファイル [FILE]ボタンを押してDEL./FORMATのランプを点灯させます。

3. 削除するソングを選ぶ

[FILE]ボタンを押したまま[−/NO]/[+/YES]ボタンを押して、削除するソング番号を選びます。ソングデータが入っている番号だけが表示されます。USB記憶装置内に削除できるソングデータがない場合は「---」が点滅します。

4. ソングを削除する

[FILE]ボタンを離すと「n y」(no/yes)が表示されるので、[+/YES]ボタンを押します。確認のため、「n'y」が表示されるので、もう一度[+/YES]ボタンを押します。

削除が終わると、「End」が表示されたあと、「---」の表示に戻ります。

削除を中止する場合は、「n y」または「n'y」が表示されたときに、[−/NO]ボタンを押します。

注記

「-」が流れで表示されているときは、電源を切ったり、USB記憶装置を取り外したりしないでください。

5. ファイル操作モードを抜ける

[FILE]ボタンを押して、ランプを消灯させます。

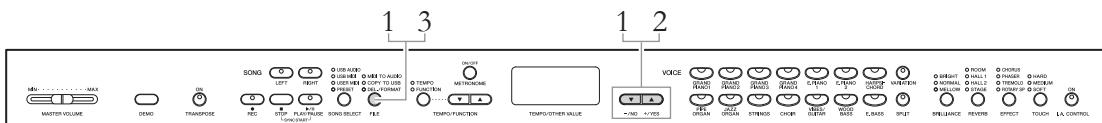
NOTE

プロジェクトがかかったソングやMUMAフォルダーに入っているソングは削除できません。削除しようとすると「Pro」が表示されます。

NOTE

外部ソングを削除した場合は、そのソング以降のソング番号が1つずつ繰り上がります。ユーザーソング(A.xx/U.xx)を削除した場合は、ソング番号は変化せず、削除したソングの番号はデータが空の状態になります。

USB記憶装置をフォーマット(初期化)する



注記

フォーマットを実行するとUSB記憶装置に保存されているデータがすべて消去されます。大切なデータはコンピューターなど、ほかの記憶装置に保存しておいてください。

1. ファイル操作モードに入る

ファイル [FILE]ボタンを押してDEL./FORMATのランプを点灯させます。

[FILE]ボタンを押したまま[−/NO]と[+/YES]ボタンを同時に押して、「For」を表示させます。

2. フォーマットを実行する

[FILE]ボタンを離すと「n y」(no/yes)が表示されるので、[+/YES]ボタンを押します。確認のため、「n'y」が表示されるので、もう一度[+/YES]ボタンを押します。

フォーマットが終わると、「End」が表示されたあと、「---」の表示に戻ります。

フォーマットを中止する場合は、「n y」または「n'y」が表示されたときに、[−/NO]ボタンを押します。

注記

「-」が流れで表示されているときは、電源を切ったり、USB記憶装置を取り外したりしないでください。

3. ファイル操作モードを抜ける

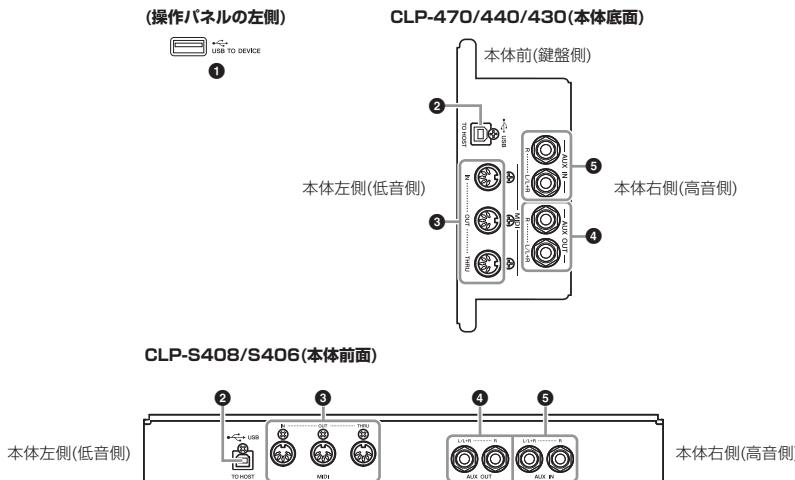
[FILE]ボタンを押して、ランプを消灯させます。

他の機器と接続する

端子について

⚠ 注意 外部のオーディオ機器と接続するときは、すべての機器の電源を切った上で行ってください。また、電源を入れたり切ったりする前に、必ず機器のボリュームを最小(0)にしてください。感電または機器の損傷のおそれがあります。

端子の位置は「各部の名前と機能」(11ページ)でご確認ください。



① [USB TO DEVICE]端子

USB記憶装置を接続する端子です。詳しくは42ページの「USB記憶装置を接続する」をご覧ください。

② USB [TO HOST]端子

コンピューターを接続する端子です。詳しくは43ページの「コンピューターと接続する」をご覧ください。

③ MIDI [IN][OUT][THRU]端子

MIDI接続専用のケーブルを使って外部MIDI機器と接続する端子です。詳しくは44ページの「外部MIDI機器と接続する」をご覧ください。

2種類のUSB端子

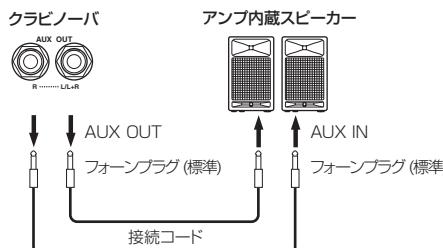
楽器本体のUSB端子には、[USB TO DEVICE]端子とUSB [TO HOST]端子の2種類があります。どちらもUSB端子ですが、形状/用途が違いますので、接続するときに間違えないようご注意ください。

④ エーユーエックス アウト AUX OUT [L/L+R][R]端子

クラビノーバにアンプ内蔵スピーカーなどを接続して、より大きな音を出します。AUX OUTに出力される音量は、楽器本体の[MASTER VOLUME]スライダーで調節します。外部スピーカー使用時、本体スピーカーからの音を消したい場合は、スピーカースイッチをOFFにしてください(15ページ)。

注記

クラビノーバのAUX OUTを使う場合、電源を入れるときはクラビノーバ→外部オーディオ機器の順に、電源を切るときは、外部オーディオ機器→クラビノーバの順に行ってください。



本体スピーカーやヘッドフォンから出力される音の音質は、AUX OUT端子への外部機器の接続状況に応じて適切な設定に、自動的に切り替わります(下表参照)。

本体出力音の音質

	AUX OUT端子にプラグを未接続			AUX OUT端子にプラグを接続中		
	SPEAKER=ON	SPEAKER=NORMAL	SPEAKER=OFF	SPEAKER=ON	SPEAKER=NORMAL	SPEAKER=OFF
ヘッドフォン接続中	本体スピーカーに最適なイコライザー*	フラット	フラット	フラット*	フラット	フラット
ヘッドフォン未接続	本体スピーカーに最適なイコライザー	本体スピーカーに最適なイコライザー	フラット	フラット*	フラット*	フラット

*ヘッドフォン、AUX OUTの出力レベルが抑えられます。

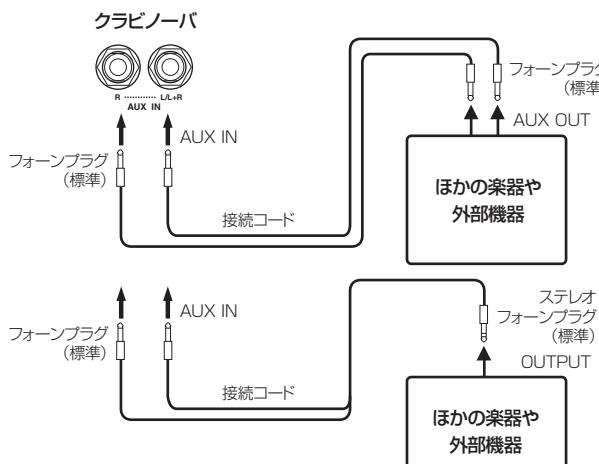
⑤ エーユーエックス イン AUX IN [L/L+R][R]端子

ほかの楽器や外部機器の音をクラビノーバ本体のスピーカーから出します。

オーディオ接続コードを使って図のように接続します。

注記

クラビノーバのAUX INを使う場合、電源を入れるときは外部機器→クラビノーバの順に、電源を切るときは、クラビノーバ→外部機器の順に行ってください。



NOTE

接続ケーブルおよび接続プラグは抵抗のないものをお使いください。

NOTE

この楽器のAUX OUTから出力した音を、この楽器のAUX INに戻さないでください(AUX OUTからアンプ内蔵スピーカーなどの外部機器に接続した場合、そのスピーカーからふたたびこの楽器のAUX INに接続しないでください)。

NOTE

本体音をモノラル信号で取り出すときは、AUX OUT[L/L+R]端子を使ってください。

- 本体スピーカーが鳴る
- 本体スピーカーは鳴らない

NOTE

AUX INからの入力音にはクラビノーバ本体の[MASTER VOLUME]は効きますが、[BRILLIANCE]、[REVERB]、[EFFECT]は効きません。

NOTE

モノラル信号を入力するときはAUX IN[L/L+R]をご使用ください。

USB記憶装置を接続する

[USB TO DEVICE]端子にUSB記憶装置を接続すると、楽器本体で録音したデータをUSB記憶装置に保存したり、USB記憶装置のデータを楽器本体で再生したりできます。

[USB TO DEVICE]端子ご使用上の注意

本機には[USB TO DEVICE]端子があります。[USB TO DEVICE]端子にUSB機器を接続する場合は、以下のことをお守りください。

NOTE

USB機器の取り扱いについては、お使いのUSB機器の取扱説明書もご参照ください。

■ 使用できるUSB機器

USB対応の記憶装置(フラッシュメモリー、ハードディスクドライブなど)

動作確認済みUSB機器については、ご購入の前にインターネット上の下記URLをご確認ください。

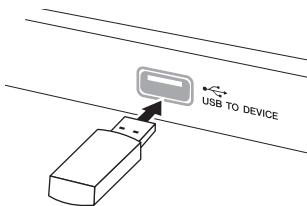
<http://jp.yamaha.com/products/musical-instruments/keyboards/support/usb/>

NOTE

上記以外のUSB機器（マウス、コンピューターのキーボードなど）は、接続しても使えません。

■ USB機器の接続

[USB TO DEVICE]端子の形状に合うプラグを上下の向きに注意して差し込んでください。



注記

- トップパネルの[USB TO DEVICE]端子にUSB機器を接続している場合は、キーカバーを閉める前に外してください。USB機器を接続したままキーカバーを閉じると、USB機器がキーカバーに当たって破損するおそれがあります。
- USBケーブルで接続する場合、3メートル以下のケーブルをご使用ください。
- 本機はUSB1.1に対応していますが、USB2.0の機器でも使用できます。ただし転送スピードはUSB1.1相当になりますので、ご了承ください。

USB記憶装置の取り扱いについて

本機にUSB記憶装置を接続すると、楽器本体で制作したデータをUSB記憶装置に保存したり、USB記憶装置のデータを楽器本体で再生したりできます。

■ 接続できるUSB記憶装置の数

同時に使用できるUSB記憶装置は、1台だけです。

■ USB記憶装置のフォーマット

USB記憶装置の中には、本機で使用する前にフォーマットが必要なことがあります。[USB TO DEVICE]端子にUSB記憶装置を接続したとき(またはUSB記憶装置にメディアを挿入したとき)に、フォーマットを促すメッセージが表示された場合は、フォーマットを実行してください(39ページ)。

注記

フォーマットを実行すると、そのメディアの中身は消去されます。必要なデータが入っていないのを確認してからフォーマットしてください。

■ 誤消去防止

USB記憶装置には、誤ってデータを消してしまわないようライトプロテクト機能のついたものがあります。大切なデータが入っている場合は、ライトプロテクトで書き込みができないようにしましょう。逆にデータを保存するなどは、ご使用の前にお使いのUSB記憶装置のライトプロテクトが解除されていることをご確認ください。

■ USB記憶装置の抜き差し

USB記憶装置を外すときは、保存/コピー/削除/フォーマットなどデータのアクセス中でないことをあらかじめ確認したうえで外してください。

注記

USB記憶装置の頻繁な電源のオン/オフや抜き差しをしないでください。楽器本体の機能が停止するおそれがあります。保存/コピー/削除/フォーマットなどデータのアクセス中やUSB記憶装置のマウント中は、USBケーブルを抜いたり、USB記憶装置からメディアを取り出したり(USBフラッシュメモリーを抜いたり)、双方の電源を切ったりしないでください。メディアが壊れたり、楽器本体/メディアのデータが壊れたりするおそれがあります。

コンピューターと接続する

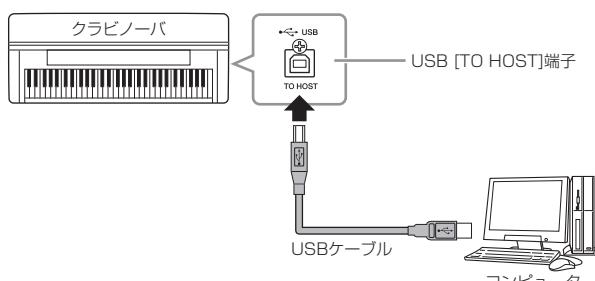
USBケーブルを使ってクラビノーバのUSB [TO HOST]端子とコンピューターを接続すると、コンピューターとデータをやりとりしたり、コンピューター用の音楽ソフトを楽しんだりできます。

1. USBケーブルを接続する前に、楽器の電源を切る

2. コンピューターを起動させる

コンピューター上のアプリケーションは、起動させないでください。

3. 楽器とコンピューターをUSBケーブルで接続する



4. 楽器の電源を入れる

お使いのコンピューターにUSB-MIDI ドライバーが自動でインストールされます。

対応OS : Windows XP (SP3以降)、Windows Vista、Windows 7、Mac OS X Version 10.5 ~ 10.6.x

通常はこの状態で通信できますが、動作が不安定だったり、不具合が発生したりする場合は、ヤマハ標準のUSB-MIDI ドライバーを下記のURLからインストールしてお使いください。インストール方法は、ダウンロードファイルに付属されているインストールガイドを参照してください。

http://www.yamaha.co.jp/download/usb_midi/

ヤマハ標準のUSB-MIDI ドライバーの対応OSについては、上記URLでご確認ください。

USB [TO HOST]端子ご使用時の注意

USB [TO HOST]端子でコンピューターと接続するときは、以下のことを行なってください。
以下のことを行なわないと、コンピューターや本体が停止(ハングアップ)して、データが壊れたり、失われたりするおそれがあります。

コンピューターや本体が停止したときは、アプリケーションやコンピューターを再起動したり、本体の電源を入れ直してください。

注記

- USBケーブルは、ABタイプのものをご使用ください。また、3メートル以下のケーブルをご使用ください。USB3.0ケーブルは、ご使用できません。
- USB [TO HOST]端子でコンピューターと接続する前に、コンピューターの省電力(サスPEND/スリープ/スタンバイ/休止)モードを解除してください。
- 本体の電源を入れる前に、USB [TO HOST]端子とコンピューターを接続してください。
- 本体の電源オン/オフやUSBケーブルの抜き差しをする前に、以下のことを行なってください。
 - すべてのアプリケーションを終了させてください。
 - 本体からデータが送信されていないか確認してください。(鍵盤を演奏したりソングを再生させたりしても、本体からデータが送信されます。)
- 本体の電源オン/オフやUSBケーブルの抜き差しは、6秒以上間隔を空けて行なってください。

NOTE

楽器のMIDI [IN]/[OUT]端子を使ってコンピューターと接続することもできます。この場合は、USBケーブルの代わりにヤマハUX16などのMIDIインターフェースを使用します。接続方法については、MIDIインターフェースの取扱説明書をご覧ください。

NOTE

楽器がコンピューターとUSB接続されているときは、MIDI端子は使用できません。

NOTE

使用するコンピューターやシーケンスソフトウェアでの必要なMIDI設定については、それぞれの取扱説明書をお読みください。

コンピューターからMIDIソングデータを楽器に読み込む

ヤマハのソフトウェア「ミュージックソフトダウンローダー」を使えば、コンピューター内のMIDIソングデータを楽器に読み込むことができます。コンピューターからソングデータを楽器に読み込む方法は、ミュージックソフトダウンローダーについているヘルプ「コンピューターと電子楽器の間でデータを転送する」をご参照ください。

楽器に読み込めるデータ

- データフォーマット: SMFフォーマット0、フォーマット1
- データ容量: 合計約1.5MB

ミュージックソフトダウンローダーは、下記URLからダウンロードできます(無料)。

<http://www.yamaha.co.jp/download/msd/>

NOTE

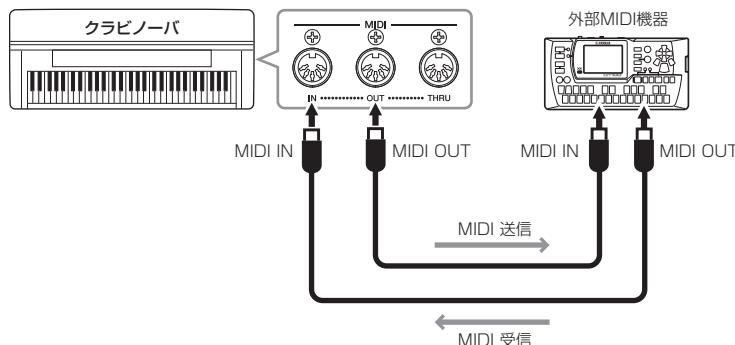
SMFフォーマット0や1のデータでも、この楽器が対応しないデータを含む場合は、データどおりに再生できません。

外部MIDI機器と接続する

ミディ
MIDIケーブルを使って、クラビノーバと外部MIDI機器(キーボード、シンセサイザー、シーケンサーなど)のMIDI端子を接続すると、この楽器から外部MIDI機器をコントロールしたり、外部MIDI機器からこの楽器をコントロールしたりできます。

⚠ 注意 外部機器と接続するときは、すべての機器の電源を切った上で行ってください。

- MIDI [IN] MIDIデータを受信する端子です。
MIDI [OUT] MIDIデータを送信する端子です。
MIDI [THRU] MIDI INから入ってきたデータをそのまま送信する端子です。複数の機器にMIDIデータを供給する場合などに使います。



NOTE

MIDIについては、PDFマニュアル「MIDI入門」で詳しく説明しています。

NOTE

MIDI機器の中でも、機種ごとに送受信できるMIDIデータの内容が同じではないため、接続しているMIDI機器間で共通に扱えるデータだけが送受信できることになります。この楽器で扱えるMIDIデータについては、PDFマニュアル「MIDIデータフォーマット」をご覧ください。

詳細設定編

各種の便利な設定をする[FUNCTION](ファンクション)

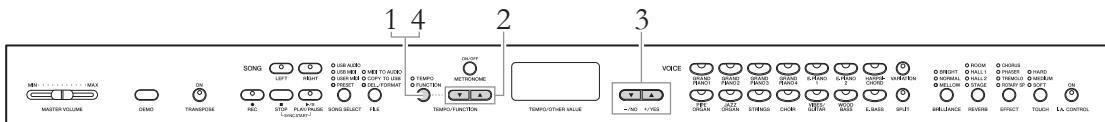
音の高さを微調整やメトロノームの音量設定など、いろいろ便利な設定ができます。それらをまとめて「ファンクション(=機能)」と呼んでいます。

ファンクション一覧

ファンクション		ファンクション番号		ページ
		CLP-470/440/ S408/S406	CLP-430	
音の高さの微調整(チューニング)		F1.	F1.	47
音律(調律法)の設定	音律(調律法)の種類の設定	F2.1	F2.1	47
	基音の設定	F2.2	F2.2	47
デュアルの設定	2音色の音量バランスの設定	F3.1	F3.1	48
	2音色の音の高さを微妙にずらす設定	F3.2	F3.2	48
	第1音色のオクターブシフトの設定	F3.3	F3.3	48
	第2音色のオクターブシフトの設定	F3.4	F3.4	48
	第1音色のエフェクトのかかり具合の設定	F3.5	F3.5	48
	第2音色のエフェクトのかかり具合の設定	F3.6	F3.6	48
	初期設定に戻す操作	F3.7	F3.7	48
	スプリットポイントの設定	F4.1	—	48
スプリットの設定	2音色の音量バランスの設定	F4.2	—	49
	右側音色のオクターブシフトの設定	F4.3	—	49
	左側音色のオクターブシフトの設定	F4.4	—	49
	右側音色のエフェクトのかかり具合の設定	F4.5	—	49
	左側音色のエフェクトのかかり具合の設定	F4.6	—	49
	ダンパーべダルの有効域の設定	F4.7	—	49
	初期設定に戻す操作	F4.8	—	49
	[PLAY/PAUSE]機能のペダルへの割り当て	F5.1	F4.1	49
ペダルや音響の設定	ハーフペダルポイントの設定	F5.2	F4.2	49
	ダンパーべダル使用時の共鳴効果(ダンパーレゾナンス)のかかり具合の設定	F5.3	F4.3	49
	ソフトペダル効果のかかり具合の設定	F5.4	F4.4	49
	弦共鳴音効果(ストリングレゾナンス)のかかり具合の設定	F5.5	—	50
	ダンパーべダル使用時の共鳴効果(サステインサンプリング)のかかり具合の設定	F5.6	—	50
	キオフ音の音量設定	F5.7	—	50
MIDIソングの再生チャンネル選択		F5.8	F4.5	50
音量の設定	メトロノーム音量の設定	F6.1	F5.1	50
	オーディオソング再生音量の設定	F6.2	F5.2	50
MIDI機能の設定	MIDI送信チャンネルの設定	F7.1	F6.1	51
	MIDI受信チャンネルの設定	F7.2	F6.2	51
	ローカルコントロールオン/オフの設定	F7.3	F6.3	51
	プログラムチェンジ送受信オン/オフの設定	F7.4	F6.4	51
	コントロールチェンジ送受信オン/オフの設定	F7.5	F6.5	51
	イニシャルセットアップ送信	F7.6	F6.6	52

ファンクション		ファンクション番号	ページ
		CLP-470/440/ S408/S406	CLP-430
バックアップオノ/オフの設定	音色関連項目のバックアップ設定	F8.1	F7.1 52
	MIDI関連項目のバックアップ設定	F8.2	F7.2 53
	音の高さ、音律関連項目のバックアップ設定	F8.3	F7.3 53
	その他の項目のバックアップ設定	F8.4	F7.4 53
文字種の切り替え		F8.5	F7.5 53
バックアップデータの保存/読み込み	バックアップデータの保存	F8.6	F7.6 53
	バックアップデータの読み込み	F8.7	F7.7 53

ファンクションでの基本操作



1. ファンクションモードに入る

[TEMPO/FUNCTION]ボタンを押して、FUNCTIONのランプを点灯させます。

ファンクションモードの画面 **F *.*** になります。(*.*のところは、そのときの使用状態によって異なる表示になります。)

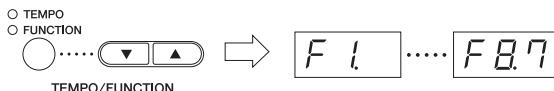
NOTE

以下の状態のときは、ファンクションモードに入れません。

- ・デモ曲モード(20ページ)
- ・ソング再生中/一時停止中(27ページ)
- ・録音モード(31ページ)
- ・ファイル操作モード(36ページ)

2. ファンクション番号を選ぶ

[TEMPO/FUNCTION ▼▲]ボタンでファンクション番号を選びます(CLP-470/440/S408/S406: **F l** ~ **F B 7**、CLP-430: **F l** ~ **F 7 7**)。



3. 設定する

[-/NO]/[+/YES]ボタンを押して、選択されたファンクションの設定をします。
[-/NO]と[+/YES]を同時に押すと該当ファンクションの初期設定に戻ります。
引き続きほかのファンクションを設定したい場合は、手順2に戻ります。



NOTE

ファンクション番号を選んだあと、最初に[-/NO]または[+/YES]ボタンを押したときは、現在の設定状態(設定値)が表示されます。

4. ファンクションモードを抜ける

[TEMPO/FUNCTION]ボタンを押すと、TEMPOのランプが点灯し、画面がテンポ表示に戻ります。

各ファンクション項目の説明

音の高さの微調整(チューニング)

[F 1]

楽器全体の音の高さを微調整する機能です。合奏のときや、CDの再生に合わせて演奏するときなど、ほかの楽器やCDの再生音などと音の高さを正確に合わせたい場合に使います。

NOTE

オーディオソング再生音の高さは変わりません。

[-/NO]/[+/YES]ボタンで、A3の鍵盤の音の高さをHzの数値で設定します(約0.2Hz単位)。

表示は10の位と1の位と小数点第一位で表示します。

例 440.2Hzのときの表示は [44.2] になります。

設定範囲: 427.0~453.0 (Hz)

初期設定: 440.0 (Hz)

Hz (ヘルツ)とは

音の高さを示す単位です。(音の高さは音波の振動数によって決まります。1秒間に何回振動するかという数値の単位がHzです。)

音律(調律法)の選択

音律(調律法)を選ぶ機能です。

現在もっとも一般的なピアノの調律法「平均律」が完成するまでには、時代と共にさまざまな音律が考えられ、またそれによる音楽が誕生しました。当時の調律法で演奏することでその曲が誕生したときの響きを味わえます。

次の7種類の音律(調律法)が用意されています。

イコールテンペラメント

• **平均律 (Equal Temperament)**
1オクターブを12の間隔で等分した音律です。現在もっともポピュラーなピアノの調律法です。

ピタゴラス音律 (Pythagorean Temperament)

ギリシャ時代の哲学者ピタゴラスによって考えられた5度音程だけの組み合わせからできた音律です。3度はうなりが生じますが5度と4度の音程が美しく、旋律の演奏に向いています。

ミートーン テンペラメント

• **中全音律 (Meantone Temperament)**
ピタゴラス音律の3度の音程のうなりをなくすために改良された音律です。十六世紀後半から十八世紀後半までにかけて広く普及し、ヘンデルも使用しました。

・ヴェルクマイスター音律 (Werckmeister)

キルンベルガー

中全音律とピタゴラス音律を組み合わせた音律で、両者はその組み合わせかたが異なります。転調により曲想が変化するのが特徴です。バッハやベートーベン時代に使用され、現在でもその時代の音楽をハープシコード(=チェンバロ)などで演奏するときにはしばしば用いられます。

音律(調律法)の種類の設定

[F 2.1]

設定範囲: 1 平均律

2 純正律(長調)

3 純正律(短調)

4 ピタゴラス音律

5 中全音律

6 ヴェルクマイスター音律

7 キルンベルガー音律

初期設定: 1 平均律

基音の設定

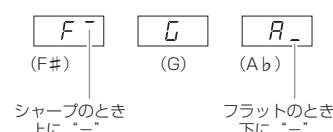
[F 2.2]

平均律以外のときは、基音(演奏する曲の調の主音)を設定する必要があります。設定した基音の調に対して各音律の効果が得られます。(平均律を選んでいても基音の設定はできますが、平均律では意味を持ちません。他の音律を選んだときに意味を持つようになります。)

設定範囲: C, C#, D, E♭, E, F, F#, G, A♭, A, B♭, B

初期設定: C

基音表示の例



デュアルの設定

デュアルモードでの各種設定をします。2音色の音量バランスを調節したりなど、弾く曲に最適な設定を作ります。音色の組み合わせごとに設定します。

1. デュアルモードで音色を選んでから、ファンクションモードに入り、ファンクション番号を選びます。

2. [-/NO]/[+/YES]ボタンで、各種の設定をします。

ショートカット操作

デュアルの2つの音色ボタンを押したまま[TEMPO/FUNCTION]ボタンを押して、**[F3]**を呼び出すごとできます。

2音色の音量バランスの設定

[F3]

片方の音をメインにしてもう片方の音を薄く重ねるなど、2音色の音量バランスを工夫してみてください。

設定範囲: 0~20 (20に近付くほど第1音色の音量が大きくなる、10で同音量)

初期設定: 音色の組み合わせごと

2音色の音の高さを微妙にずらす設定

[F3]

2音色の音の高さを微妙にずらすと音に厚みが出ます。

設定範囲: -20~0~20 (+方向で第1音色の音の高さが高く、第2音色の音の高さが低くなる。
-方向で第2音色の音の高さが高く、第1音色の音の高さが低くなる。)

初期設定: 音色の組み合わせごと

NOTE

ずらすことができる音の幅は、低音域ほど大きく(A-1で±60セント)、高音域ほど小さく(C7で±5セント)なっています。(100セント=1半音)

第1音色のオクターブシフトの設定

[F3]

第2音色のオクターブシフトの設定

[F3]

音の高さを1オクターブ上下にシフトさせます。第1音色と第2音色を別々に設定できます。音の響きかたが違ってきます。

設定範囲: -1、0、1

初期設定: 音色の組み合わせごと

NOTE

「第1音色」「第2音色」については、23ページをご覧ください。

第1音色のエフェクトのかかり具合の設定

[F3]

第2音色のエフェクトのかかり具合の設定

[F3]

エフェクトのかかり具合を第1音色と第2音色を別々に設定します。

設定範囲: 0~20

初期設定: 音色の組み合わせごと

NOTE

「第1音色」「第2音色」については、23ページをご覧ください。

初期設定に戻す操作

[F3]

[+/YES]ボタンを押すと上記すべてのデュアルの設定が、その音色の組み合わせが持つ初期設定に戻ります。

スプリットの設定

470 | 440 | 430 | S408 | S406

スプリットモードでの各種設定をします。スプリットポイントを変更したりなど、弾く曲に最適な設定を作ります。

1. スプリットモードで音色を選んでから、ファンクションモードに入りファンクション番号を選びます。

2. [-/NO]/[+/YES]ボタンで、各種の設定をします。

ショートカット操作

[SPLIT]ボタンを押したまま[TEMPO/FUNCTION]ボタンを押して、**[F4]**を呼び出すごとできます。

スプリットポイントの設定

[F4]

左鍵域と右鍵域の境め(スプリットポイント)にする鍵盤を指定します。スプリットポイントの鍵盤自体は左鍵域に含まれます。

設定範囲: 全鍵盤

初期設定: F#2

NOTE

[-/NO] [+/YES]ボタンの代わりに、スプリットポイントにしたい鍵盤を押しても設定できます。

ファンクションモードでないとき、[SPLIT]ボタンを押し押したまま、スプリットポイントにしたい鍵盤を押しても設定できます。(24ページ)

スプリットポイントの鍵盤名表示の例



シャープのとき
上に “-”

フラットのとき
下に “-”

2音色の音量バランスの設定

[F42]

組み合わせる音色により、2音色の音量バランスを好みの状態に設定します。音色の組み合わせごとに設定されます。

設定範囲: 0~20 (20に近付くほど右側音色の音量が大きくなる、10で同音量)

初期設定: 音色の組み合わせごと

右側音色のオクターブシフトの設定

[F43]

左側音色のオクターブシフトの設定

[F44]

音の高さを1オクターブ上下にシフトさせます。右側音色と左側音色別々に設定できます。弾く曲の音域などに応じて選んでください。音色の組み合わせごとに設定されます。

設定範囲: -1、0、1

初期設定: 音色の組み合わせごと

右側音色のエフェクトのかかり具合の設定

[F45]

左側音色のエフェクトのかかり具合の設定

[F46]

エフェクトのかかり具合を右側音色と左側音色別々に設定します。

設定範囲: 0~20

初期設定: 音色の組み合わせごと

ダンパーべダルの有効域の設定

[F47]

ダンパーべダル効果を両音色にかけるか(ALL)、右側音色にだけかけるか(1)、左側音色にだけかけるか(2)を設定します。

設定範囲: ALL (両音色)、1 (右側の音色)、2 (左側の音色)

初期設定: 1

初期設定に戻す操作

[F48]

[+]/YES]ボタンを押すと上記すべてのスプリットの設定がその音色の組み合わせが持つ初期設定に戻ります。

ペダルや音響の設定

ペダルに[PLAY/PAUSE]機能を割り当てたり、ダンパーべダルの共鳴効果のかかり具合を設定します。

[PLAY/PAUSE]機能のペダルへの割り当て

[F51]

470 | 440 | 430 | S408 | S406

[F41]

470 | 440 | 430 | S408 | S406

左のペダルかまん中のペダルをパネルの[PLAY/PAUSE]ボタンと同じ機能に切り替えることができます。[PLAY/PAUSE]機能を割り当てるとき、元の機能(ソフトまたはソステヌート)は無効になります。

設定範囲: OFF、1 (左のペダル)、2 (まん中のペダル)

初期設定: OFF

ハーフペダルポイントの設定

[F52]

470 | 440 | 430 | S408 | S406

[F42]

470 | 440 | 430 | S408 | S406

ダンパーべダルをどのくらい踏み込めばハーフペダル効果がかかるかを設定します。

設定範囲: -2 (浅い位置で効く)~0~4 (深い位置で効く)

初期設定: 0

ダンパーべダル使用時の共鳴効果(ダンパーレゾナンス)のかかり具合の設定

[F53]

470 | 440 | 430 | S408 | S406

[F43]

470 | 440 | 430 | S408 | S406

GRAND PIANO1~GRAND PIANO4(各音色VARIATIONを含む)の音色で、ダンパーべダルを踏んだときに加わる、弦の共鳴効果のかかり具合を設定します。

設定範囲: 0~10

初期設定: 音色ごと

ソフトペダル効果のかかり具合の設定

[F54]

470 | 440 | 430 | S408 | S406

[F44]

470 | 440 | 430 | S408 | S406

設定範囲: 1~10

初期設定: 5

弦共鳴音効果(ストリングレゾナンス)のかかり具合の設定

[F5.5]

470 | 440 | 430 | S408 | S406

GRAND PIANO1～GRAND PIANO3 (各音色
VARIATIONを含む)の音色で、弦共鳴音効果のかかり具合を
設定します。

設定範囲: 0～10

初期設定: 5

ダンパーべダル使用時の共鳴効果(サステインサンプリング) のかかり具合の設定

[F5.6]

470 | 440 | 430 | S408 | S406

以下の音色で、ダンパーべダルを踏んだときの共鳴効果に追
加される音響効果のかかり具合を設定します。

- GRAND PIANO1 (VARIATIONを含む)
- GRAND PIANO2 (VARIATIONのみ)
- GRAND PIANO3 (VARIATIONを含む)
- GRAND PIANO4 (VARIATIONのみ)

設定範囲: 0～10

初期設定: 5

キーオフ音の音量設定

[F5.7]

470 | 440 | 430 | S408 | S406

以下の音色で、キーオフ音(鍵盤を離したときの微妙な発音)
の音量を設定します。

- GRAND PIANO1 (VARIATIONを含む)
- GRAND PIANO2 (VARIATIONを含む)
- GRAND PIANO3 (VARIATIONを含む)
- GRAND PIANO4 (VARIATIONのみ)
- E.PIANO2 (VARIATIONは含まない)
- HARPSICHORD (VARIATIONを含む)

設定範囲: 0～10

初期設定: 5

ミディ MIDIソングの再生チャンネル選択

[F5.8]

470 | 440 | 430 | S408 | S406

[F4.5]

470 | 440 | 430 | S408 | S406

[−/NO]/[+/YES]ボタンで、MIDIソングを再生させるチャ
ンネルを選択します。

オール
設定範囲: ALL、1&2

初期設定: ALL

「ALL」では、チャンネル1～16すべてが再生されます。
「1&2」では、チャンネル1と2だけが再生され、3～16
チャンネルは接続した外部機器にMIDI送信されます。

音量の設定

メトロノームの音量やオーディオソングの再生音量を設定し
ます。

メトロノーム音量の設定

[F5.1]

470 | 440 | 430 | S408 | S406

[F5.1]

470 | 440 | 430 | S408 | S406

設定範囲: 1～20

初期設定: 15

ショートカット操作

[METRONOME]ボタンを押したまま[TEMPO/FUNCTION]ボタンを押す
と、直接このファンクション番号を呼び出せます。

オーディオソング再生音量の設定

[F5.2]

470 | 440 | 430 | S408 | S406

[F5.2]

470 | 440 | 430 | S408 | S406

設定範囲: 1～20

初期設定: 16

ショートカット操作

オーディオソング再生中に、[TEMPO/FUNCTION]ボタンを押したまま、
[−/NO]/[+/YES]ボタンを押して、設定することもできます。

MIDI機能の設定

MIDIに関する各種設定/操作をします。

MIDIについての説明をPDFマニュアル「MIDI入門」でご覧いただけます。

ここでのMIDIに関する設定は、MIDI端子だけでなく、USB [TO HOST]端子での信号の入出力に対しても有効です。

MIDI送信チャンネルの設定

F73

470 | 440 | 430 | S408 | S406

F51

470 | 440 | 430 | S408 | S406

MIDI楽器どうしで、演奏情報を送受信するためには送信側と受信側でMIDIチャンネル(1~16チャンネル)を合わせておく必要があります。ここでクラビノーバから外部機器へ手弾き音のMIDIデータを送信するときのチャンネルを設定します。

選択範囲: 1~16、OFF(送信しない)

初期設定: 1

デュアルのときの第2音色、スプリット(CLP-470/440/S408/S406)のときの左側音色は

ここで設定したチャンネルの次のチャンネルで送信されます。
(第1音色、右側音色は、ここで設定したチャンネルで送信されます。)
ただし、上記設定チャンネルをオフに設定した場合は送信されません。

ソングデータは

MIDI送信されません。ただし、プロテクトがかかっていないソングは、MIDIソングの再生チャンネル選択(50ページ)で「1&2」を選んだ場合に、3~16チャンネルがMIDI送信されます。

MIDI受信チャンネルの設定

F72

470 | 440 | 430 | S408 | S406

F52

470 | 440 | 430 | S408 | S406

MIDI楽器どうしで、演奏情報を送受信するためには送信側と受信側でMIDIチャンネル(1~16チャンネル)を合わせておく必要があります。ここでクラビノーバが外部機器からMIDIデータを受信するときのチャンネルを設定します。

オール

選択範囲: ALL、1&2、1~16

初期設定: ALL

ALLの場合は

外部MIDI機器から送信されるすべてのチャンネルのデータを、同時に受信します。したがって、シーケンサーなどから送信される複数チャンネルの演奏データを、この楽器で再生できます。

「1&2」の場合は

シーケンサーなどの外部MIDI機器から1、2チャンネルのデータだけ受信し、この楽器で再生します。

NOTE

この楽器でパネル設定や手弾き音は、送信されてくるプログラムチェンジ(音色切り替え)などから影響を受けません。

NOTE

デモ曲モード中やファイル操作中には、MIDI受信されません。

ローカルコントロールオン/オフの設定

F73

470 | 440 | 430 | S408 | S406

F53

470 | 440 | 430 | S408 | S406

この楽器の鍵盤演奏を内部の音源で鳴らすかどうかを設定します。通常、楽器の鍵盤を弾くと本体内部の「音源部」から音が出ます。この状態は「ローカルコントロールオン」と呼ばれます。「ローカルコントロールをオフ」になると、「鍵盤」と「音源」が切り離され、鍵盤を弾いても楽器本体からは音が出なくなりますが、演奏データはMIDI送信されます。鍵盤演奏を外部音源で鳴らしたいときは、ローカルコントロールをオフにします。

選択範囲: ON/OFF

初期設定: ON

プログラムチェンジ送受信オン/オフの設定

F74

470 | 440 | 430 | S408 | S406

F54

470 | 440 | 430 | S408 | S406

MIDIで送信側の機器から受信側の機器の音色を切り替える情報をプログラムチェンジと言います。

たとえばこの楽器からプログラムチェンジを送信すると接続した外部機器の音色を切り替えることができます。(楽器のパネルで音色を切り替えたときに、切り替えた音色のプログラムチェンジナンバーが送信されます。)逆に接続した外部機器から送信されたプログラムチェンジを受信すると、同時に受信しているMIDIの演奏データの音色が切り替わります。(このとき鍵盤での手弾き音色は切り替わりません。)

プログラムチェンジの送受信をしたい場合(外部機器と音色切り替えを連動させたい場合)はオンに、送受信したくない場合(外部機器と音色切り替えを連動させたくない場合)はオフにします。

NOTE

各音色のプログラムチェンジナンバーについては、PDFマニュアル「MIDIデータフォーマット」を参照してください。

選択範囲: ON/OFF

初期設定: ON

コントロールチェンジ送受信オン/オフの設定

F75

470 | 440 | 430 | S408 | S406

F55

470 | 440 | 430 | S408 | S406

MIDIで送信側の機器から受信側の機器にダンパーべダルの操作やボリュームなどの演奏表現を伝える情報をコントロールチェンジと言います。

たとえばこの楽器からコントロールチェンジを送信すると接続した外部機器の演奏をコントロールすることができます。(この楽器でダンパーべダルなどを操作したときにコントロールチェンジが送信されます。)逆に接続した外部機器からコントロールチェンジを受信すると、MIDIの演奏にコントロールチェンジの効果が付きます。(このとき鍵盤での手弾き音は影響を受けません。)

コントロールチェンジの送受信をしたい場合はオンに、送受信したくない場合はオフにします。

NOTE

この楽器が扱えるコントロールチェンジ情報については、PDFマニュアル「MIDIデータフォーマット」を参照してください。

選択範囲: ON/OFF

初期設定: ON

イニシャルセットアップ送信

[F76]

470 440 430 S408 S406

[F55]

470 440 430 S408 S406

接続したシーケンサーなどの外部機器にイニシャルセットアップデータ(楽器のパネル設定状態のデータ)を送信します。演奏データを録音する前にイニシャルセットアップ送信をすると、演奏データの頭にセットアップデータを記録しておくことができます。また、音源モジュールにセットアップデータを送信すれば、音源モジュールを楽器と同様の設定にすることができます。

1. 送信するパネル設定を作ります。
2. シーケンサーなどを接続し、シーケンサー側のセットアップデータ受信準備を整えます。
3. ファンクションモードに入って、ファンクション番号を選びます。
4. [+ / YES]ボタンを押すと送信が実行されます。

送信が終わると、[End] が表示されます。

以下のデータをイニシャルセットアップ送信できます。

- ・ 音色
- ・ リバーブの種類とかかり具合
- ・ エフェクトの種類とかかり具合
- ・ (CLP-470/440/S408/S406))スプリットポイント
- ・ 音律 [F2.1]
- ・ デュアル2音色のバランス [F3.1]
- ・ 2音色の音の高さを微妙にずらす設定の値 [F3.2]
- ・ (CLP-470/440/S408/S406) スプリット2音色の音量バランス [F4.2]
- ・ ダンパーレゾナンスのかかり具合 [F5.3] (CLP-470/440/S408/S406)/ [F4.3] (CLP-430)
- ・ ソフトペダル効果のかかり具合 [F5.4] (CLP-470/440/S408/S406)/ [F4.4] (CLP-430)
- ・ (CLP-470/440/S408/S406) ストリングレゾナンスのかかり具合 [F5.5]
- ・ (CLP-470/440/S408/S406) サステインサンプリングのかかり具合 [F5.6]

- ・ (CLP-470/440/S408/S406) キーオフ音の音量

[F5.7]

バックアップオン/オフの設定

バックアップとは、ご自身で設定した音色選択や、リバーブタイプなどの設定を、電源を切っても消さずに残しておくことです。

バックアップをオンにしておくと、次回電源を入れたときにも前回の設定が有効になります。

バックアップをオフにしておくと、電源をオフにした時点でメモリーの内容は消され、次回電源を入れたときには初期設定(60ページ)に戻ります。

ただし「本体内に録音された演奏データ」、「文字種の切り替え」、ここでの「バックアップオン/オフの設定」自体は常にバックアップされます。

注記

設定を保存するまでに、数秒かかります。設定変更後すぐに電源を切ると、設定が保存されないことがあります。

音色関連項目のバックアップ設定

[FB.1]

470 440 430 S408 S406

[F7.1]

470 440 430 S408 S406

設定範囲: ON/OFF

初期設定: OFF

バックアップ内容

- ・ 音色選択
 - ・ デュアルモードのオン/オフと音色
 - ・ デュアルの諸設定 [F3.1] ~ [F3.6] (音色の組み合わせごと)
 - ・ リバーブの種類とかかり具合(音色ごと)
 - ・ エフェクトの種類とかかり具合(音色ごと)
 - ・ タッチ感度の設定(FIXED時の音量も含む)
 - ・ メトロノームの拍子と音量
- 音量は、[F5.1] (CLP-470/440/S408/S406)/
[F5.1] (CLP-430)
- ・ ダンパーレゾナンスのかかり具合 [F5.3] (CLP-470/440/S408/S406)/ [F4.3] (CLP-430)

(以下は CLP-470/440/S408/S406)

- ・ パリエーションのオン/オフ
- ・ スプリットモードのオン/オフと音色
- ・ スプリットの諸設定 [F4.1] ~ [F4.7] (音色の組み合わせごと)

MIDI関連項目のバックアップ設定

[F8.2]

470 | 440 | 430 | S408 | S406

[F7.2]

470 | 440 | 430 | S408 | S406

設定範囲: ON/OFF

初期設定: ON

バックアップ内容

- MIDI機能の諸設定 [F7.1] ~ [F7.5] (CLP-470/440/S408/S406) / [F6.1] ~ [F6.5] (CLP-430)

音の高さ、音律関連項目のバックアップ設定

[F8.3]

470 | 440 | 430 | S408 | S406

[F7.3]

470 | 440 | 430 | S408 | S406

設定範囲: ON/OFF

初期設定: ON

バックアップ内容

- トランスポーズの設定
- 音の高さの微調整 [F1]
- 音律(調律法)の種類と基音の設定 [F2.1]、[F2.2]

その他の項目のバックアップ設定

[F8.4]

470 | 440 | 430 | S408 | S406

[F7.4]

470 | 440 | 430 | S408 | S406

設定範囲: ON/OFF

初期設定: ON

バックアップ内容

- ペダルと音響の諸設定 [F5.1]、[F5.2]、[F5.4] ~ [F5.7] (CLP-470/440/S408/S406) / [F4.1]、[F4.2]、[F4.4] (CLP-430)
- MIDIソングの再生チャンネル [F5.8] (CLP-470/440/S408/S406) / [F4.5] (CLP-430)
- オーディオソング再生音量 [F5.2] (CLP-470/440/S408/S406) / [F5.2] (CLP-430)
- ブリリアンスの設定
- I. A.コントロールのオン/オフとかかり具合

文字種の切り替え

[F8.5]

470 | 440 | 430 | S408 | S406

[F7.5]

470 | 440 | 430 | S408 | S406

この楽器で曲が読み込めない場合は、ファイル名の文字種に問題があることがあります。ここで文字種を切り替えてみてください。

設定範囲: Int (International)/JA (Japanese)

初期設定: JA

バックアップデータの保存/読み込み

本体設定および本体に録音/保存したソング(USER MIDI内のソング)のデータを、USB記憶装置に1つのファイル(拡張子:.bup)にまとめて保存します。逆に、USB記憶装置に保存したファイルを、楽器に読み込んで、本体設定やソングを再現させることができます。

- USB記憶装置を接続します。
- ファンクションモードに入り、ファンクション番号を選びます。
- [+/YES]ボタン押すと保存/読み込みが実行されます。
(読み込みの場合は、[+/YES]ボタンを2回押します。)
保存/読み込みが終わると、[End] が表示されます。

注記

バックアップデータの保存/読み込み中は電源を切らないでください。電源を切ると、データの破損の原因になります。

バックアップデータの保存

[F8.6]

470 | 440 | 430 | S408 | S406

[F7.6]

470 | 440 | 430 | S408 | S406

バックアップデータ(本体設定とUSER MIDIのソング)をUSB記憶装置に保存します。

バックアップファイル名

- CLP-470: clp-470.bup
CLP-440: clp-440.bup
CLP-430: clp-430.bup
CLP-S408: clp-s408.bup
CLP-S406: clp-s406.bup

バックアップデータの読み込み

[F8.7]

470 | 440 | 430 | S408 | S406

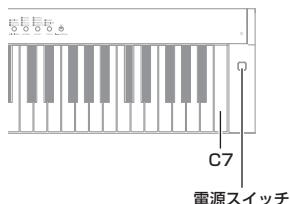
[F7.7]

470 | 440 | 430 | S408 | S406

USB記憶装置に保存したバックアップデータ(本体設定とUSER MIDIのソング)をクラビノーバに読み込んで、元に戻します。読み込みが終わると、楽器が自動的に再起動します。

初期設定(工場出荷時の状態)に戻す

右端の白鍵(C7)を押したまま電源スイッチを押して電源を入れます。この操作をすると、本体に記憶されているバックアップデータ(ファンクションでのバックアップオン/オフの設定も含む)が消去され、初期設定に戻ります。本体メモリーに保存したユーザーソングや外部ソングは消去されません。



初期設定とは

本書では、はじめて電源を入れたときの設定(工場出荷時の設定)のことを「初期設定」と呼んでいます。

注記

「CLr」が表示されているときに電源を切らないでください。電源を切ると、外部ソングを含むすべてのソングデータ(26ページ)が消去されるおそれがあります。

付録

メッセージ一覧

メッセージ	内容
CLr	<p>楽器を初期設定(初めて電源を入れたときの設定)に戻しています。</p> <p>注記 「CLr」が表示されているときに電源を切らないでください。電源を切ると、外部ソングを含むすべてのソングデータ(26ページ)が消去されるおそれがあります。</p>
con	楽器をコンピューターと接続してミュージックソフトダウンローダーを使用しています。このメッセージが表示されるときは、楽器の操作ができません。
E01	<p>文字種の設定(53ページ)が、選択しようとしているソングのファイル名に合っていません。文字種を切り替えてください。</p> <p>この楽器では対応していないデータ形式です。または、データに問題があるため選択できません。</p> <p>USB記憶装置が見つかりません。または、USB記憶装置に異常が発生しました。USB記憶装置を接続し直してから、操作を実行してください。ほかに問題がないのに、このメッセージが繰り返し表示される場合は、USB記憶装置が壊れている可能性があります。</p> <p>バックアップデータの読み込みができません。バックアップデータがありません。または壊れています。</p>
E02	USB記憶装置にプロテクトがかかっています。
E03	USB記憶装置のメモリーの空き容量が不足しています。またはファイルやフォルダーの数が制限を超みました。
E04	オーディオ変換や、オーディオソングの再生/録音に失敗しました。録音や削除を繰り返し行なったUSB記憶装置をお使いの場合は、必要なデータが入っていないのを確認してからフォーマットし(39ページ)、楽器に接続してください。
EEE	本体に異常が発生しました。巻末のヤマハ修理ご相談センターに点検をご依頼ください。
End	処理が終わりました。
Enp	楽器本体またはUSB記憶装置のメモリーの空き容量が少なくなりました。録音を始める前に不要なファイルを削除(38ページ)して、空き容量を確保することをおすすめします
FCL	<p>処理中に電源を切ったので、楽器本体のメモリーが初期化されました。本体設定や本体に録音/保存したソング(USER MIDI内のソング)のデータが消去されています。</p> <p>注記 「FCL」が表示されているときに電源を切らないでください。</p>
For	USB記憶装置のフォーマットモードに入ります。
FUL	楽器本体またはUSB記憶装置のメモリーの空き容量が不足しているため、データの処理ができませんでした。録音中にこのメッセージが表示されたときは、演奏データが正しく保存されない場合があります。
n y	操作を実行しますか？
n~y	データの上書きや削除、またはUSB記憶装置のフォーマットを実行しますか？
Pro	プロテクトがかかったソング、または読み取り専用のファイルです。データの削除や上書きはできません。読み取り専用のファイルは、コンピューターで読み取り専用を解除してからお使いください。
StP	オーディオ変換を中止しました。
UnF	フォーマットされていないUSB記憶装置が接続されています。必要なデータが入っていないのを確認してからフォーマットしてください(39ページ)。
Uoc	USB機器に過電流が流れたため、USB機器との通信を停止しました。USB機器を[USB TO DEVICE]端子から抜き、本体の電源を入れ直してください。
UU1	USB機器と通信できません。USB機器を接続し直してください。正しく接続してもこのメッセージが表示される場合は、USB機器が壊れている可能性があります。
UU2	このUSB機器は、この楽器では使えません。または、接続できるUSB機器の数が制限を超みました。「USB記憶装置を接続する」(42ページ)をご参照ください。

メッセージを消すには、[-/NO]ボタンを押してください。

困ったときは

画面にメッセージが表示された場合は、メッセージ一覧(55ページ)をご参照ください。

現象	原因と解決法
電源が入らない。	電源プラグが差し込まれていません。電源プラグを本体と家庭用(AC100V)コンセントに、確実に差し込んでください(14ページ)。
電源スイッチを押して電源を入れたとき、または切ったとき、「カチッ」と音がする。	電気が流れたためです。異常ではありません。
クラビノーバから雑音が出る。	クラビノーバの近くで携帯電話を使ったり、呼び出し音が鳴ったりすると、雑音が出る場合があります。クラビノーバの近くでは携帯電話の電源を切ってください。
全体的に音が小さい。まったく音が出ない。	音量(マスター・ボリューム)が下がっています。[MASTER VOLUME]スライダーで音量を上げてください(15ページ)。 ヘッドフォンを接続しています。ヘッドフォンのプラグを抜くか、[SPEAKER]スイッチをONにしてください(15ページ)。 [SPEAKER]スイッチがOFFになっています。[SPEAKER]スイッチをNORMALまたはONにしてください(15ページ)。 ローカルコントロールがオフになっています。ローカルコントロールをオンにしてください(51ページ)。
ヘッドフォンを[PHONES]端子に差してもスピーカーから音が出る。	[SPEAKER]スイッチがONになっています。[SPEAKER]スイッチをNORMALにしてください(15ページ)。
ペダルが効かない。	ペダルコードのプラグが[PEDAL]端子にしっかり差し込まれていません。本体の電源を切った状態で、ペダルコードのプラグを[PEDAL]端子に確実に差し込んでください。その際、プラグの金属部分が見えなくなるまで、しっかり差し込んでください(65、68、71、74ページ)。
特定の音域でピアノ音色の音の高さ、音質がおかしい。	ピアノ音色では、ピアノ本来の音ができる限り忠実に再現しようとしております。その結果、音域により倍音が強調されて聞こえるなど、音の高さや音域が異質に感じる場合があります。異常ではありません。
スピーカーまたはヘッドフォンの音質や音量感が変わった。	本体のスピーカーまたはヘッドフォンから出力される音の音質は、AUX OUT端子への外部機器の接続状況に応じて適切な設定になるように自動的に切り替わります。41ページの表で確認してください。
鍵盤を弾くと、機構音がカタカタ鳴る。	この楽器の鍵盤機構は、ピアノの鍵盤機構をシミュレートして設計されています。ピアノの場合でも機構音は実際に出ているものです。異常ではありません。
USB記憶装置がフリーズする、または動作しない。	メッセージが表示された場合は、メッセージ一覧(55ページ)をご確認ください。メッセージが表示されない場合は、USB記憶装置が壊れている可能性があります。

音色一覧

CLP-470/440/S40B/S406

音色名	タッチによる音の強弱	ステレオサンプリング	キオフサンプリング	サステインサンプリング	ストリングレゾナンス	音色紹介
GRAND PIANO 1 (グランドピアノ1)	○	○	○	○	○	コンサートグランドピアノからサンプリングされたこの音色は、弱いタッチから強いタッチまでのなめらかな音色変化が表現できます。また、ダンパーべダル使用時のペダル位置による音色変化、鍵盤を離したタイミングによる微妙な発音など、さまざまな要素においてアコースティックピアノに極限まで近づけたせいたくな音作りです。また、生ピアノ独特の、弦どうしの共鳴（ストリングレゾナンス）も再現しました。クラシックはもちろん、どんなジャンルのピアノ曲にも合います。
バリエーション	○	○	○	○	○	スタンダードですが、温かみのあるソフトなピアノの音です。パラードの演奏に最適です。
GRAND PIANO 2 (グランドピアノ2)	○	○	○	—	○	アタック感がない、メローナピアノの音です。静かなゆったりとした音楽に最適です。
バリエーション	○	○	○	○	○	温かみあるしっとりとしたピアノの音です。落ち着いた曲に合います。
GRAND PIANO 3 (グランドピアノ3)	○	○	○	○	○	ライトなピアノの音です。クリアに音を目立たせたい曲に最適です。
バリエーション	○	○	○	○	○	GrandPianoより少し明るめなピアノの音です。ポピュラー系の音楽に最適です。
GRAND PIANO 4 (グランドピアノ4)	○	○	—	—	—	明るい響きを持つ広がりあるクリアなピアノの音です。ポピュラー音楽に最適です。
バリエーション	○	○	○	○	—	低音感のある硬い感じのピアノ音です。ダイナミック感ある演奏に合います。
E.PIANO 1 (エレクトリックピアノ1)	○	—	—	—	—	FMシンセサイザーによる電子ピアノの音です。タッチの強弱に応じて音色の変化も楽しめます。ポピュラー音楽に最適です。
バリエーション	○	—	—	—	—	ポピュラー音楽でよく耳にするシンセサイザーによる電子ピアノの音です。ピアノとのデュアルでも楽しめます。
E.PIANO 2 (エレクトリックピアノ2)	○	—	○	—	—	金属片をハンマーでたたいて発音させる電気ピアノの音です。弱く弾いたときは柔らかく、強く弾くと芯のある音がします。
バリエーション	○	—	—	—	—	異なるタイプの電気ピアノの音です。ロック、ポピュラー音楽によく使われています。
HARPSICHORD (ハープシコード)	—	○	○	—	—	バロック音楽でよく使われる楽器の音です。タッチによって音量は変わらず、鍵盤を離したときには独特の発音があります。
バリエーション	—	○	○	—	—	オクターブ上の音がミックスされたハープシコードの音です。より華やかさが感じられます。
PIPE ORGAN (パイオルガン)	—	○	—	—	—	パイオルガンのブリンクル系(金管楽器系)の混合音栓の音(8フィート+4フィート+2フィート)です。バロック時代の教会音楽の演奏に適しています。
バリエーション	—	○	—	—	—	バッハの「トッカータとフーガ」で有名なパイオルガンのフルカabraーの音です。
JAZZ ORGAN (ジャズオルガン)	—	—	—	—	—	歯車回転式電気オルガンの音です。ジャズ、ロックなどの音楽でよく用いられます。左ペダルの操作で、エフェクト「ROTARY SP」(回転スピーカー)の回転の速い遅いを切り替えられます。
バリエーション	—	—	—	—	—	アタック感を取り除いた歯車回転式電気オルガンの音です。曲調によってノーマル音と使い分けて演奏をお楽しみください。左ペダルの操作で、エフェクト「ROTARY SP」(回転スピーカー)の回転の速い遅いを切り替えられます。
STRINGS (ストリングス)	○	○	—	—	—	ステレオサンプリングでリアルな響きがする大編成弦楽アンサンブルの音です。ピアノとのデュアルでも楽しめます。
バリエーション	○	○	—	—	—	立ち上がりの緩やかな広がりある弦楽アンサンブルの音です。ピアノや電子ピアノとのデュアルに向いています。
CHOIR (クワイア)	○	—	—	—	—	空間に広がる心和む合唱の音です。スローな曲で和音の広がりが得られます。
バリエーション	○	—	—	—	—	立ち上がりの緩やかな合唱の音です。ピアノや電子ピアノとのデュアルに向いています。
VIBES/GUITAR (ビブラフォン/ギター)	○	○	—	—	—	比較的柔らかなマレットでたたいたビブラフォンの音です。強く弾くほど金属的な音になります。
バリエーション	○	—	—	—	—	温かみのあるナチュラルなナイロンギターの音です。静かな曲で雰囲気を楽しんでください。
WOOD BASS (ウッドベース)	○	—	—	—	—	アップライトベースを指で弾く奏法の音です。ジャズやラテン音楽などによく用いられます。
バリエーション	○	—	—	—	—	シンバルの音を重ねてあります。ジャズのウォーキングベースに用いると効果的です。

音色名	タッチによる 音の強弱	ステレオ サンプリング	キーオフ サンプリング	サステイン サンプリング	ストリング レゾナンス	音色紹介
E.BASS (エレクトリック ベース)	○	—	—	—	—	エレクトリックベースの音です。ジャズ、ロック、ポピュラーなどの音楽によく用いられます。
バリエーション	○	—	—	—	—	フレッドレスベースの音です。ジャズ、フュージョンなどの音楽に向いています。

キーオフサンプリングとは

鍵盤を離したときの微妙な発音をサンプリングしたものです。

サステインサンプリングとは

ダンパーべダルを踏んだときの音をサンプリングしたものです。

ストリングレゾナンスとは

弦の共鳴音をシミュレーションしたものです。

音色名	タッチによる 音の強弱	ステレオ サンプリング	キーオフ サンプリング	音色紹介
GRAND PIANO 1 (グランドピアノ1)	○	○	—	コンサートグランドピアノからサンプリングされたこの音色は、弱いタッチから強いタッチまでのなめらかな音色変化が表現できます。クラシックはもちろん、どんなジャンルのピアノ曲にも合います。
GRAND PIANO 2 (グランドピアノ2)	○	○	—	アタック感がない、メローなピアノの音です。静かなゆったりとした音楽に最適です。
GRAND PIANO 3 (グランドピアノ3)	○	○	—	ライトなピアノの音です。クリアに音を目立たせたい曲に最適です。
GRAND PIANO 4 (グランドピアノ4)	○	○	—	明るい響きを持った広がりあるクリアなピアノの音です。ポピュラー音楽に最適です。
E.PIANO 1 (エレクトリックピアノ1)	○	—	—	FMシンセサイザーによる電子ピアノの音です。ポピュラー音楽に最適です。
E.PIANO 2 (エレクトリックピアノ2)	○	—	○	金属片をハンマーでたたいて発音させる電気ピアノの音です。弱く弾いたときは柔らかく、強く弾くと芯のある音がします。
HARPSICHORD (ハープシコード)	—	○	○	バロック音楽でよく使われる楽器の音です。タッチによって音量は変わらず、鍵盤を離したときには独特的の発音があります。
PIPE ORGAN 1 (パイプオルガン1)	—	○	—	パイプオルガンのプリンシバル系(金管楽器系)の混合音栓の音(8フィート+4フィート+2フィート)です。バロック時代の教会音楽の演奏に適しています。
PIPE ORGAN 2 (パイプオルガン2)	—	○	—	バッハの「トッカータとフーガ」で有名なパイプオルガンのフルカブラーの音です。
JAZZ ORGAN (ジャズオルガン)	—	—	—	歯車回転式電気オルガンの音です。ジャズ、ロックなどの音楽でよく用いられます。左ペダルの操作で、エフェクト「ROTARY SP」(回転スピーカー)の回転の速い/遅いを切り替えられます。
STRINGS 1 (ストリングス1)	○	○	—	ステレオサンプリングでリアルな響きがする大編成弦楽アンサンブルの音です。ピアノとのデュアルでも楽しめます。
STRINGS 2 (ストリングス2)	○	○	—	立ち上がりの緩やかな広がりある弦楽アンサンブルの音です。ピアノや電子ピアノとのデュアルに向いています。
CHOIR (クワイア)	○	—	—	空間に広がる心和む合唱の音です。スローな曲で和音の広がりが得られます。
VIBRAPHONE (ビブラフォン)	○	○	—	比較的柔らかなマレットでたたいたビブラフォンの音です。強く弾くほど金属的な音になります。

キーオフサンプリングとは

鍵盤を離したときの微妙な発音をサンプリングしたものです。

初期設定一覧

項目	初期設定値	バックアップオン/オフ設定	
		CLP-470/440/ S408/S406	CLP-430
タッチ感度	MEDIUM (ミディアム)	F8.1	F7.1
タッチ感度がFIXED (フィックスト)のときの音量	64	—	—
メトロノーム	オフ	—	—
メトロノームの拍子	0 (無拍子)	F8.1	F7.1
テンポ	120	—	—
音色	GRAND PIANO1 (グランドピアノ1)	F8.1	F7.1
バリエーション(CLP-470/440/S408/S406)	オフ		—
デュアル	オフ		F7.1
スプリット(CLP-470/440/S408/S406)	オフ		—
スプリット左側音色(CLP-470/440/S408/S406)	WOOD BASS (ウッドベース)		—
リバーブの種類、かかり具合	音色ごとの設定値		F7.1
エフェクトの種類、かかり具合	音色ごとの設定値	—	—
トランスポーズ	0	F8.3	F7.3
プリリアンスの種類	NORMAL (ノーマル)	F8.4	F7.4
I. A.コントロール	オン	F8.4	F7.4
I. A.コントロールのかかり具合	0		

ファンクション

ファンクション番号		項目	初期設定値	バックアップオン/オフ設定	
CLP-470/ 440/S408/ S406	CLP-430			CLP-470/ 440/S408/ S406	CLP-430
F1.	F1.	音の高さ	A3=440Hz	F8.3	F7.3
F2.1	F2.1	音律	1 (平均律)		
F2.2	F2.2	基音	C		
F3.1	F3.1	デュアル 音量バランス	音色の組み合わせごとの設定値	F8.1	F7.1
F3.2	F3.2	デュアル 音の高さのずらし具合	音色の組み合わせごとの設定値		
F3.3、F3.4	F3.3、F3.4	デュアル オクターブシフト	音色の組み合わせごとの設定値		
F3.5、F3.6	F3.5、F3.6	デュアル エフェクトのかかり具合	音色の組み合わせごとの設定値		
F4.1	—	スプリットポイント	F#2		
F4.2	—	スプリット 音量バランス	音色の組み合わせごとの設定値		
F4.3、F4.4	—	スプリット オクターブシフト	音色の組み合わせごとの設定値	F8.4	—
F4.5、F4.6	—	スプリット エフェクトのかかり具合	音色の組み合わせごとの設定値		F7.4
F4.7	—	スプリット ダンパーペダル有効域	1 (右側の音色)		
F5.1	F4.1	[PLAY/PAUSE]機能のペダルへの割り当て	OFF		
F5.2	F4.2	ハーフペダルポイント	0	—	—
F5.3	F4.3	ダンパー・レゾナンスのかかり具合	音色ごとの設定値	F8.1	F7.1
F5.4	F4.4	ソフトペダル効果のかかり具合	5	F8.4	F7.4
F5.5	—	ストリングレゾナンスのかかり具合	5		—
F5.6	—	サステインサンプリングのかかり具合	5		—
F5.7	—	キーオフ音の音量	5		—
F5.8	F4.5	MIDIソング再生チャンネル	ALL (オール)	—	F7.4

ファンクション番号		項目	初期設定値	バックアップオン/オフ設定	
CLP-470/ 440/S408/ S406	CLP-430			CLP-470/ 440/S408/ S406	CLP-430
F6.1	F5.1	メトロノーム音量	15	F8.1	F7.1
F6.2	F5.2	オーディオソング再生音量	16	F8.4	F7.4
F7.1	F6.1	MIDI送信チャンネル	1	F8.2	F7.2
F7.2	F6.2	MIDI受信チャンネル	ALL (オール)		
F7.3	F6.3	ローカルコントロール	ON		
F7.4	F6.4	プログラムチェンジ	ON		
F7.5	F6.5	コントロールチェンジ	ON		
F8.1～F8.4	F7.1～F7.4	バックアップ設定	音色関連項目の設定のみ OFF、その他の設定はON	*	*
F8.5	F7.5	文字種の切り替え	JA		

「*」の項目は常にバックアップされます。

クラビノーバを組み立てる

組み立て時の注意

⚠ 注意

- 硬くて平らな場所で組み立ててください。
- 部品をまちがえたり、向きをまちがえないように注意して、手順どおりに組み立ててください。
- 組み立ては、必ず2人以上で行なってください。
- ネジは付属の指定サイズ以外のものは使用しないでください。サイズの違うネジを使用すると、製品の破損や故障の原因になることがあります。
- ネジは各ユニット固定後、ゆるみがないようきつく締め直してください。
- 解体するときは、組み立てと逆の手順で行なってください。

ネジのサイズに合ったプラス(+)のドライバーを用意してください。



組み立て後、必ず以下の点をチェックしてください。

- 部品が余っていませんか？
→ 組み立て手順を再確認してください。
- 部屋のドアなどがクラビノーバにあたりませんか？
→ クラビノーバを移動してください。
- クラビノーバがぐらぐらしませんか？
→ ネジを確実に締めてください。
- ペダルを踏むと、ペダルボックスがガタガタしませんか？
→ アジャスターを回して床にぴったりつけてください。
- ペダルコード、電源コードのプラグが、確実に本体に差し込まれていますか？
→ 確認してください。
- 使用中に本体がさしむ、横ゆれする、ぐらぐらするなどの症状が出たら、組み立て図に従って各部のネジを締め直してください。

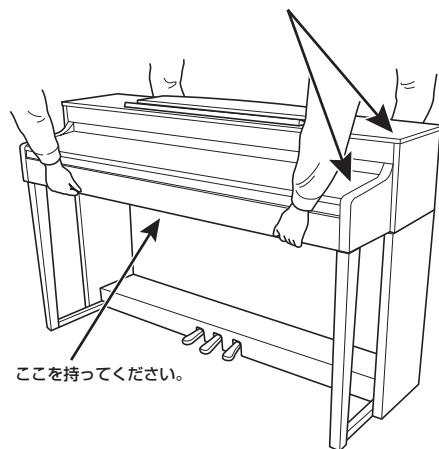
組み立てかた	
CLP-470	63ページ
CLP-440/430	66ページ
CLP-S408	69ページ
CLP-S406	72ページ

470 | 440 | 430 | S408 | S406

⚠ 注意

組み立て後、本体を移動するときは、必ず本体の底面を持ってください。(CLP-470は、本体の底面と、背面の取っ手を持ってください。) 天板やキーカバーを持たないでください。本体が破損したり、お客様がけがをしたりする原因になります。

ここを持たないでください。



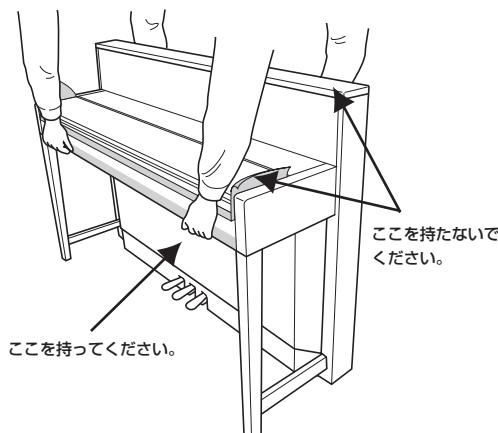
470 | 440 | 430 | S408 | S406

⚠ 注意

組み立て後、本体を移動するときは、必ず本体の底面と背面の取っ手を持ってください。天板やキーカバーを持たないでください。本体が破損したり、お客様がけがをしたりする原因になります。

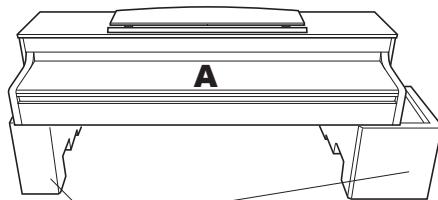
注記

傷防止のため、本体移動時は鍵盤保護シート(69、72ページ)で鍵盤全体を覆ってからキーカバーを閉じてください。鍵盤保護シートは、移動の際必要となりますので保管してください。



CLP-470の組み立てかた

すべての部品を取り出し、部品がそろっていることを確かめてください。



スチロールパッド
スチロールパッドを取り出し、その上にAを置く。
スチロールパッドはA底面のスピーカーボックスを避けて配置する。



裏側にペダルコードが束ねてあります。



ペダルには、工場出荷時にビニール袋をかぶせてあります。GPIレスポンスダンパー・ペダルの効果を最大にするため、ビニール袋を外してください。

ネジセット

長いネジ(6×20mm): 4本 先のとがったネジ(4×20mm): 4本



短いネジ(6×16mm): 6本



コードホルダー: 2個



細いネジ(4×12mm): 2本



ヘッドフォンハンガーセット

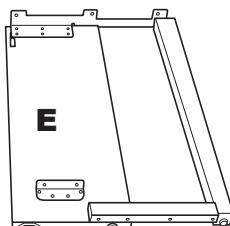
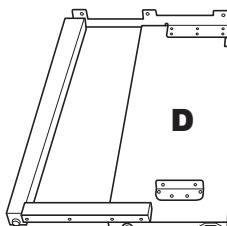
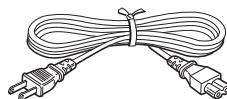
細いネジ(4×10mm): 2本



ヘッドフォンハンガー



電源コード

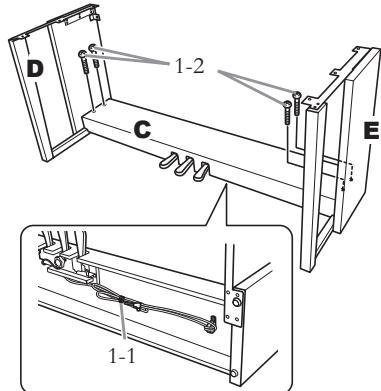


1. DとEをCに固定する

1-1 ペダルコードをほどく。

外したビニールひもは、手順5で使用する。

1-2 長いネジ(6×20mm)4本できつく締め固定する。



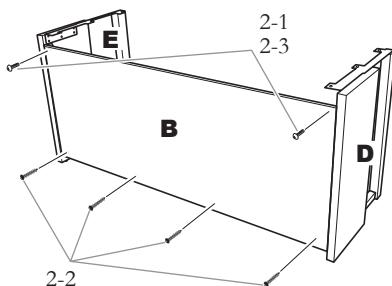
2. Bを固定する

モデルによって、Bの裏表の色が違うものがあります。演奏者側から見てB、D、Eの色が同じになるように取り付けてください。

2-1 Bのネジ穴とD、Eのネジ穴の位置を合わせ、上側を、細いネジ(4×12mm)2本で仮留めする。

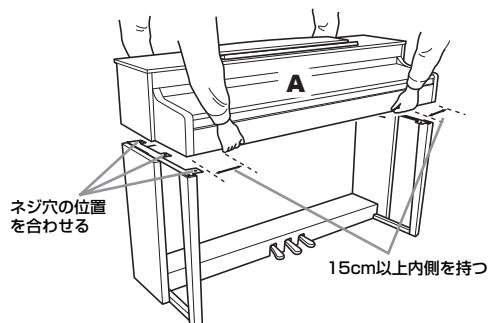
2-2 下側を先のとがったネジ(4×20mm)4本で締め固定する。

2-3 仮留めした上側のネジ(手順2-1)をきつく締め直す。



3. Aを載せる

本体を持つときは底面端から15cm以上内側の位置と、背面の取っ手を持ってください。



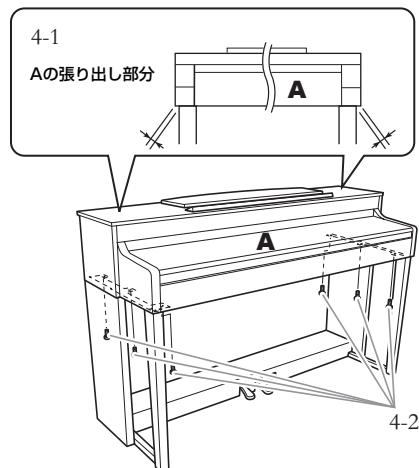
⚠ 注意 指をはさんだり、本体を落としたりしないよう十分ご注意ください。

⚠ 注意 指定した位置以外を持たないでください。

4. Aを固定する

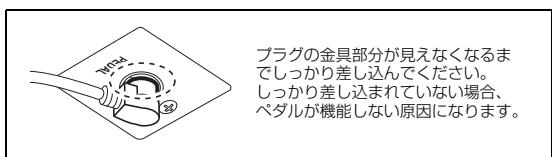
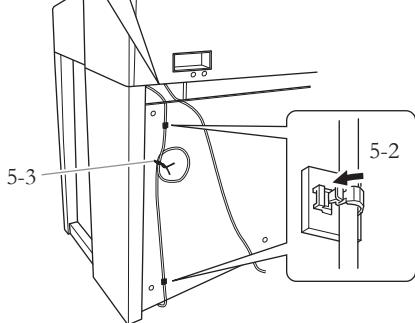
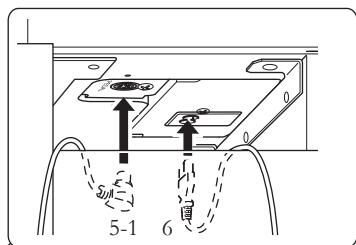
4-1 前面から見て、Aの張り出し部分が左右均等になるように調整する。

4-2 前面から、短いネジ(6×16mm)6本で固定する。



5. ペダルコードを接続する

- 5-1 ペダルコードのプラグをペダル端子に差し込む。
- 5-2 コードホルダーを貼り付け、ペダルコードを固定する。
- 5-3 ペダルコードをビニールひもで束ねる。

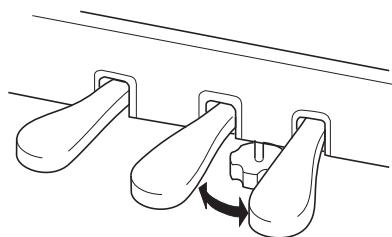


6. 電源コードを接続する

電源コードのプラグを差し込む。

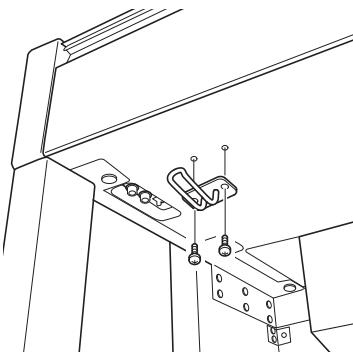
7. アジャスターを回す

アジャスターを回して、床にぴったりつける。



8. ヘッドフォンハンガーを固定する

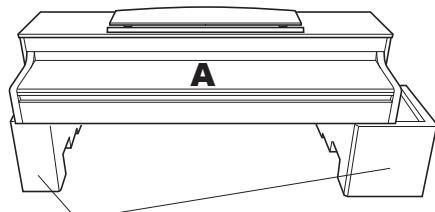
細いネジ(4×10mm)2本で、図のように取り付ける。



CLP-440/430の組み立てかた

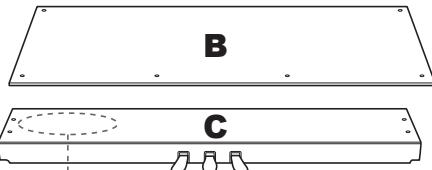
すべての部品を取り出し、部品がそろっていることを確かめてください。

*イラストはCLP-440を使用しています。

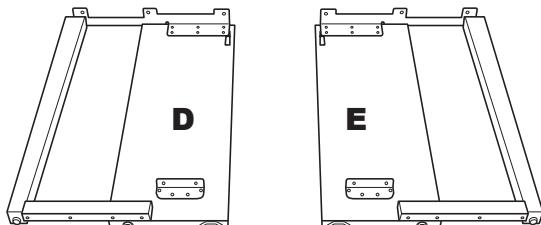


スチロールパッド

スチロールパッドを取り出し、その上にAを置く。
スチロールパッドはA底面の端子を避けて配置する。



裏側にペダルコードが束ねてあります。



ネジセット

長いネジ(6×20mm): 4本 先のとがったネジ(4×20mm): 4本



短いネジ(6×16mm): 6本



コードホルダー: 2個



細いネジ(4×12mm): 2本



ヘッドフォンハンガーセット

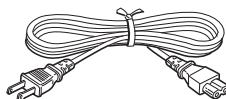
細いネジ(4×10mm): 2本



ヘッドフォンハンガー



電源コード

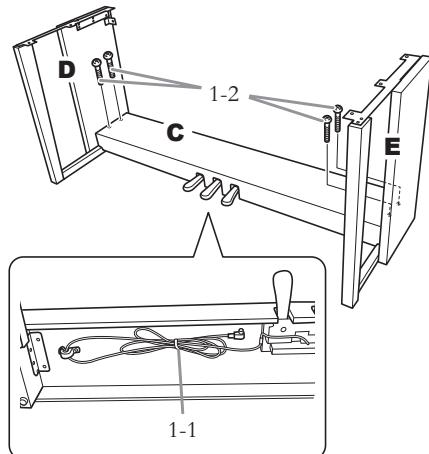


1. DとEをCに固定する

1-1 ペダルコードをほどく。

外したビニールひもは、手順5で使用する。

1-2 長いネジ(6×20mm) 4本できつく締め固定する。



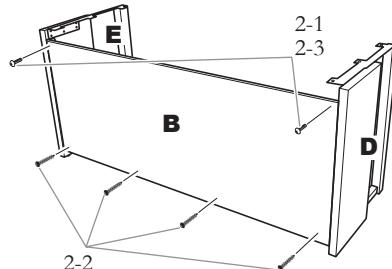
2. Bを固定する

モデルによって、Bの裏表の色が違うものがあります。演奏者側から見てB、D、Eの色が同じになるように取り付けてください。

2-1 Bのネジ穴とD、Eのネジ穴の位置を合わせ、上側を細いネジ(4×12mm) 2本で仮留めする。

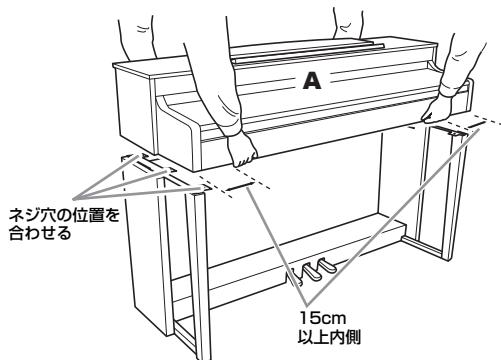
2-2 下側を先のとがったネジ(4×20mm)4本で締め固定する。

2-3 仮留めした上側のネジ(手順2-1)をきつく締め直す。



3. Aを載せる

本体を持つときは底面端から15cm以上内側を持ってください。



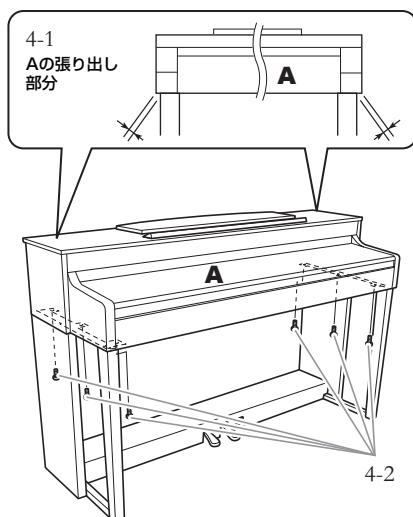
⚠ 注意 指をはさんだり、本体を落としたりしないよう十分ご注意ください。

⚠ 注意 指定した位置以外を持たないでください。

4. Aを固定する

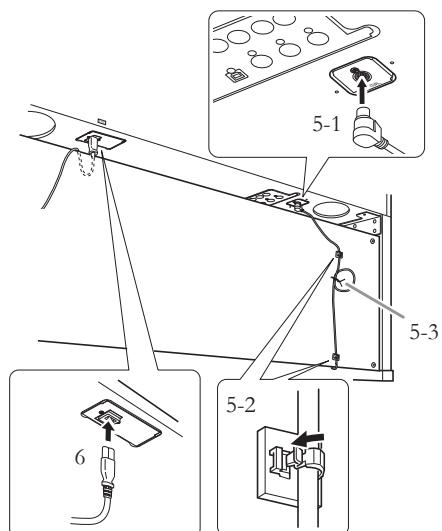
4-1 前面から見て、Aの張り出し部分が左右均等になるように調整する。

4-2 前面から、短いネジ(6×16mm) 6本で固定する。



5. ペダルコードを接続する

- 5-1 ペダルコードのプラグをペダル端子に差し込む。
- 5-2 コードホルダーを貼り付け、ペダルコードを固定する。
- 5-3 ペダルコードをビニールひもで束ねる。



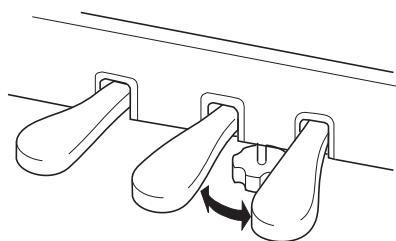
プラグの金具部分が見えなくなるまでしっかりと差し込んでください。しっかりと差し込まれていない場合、ペダルが機能しない原因になります。

6. 電源コードを接続する

電源コードのプラグを差し込む。

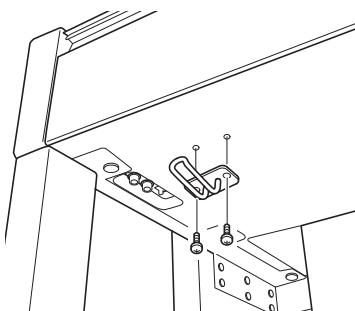
7. アジャスターを回す

アジャスターを回して、床にぴったりつける。



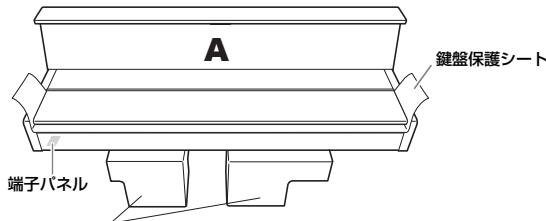
8. ヘッドフォンハンガーを固定する

細いネジ(4×10mm) 2本で、図のように取り付ける。



CLP-S408の組み立てかた

すべての部品を取り出し、部品がそろっていることを確かめてください。

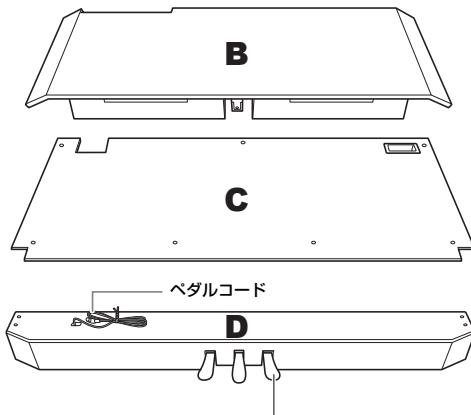


スチロールパッド

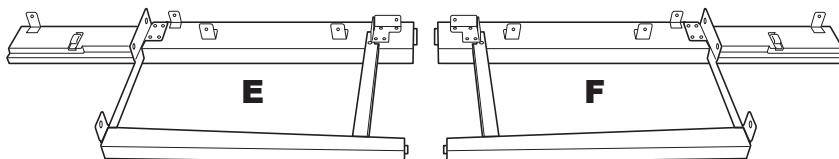
スチロールパッドを取り出し、その上にAを置く。
スチロールパッドはA底面の端子パネルを避けて配置する。

注記

鍵盤保護シートは移動の際必要となりますので保管してください。
本体移動時は、傷防止のため、鍵盤保護シートで鍵盤全体を覆ってからキーパーを閉じてください。



ペダルには、工場出荷時にビニール袋をかぶせてあります。GPレスポンスダンパーペダルの効果を最大にするため、ビニール袋を外してください。



ネジセット

長いネジ(6×20mm): 10本



先のとがったネジ
(4×20mm): 5本



短いネジ(6×16mm): 6本



コードホルダー: 2個



細いネジ(4×14mm): 5本

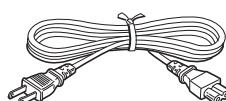


ヘッドフォンハンガーセット

細いネジ(4×10mm): 2本 ヘッドフォンハンガー

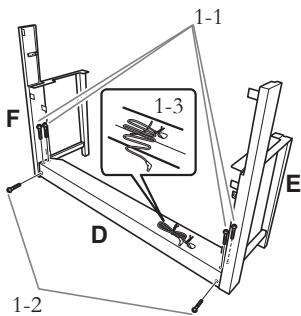


電源コード



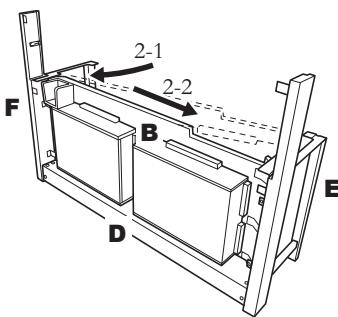
1. EとFをDに固定する

- 1-1 長いネジ(6×20mm) 4本で固定する。
- 1-2 背面を長いネジ(6×20mm) 2本で固定する。
- 1-3 ベダルコードを束ねているビニールひもをほどく。
穴のところで留めてあるひもはほどかない。

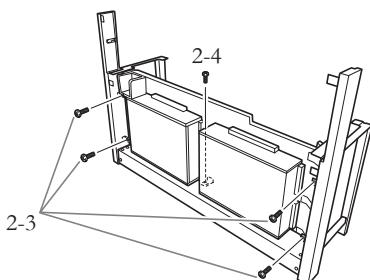


2. Bを仮留めする

- 2-1 Bを図のようにEとFのあいだに入れる。
- 2-2 BをF/D/Eの前側に合わせてはめ込む。

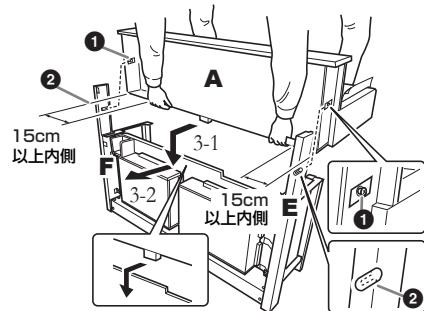


- 2-3 長いネジ(6×20mm) 4本で仮留めする。
金具内の大きい方の穴にネジを差し込み仮留めする。
(4か所とも)
- 2-4 細いネジ(4×14mm) 1本で固定する。
金具内の小さい方の穴にネジを差し込み固定する。



3. Aを載せる

- 3-1 A底面の端から15cm以上内側を持って載せる。
- 3-2 A背面の下にある留め木が前板より後ろになる位置にAを置き、EとFを中央側に軽く押しながらAを後ろにスライドさせる。
このとき、A側面にある2ヶ所のガイドピン①がそれぞれEとFのガイド②に入るようになります。

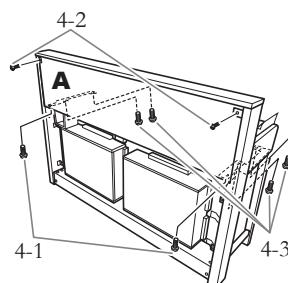


⚠ 注意 指をはさんだり、Aを落としたりしないよう十分ご注意ください。

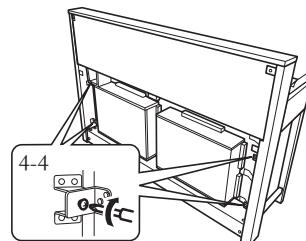
⚠ 注意 指定した位置以外を持たないでください。

4. Aを固定する

- 4-1 背面から、短いネジ(6×16mm) 2本で固定する。
- 4-2 背面から、細いネジ(4×14mm) 2本で固定する。
- 4-3 前面から、短いネジ(6×16mm) 4本で固定する。

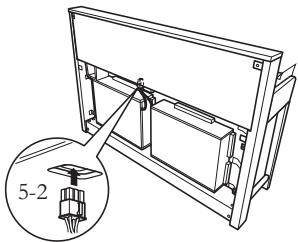


- 4-4 Bを仮留めしたネジをきつく締め直す。



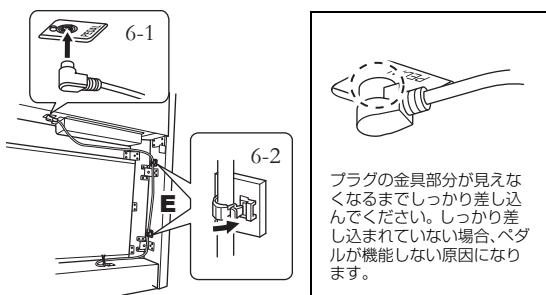
5. スピーカーコードを接続する

- 5-1 スピーカーコードをほどく。
- 5-2 スピーカーコードのプラグを、背面から見てつめが右にくる向きで、端子に差し込む。



6. ペダルコードを接続する

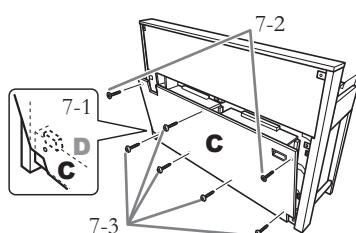
- 6-1 ペダルコードのプラグをペダル端子に差し込む。
- 6-2 コードホルダーを貼り付け、ペダルコードを固定する。このとき、プラグとコードホルダーの間でペダルコードが大きくなるないように注意する。



プラグの金具部分が見えなくなるまでしっかりと差し込んでください。しっかりと差し込まれていない場合、ペダルが機能しない原因になります。

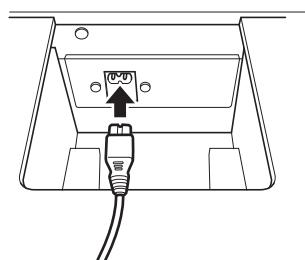
7. Cを固定する

- 7-1 Cの下側にある留め木をDにのせてから、上側にはめる。
- 7-2 上側の左右を、細いネジ(4×14mm) 2本で固定する。
- 7-3 上側の中央と下側を、先のとがったネジ(4×20mm) 5本で固定する。



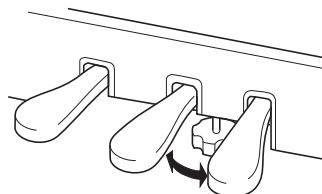
8. 電源コードを接続する

本体背面の[AC IN]端子に、電源コードを差し込む。



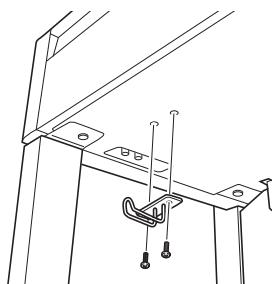
9. アジャスターを回す

アジャスターを回して、床にぴったりつける。



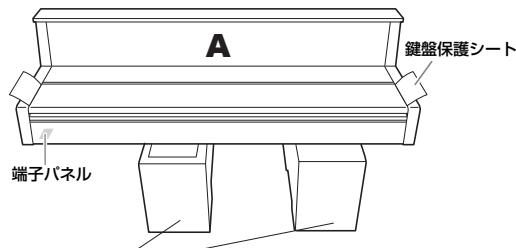
10. ヘッドフォンハンガーを固定する

細いネジ(4×10mm) 2本で、図のように取り付ける。



CLP-S406の組み立てかた

すべての部品を取り出し、部品がそろっていることを確かめてください。



スチロールパッド
スチロールパッドを取り出し、その上にAを置く。
スチロールパッドはA底面の端子パネルを避けて配置する。

注記

鍵盤保護シートは移動の際必要となりますので保管してください。
本体移動時は、傷防止のため、鍵盤保護シートで鍵盤全体を覆ってからキークーラーを閉じてください。

ネジセット

長いネジ(6×25mm): 6本 短いネジ(6×16mm): 6本

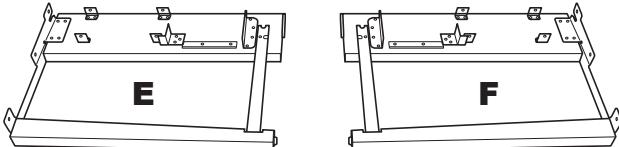
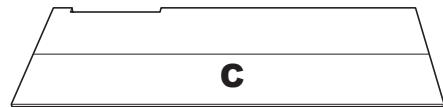


細いネジ(4×16mm): 11本 コードホルダー: 2個

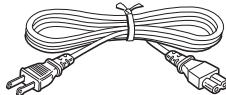


ヘッドフォンハンガーセット

細いネジ(4×10mm): 2本 ヘッドフォンハンガー



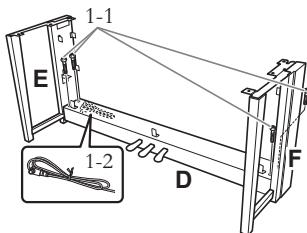
電源コード



1. EとFをDに固定する

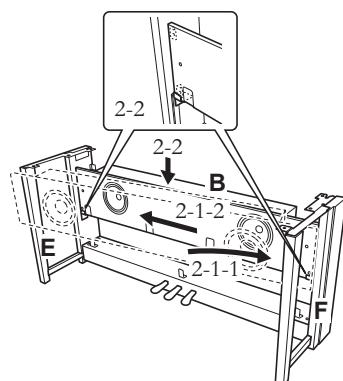
1-1 長いネジ(6×25mm) 4本で固定する。

1-2 ペダルコードを束ねているビニールひもをほどく。



2. Bを取り付ける

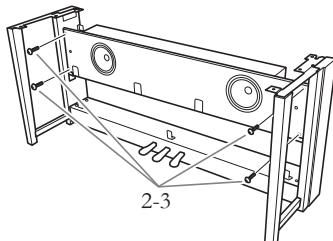
2-1 Bを図のようにEとFのあいだに入れる。



2-2 Bを金具の上に載せる。

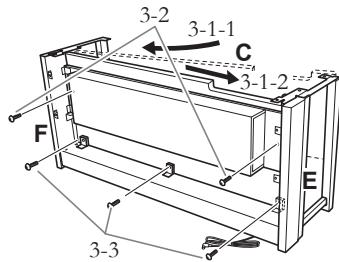
2-3 前側から細いネジ(4×16mm) 4本で固定する。

⚠ 注意 Bについているスピーカーには触れないでください。



3. Cを取り付ける

3-1 Cを前側からはめる。

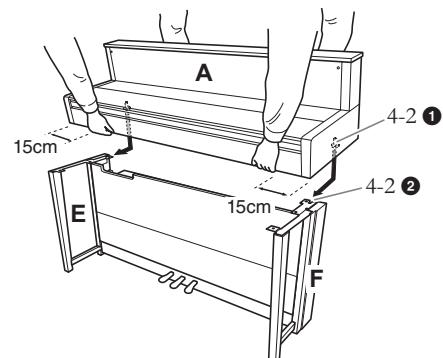


3-2 裏側からCの上部を長いネジ(6×25 mm) 2本で固定する。

3-3 裏側からCの下部を細いネジ(4×16 mm) 3本で固定する。

4. Aを載せる

4-1 A底面の端から15cm以上内側を持って載せる。



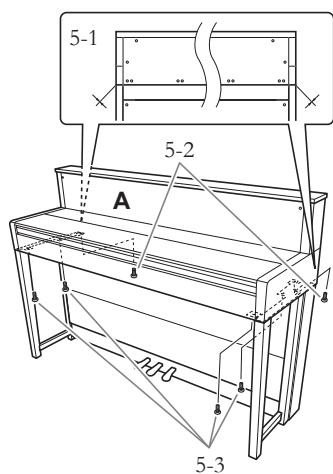
4-2 Aのガイドピン①がEとFのガイド②に入るよう Aをスライドさせる。

⚠ 注意 指をはさんだり、Aを落としたりしないよう十分ご注意ください。

⚠ 注意 指定した位置以外を持たないでください。

5. Aを固定する

- 5-1 背面から見て、Aの張り出し部分が左右均等になるよう調整する。

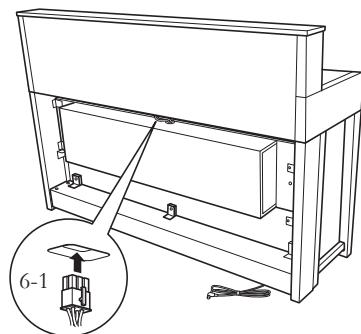


- 5-2 背面から、短いネジ(6×16mm) 2本で固定する。

- 5-3 前面から、短いネジ(6×16mm) 4本で固定する。

6. スピーカーコードを接続する

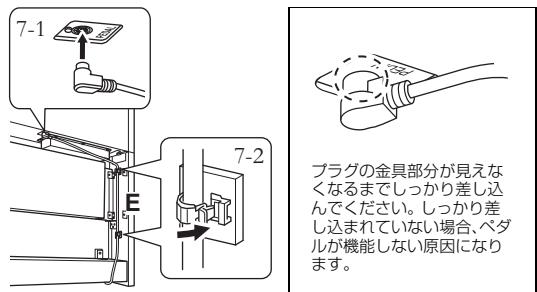
- 6-1 スピーカーコードのプラグを、背面から見てつめが右にくる向きで、端子に差し込む。



7. ペダルコードを接続する

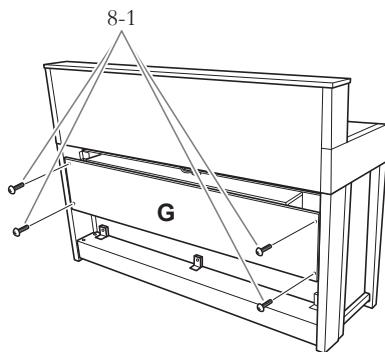
- 7-1 ペダルコードのプラグをペダル端子に差し込む。

- 7-2 コードホルダーを貼り付け、ペダルコードを固定する。このとき、プラグとコードホルダーの間でペダルコードが大きくたるまないように注意する。



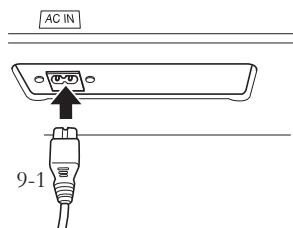
8. Gを取り付ける

- 8-1 細いネジ(4×16mm)4本で固定する。



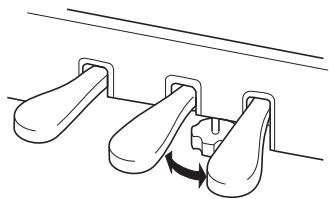
9. 電源コードを接続する

- 9-1 本体背面の[AC IN]端子に、電源コードを差し込む。



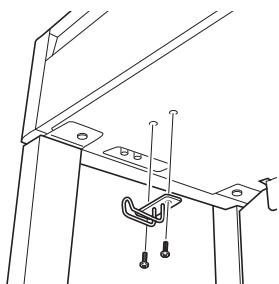
10. アジャスターを回してペダルを固定する

アジャスターを回して、床にぴったりつける。



11. ヘッドフォンハンガーを固定する

付属の細いネジ(4×10 mm)2本で、図のように取り付ける。



仕様

		CLP-470	CLP-440	CLP-430	CLP-S408	CLP-S406				
サイズ/質量	幅 [つや出し仕上げのモデル]	1420mm [1424mm]		[1449mm]		1407mm				
	高さ [つや出し仕上げのモデル]	907mm [909mm]		[977mm]		975mm				
	高さ(譜面立てを立てた場合) [つや出し仕上げのモデル]	1076mm [1077mm]		1061mm [1062mm]	—					
	奥行き	513mm		431mm	438mm					
	質量 [つや出し仕上げのモデル]	74.0kg [80.0kg]	66.0kg [71.0kg]	60.5kg [65.5kg]	[77.5kg]	69.5kg				
操作子	鍵盤数	88								
	鍵盤種	NW鍵盤象牙調 仕上げ(白鍵に 木材を使用)	GH3鍵盤象牙調 仕上げ	GH3	NW鍵盤象牙調 仕上げ(白鍵に 木材を使用)	GH3鍵盤象牙調 仕上げ				
	リニアグレードハンマー	○	—	○	—	—				
	タッチ感度	○								
	ペダル数	3 (ダンパー、ソステヌート、ソフト)								
	ハーフペダル	○ (ダンパー+ペダル)								
	GPレスポンスダンパー+ペダル	○	—	○	—	—				
	ディスプレイ	アセグメントLED								
	パネル言語	英語								
本体	キーカバー(鍵盤蓋)	スライド式		折りたたみ式						
	譜面立て	○								
	譜面止め	○	—	—						
音源/音色	音源方式	リアルグランドエクスプレッション(RGE)								
	ピアノ音源の効果	スムースリリース	○							
		サステインサンプリング	○	—	○	—				
		キーオフサンプリング	○	—	○	—				
		ストリングレジナンス	○	—	○	—				
	最大同時発音数	256		128	256					
	音色数	14 × 2バリエーション		14	14 × 2バリエーション					
効果/機能	ブリリアンス	5タイプ								
	リバーブ	4タイプ								
	エフェクト	4タイプ								
	デュアル	○								
	スプリット	○	—	—	○	—				
	インテリジェント アコースティック コントロール	○								
録音/再生 (MIDIソング)	録音	曲数	10							
		トラック数	2							
		データ容量(最大)	約1.5MB(約550KB/曲)							
	再生	データ容量(最大)	約550KB/曲							
	プリセットソング	曲数	50(ピアノ曲)							
	フォーマット	録音	SMF(フォーマット0)							
		再生	SMF(フォーマット0、フォーマット1)、ESEQ(ピアノプレーヤ用ソングのみ)							
録音/再生 (オーディオ ソング)	時間(最大)	80分/曲								
	フォーマット	.wav(サンプリング周波数44.1kHz、量子化ビット数16bit、stereo)								
全体設定	メトロノーム	○								
	テンポ	○								
	トランスポーズ	○								
	チューニング	○								
	スケール(音律)	7タイプ								

		CLP-470	CLP-440	CLP-430	CLP-S408	CLP-S406
メモリー	内蔵メモリー	約1.5MB				
	外付けドライブ	USB記憶装置(別売)				
接続端子	ヘッドフォン	× 2				
	MIDI	[IN][OUT][THRU]				
	AUX IN	[L/L+R][R]				
	AUX OUT	[L/L+R][R]				
	[USB TO DEVICE]	○				
	USB [TO HOST]	○				
アンプ/ スピーカー	アンプ出力	40W × 2	30W × 2	40W × 2		
	スピーカー	(16cm + 5cm) × 2	16cm × 2	(16cm + 5cm) × 2		
電源	定格電源	AC100V 50/60Hz				
	消費電力	45W	25W	45W		
付属品	保証書、取扱説明書(本書)、ピアノで弾く名曲50選(楽譜集)、ヘッドフォン、電源コード、高低自在イス、ユーザー登録のご案内					

仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

別売品のご紹介

ヘッドフォン HPE-160



索引

G

GPレスポンスダンパー・ペダル 16

I

I. A.コントロール 15

M

MIDI設定 51

MIDIソング 26

MIDIデータフォーマット 7

MIDI入門 7

MIDI録音 31

P

PDFマニュアル 7

U

USB記憶装置 42

イ

一時停止 28

移調 22

インテリジェント アコースティック コントロール 15

エ

エフェクト 21

エフェクト(スプリット) 49

エフェクト(デュアル) 48

オ

オーディオソング 26

オーディオ変換 37

オーディオ録音 31

お手入れ 19

音色 20

音色(デュアル) 23

音律(調律法) 47

音量(オーディオソング再生) 50

音量(スプリット) 49

音量(デュアル) 48

音量(マスター・ボリューム) 15

音量(メトロノーム) 50

カ

外部ソング 26

画面→メッセージ 55

キ

キーオフ音(キーオフサンプリング) 50

キーカバー 12

キー(調) 22

基音 47

ク

組み立て 62

繰り返し再生 30

コ

コピー 38

困ったときは 56

コンピューター 43

サ

削除(本体に録音したソング) 34

削除(USB記憶装置内のソング) 38

サステインサンプリング 50

シ

初期化(本体) 54

初期化(USB記憶装置) 39

初期設定一覧 60

初期設定とは 54

シンクロスタート 28

ス

スケール→音律 47

ストリングレゾナンス 50

スピーカー 15

スプリット 24, 48

ソ

ソング 26

タ

タッチ感度 17

端子 40

ダンパーレゾナンス 49

チ

チューニング(音の高さ) 47

調→キー 22

調律(音の高さ) 47

調律法(音律) 47

テ

デモ曲 20

デュアル 23, 48

電源 14

テンポ(ソング再生) 27

テンポ(メトロノーム) 18

ト

ドライブ 26

トランスポーズ 22

ハ

パート(再生) 29

パート(録音) 33

ハーフペダル 16

バックアップオン/オフの設定 52

バックアップデータの保存/読み込み 53

早送り 28

バリエーション 20

ヒ

ピアノデモ 21

拍子 18

表示→メッセージ 55

フ

ファイル操作 36

ファンクション 45

ファンクションでの基本操作 46

フォーマット(初期化) 39

付属品 7

ふた→キーカバー	12
譜面立て	13
譜面止め	14
プリセットソング	26
プリアンス	21

へ

ペダル	16, 49
ヘッドフォン	15, 77
ヘッドフォンハンガー	15
変換→オーディオ変換	37

木

ボイス→音色	20
ボリューム→音量(オーディオソング再生)	50
ボリューム→音量(スプリット)	49
ボリューム→音量(デュアル)	48
ボリューム→音量(マスターボリューム)	15
ボリューム→音量(メトロノーム)	50

マ

巻き戻し	28
------------	----

ミ

ミュージックソフトダウンローダー	44
------------------------	----

メ

メッセージ	55
メトロノーム	18

モ

文字種	53
-----------	----

ユ

ユーザーソング	26
---------------	----

リ

リバーブ	21
リピート→繰り返し	30

□

録音	31
録音データ	34

メモ

メモ

メモ

保証とアフターサービス

サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはヤマハ修理ご相談センターにご連絡ください。

● 保証書

本機には保証書がついています。

保証書は販売店がお渡しますので、必ず「販売店印・お買い上げ日」などの記入をお確かめのうえ、大切に保管してください。

● 保証期間

お買い上げ日から本体は1年間、ヘッドフォンは6ヶ月です。

● 保証期間中の修理

保証書記載内容に基づいて修理いたします。詳しくは保証書をご覧ください。

● 保証期間経過後の修理

修理すれば使用できる場合は、ご希望により有料にて修理させていただきます。

下記の部品については、使用時間や使用環境などにより劣化しやすいため、消耗に応じて部品の交換が必要となります。

消耗部品の交換は、お買い上げ店またはヤマハ修理ご相談センターへご相談ください。

消耗部品の例

ボリュームコントロール、スイッチ、ランプ、リレー類、接続端子、鍵盤機構部品、鍵盤接点など

● 補修用性能部品の最低保有期間

製品の機能を維持するために必要な部品の最低保有期間は、製造打切後8年です。

● 修理のご依頼

まず本書の「困ったときは」をよくお読みのうえ、もう一度お調べください。

それでも異常があるときは、お買い上げの販売店、またはヤマハ修理ご相談センターへ修理をお申し付けください。

● 製品の状態は詳しく

修理をご依頼いただくときは、製品名、モデル名などとあわせて、故障の状態をできるだけ詳しくお知らせください。

■修理に関するお問い合わせ

ヤマハ修理ご相談センター

ナビダイヤル
(全国共通番号)



0570-012-808

市内通話料でOK

ナビダイヤル® ※一般電話・公衆電話からは、市内通話料金をご利用いただけます。

携帯電話、PHS、IP電話からは TEL 053-460-4830

受付時間 月曜日～金曜日 9:00～18:00、
土曜日 9:00～17:00
(祝日およびセンター指定休日を除く)

FAX 053-463-1127

◆修理品お持込み窓口

受付時間 月曜日～金曜日 9:00～17:45
(祝日および弊社休業日を除く)

* お電話は、ヤマハ修理ご相談センターでお受けします。

北海道サービスステーション

〒064-8543
札幌市中央区南10条西1丁目1-50
ヤマハセンター内
FAX 011-512-6109

首都圏サービスセンター

〒143-0006
東京都大田区平和島2丁目1-1
京浜トラックターミナル内14号棟A-5F
FAX 03-5762-2125

名古屋サービスセンター

〒454-0832
名古屋市中川区清船町4丁目1-11
ピアノ運送株式会社 名古屋営業所1F
FAX 052-363-5903

大阪サービスセンター

〒564-0052
吹田市広芝町10-28
オーク江坂ビルディング2F
FAX 06-6330-5535

九州サービスステーション

〒812-8508
福岡市博多区博多駅前2丁目11-4
FAX 092-472-2137

*名称、住所、電話番号などは変更になる場合があります。

- クラビノーバの機能や取り扱いについては、ご購入の特約店または下記ヤマハお客様コミュニケーションセンターへお問い合わせください。

お客様コミュニケーションセンター 電子ピアノ・キーボードご相談窓口

ナビ ダイヤル  0570-006-808

携帯電話、PHS、IP 電話からは 053-460-5272

営業時間：月曜日～金曜日 10:00～18:00

土曜日 10:00～17:00

(祝日およびセンター指定休日を除く)

<http://jp.yamaha.com/support/>

ピアノ / キーボードのホームページ

<http://jp.yamaha.com/products/musical-instruments/keyboards/>

ヤマハマニュアルライブラリー

<http://www.yamaha.co.jp/manual/japan/>

あなたの音楽生活をフルサポート ミュージックイークラブ

<http://www.music-eclub.com/>

ヤマハ株式会社

デジタル楽器事業部 マーケティング部 CL・PK グループ

〒430-8650 静岡県浜松市中区中沢町 10-1

* 都合により、住所、電話番号、名称、営業時間などが変更になる場合がございますので、あらかじめご了承ください。

U.R.G., Digital Musical Instruments Division

© 2011 Yamaha Corporation

WZ37920 106MWAP*.*-**E0